

第 50 回大阪府新型コロナウイルス対策本部会議

日時：令和 3 年 5 月 25 日（火）14 時 00 分～

場所：大阪府新別館南館 8 階 大研修室

次 第

議 題

（1）現在の感染状況・療養状況等

- ・現在の感染状況について【資料 1 - 1】
- ・現在の療養状況について【資料 1 - 2】
- ・療養者数のシミュレーションについて【資料 1 - 3】
- ・感染状況と医療提供体制の状況について【資料 1 - 4】
- ・（参考）新型コロナウイルスの懸念される変異株について【資料 1 - 5】
- ・滞在人口の推移【資料 1 - 6】
- ・営業時間短縮要請の実効性確保に向けた取組み【資料 1 - 7】

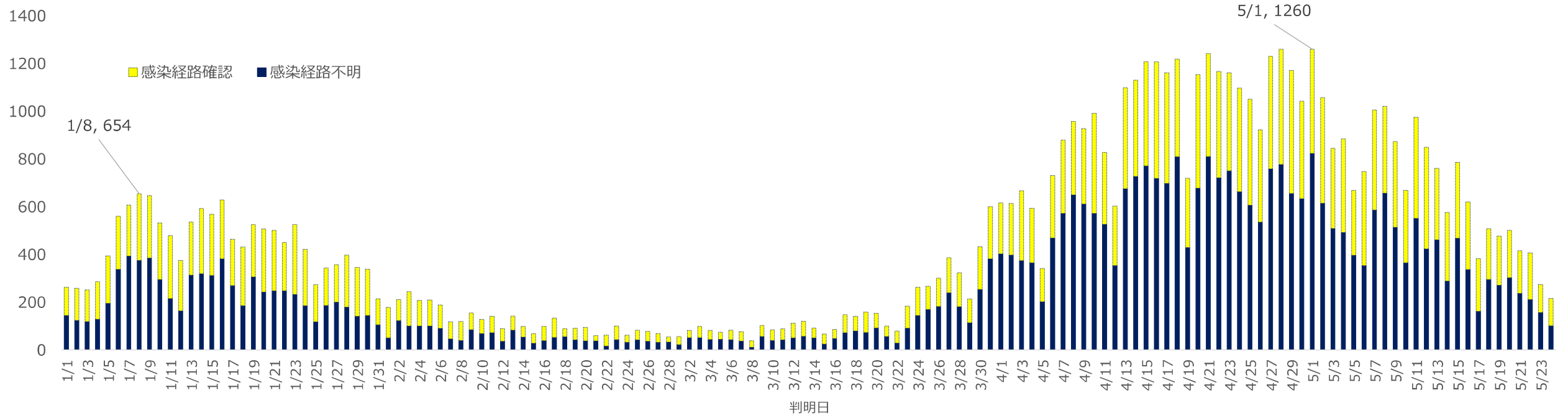
（2）緊急事態措置を実施すべき期間の延長に関する要請等

- ・緊急事態措置を実施すべき期間の延長に関する要請【資料 2 - 1】
- ・専門家のご意見【資料 2 - 2】

- | | | |
|---|------------|--------|
| 1 | 陽性者数等の推移 | P2~13 |
| 2 | 市内・市外の比較 | P14~18 |
| 3 | 年代・居住地別の比較 | P19~23 |
| 4 | 感染経路 | P24~27 |
| 5 | 感染エピソード | P28~39 |

1 陽性者数等の推移

陽性者数の推移



1月14日～2月28日
 緊急事態措置
 レッドステージ（非常事態）2移行
 府民への不要不急の外出自粛要請
 大阪府全域の飲食店及び遊興施設の時短要請
 1月9日
 緊急事態宣言発出要請

3月1日～緊急事態宣言解除
 イエローステージ移行
 黄信号点灯（医療非常事態宣言解除）
 4人以下でのマスク会食の徹底
 歓送迎会・謝恩会・宴会に伴う花見の自粛要請
 大阪府全域の飲食店及び遊興施設の時短要請
 府民への不要不急の外出自粛要請（21日）
 首都圏への往来自粛要請（22日）等
 2月23日
 緊急事態宣言解除要請

3月31日 まん延防止等重点措置要請

4月1日～
 大阪府全域の飲食店及び遊興施設の時短要請
 時短要請20時
 重点措置を講じるべき区域（大阪市）

4月7日 赤信号点灯（医療非常事態宣言）

4月8日 府域における不要不急の外出移動自粛要請

4月9日 週末の外出移動自粛要請

4月14日 大学等でのオンライン授業実施や
 学校での部活動休止、テレワーク
 徹底等を要請

4月20日 緊急事態宣言発出要請

4月23日 緊急事態宣言発出決定

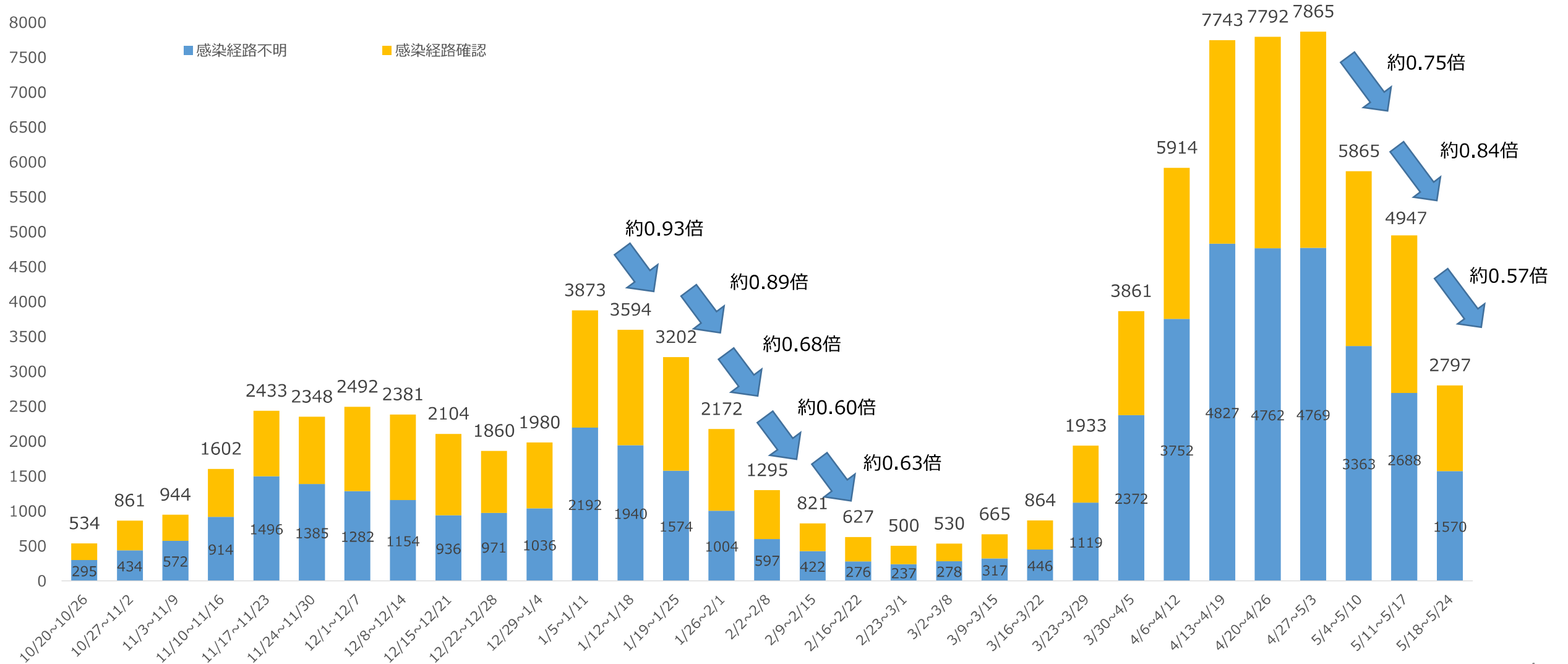
4月25日 緊急事態措置適用（5/11）
 不要不急の外出自粛要請、飲食店・一部
 施設への休業要請等

5月6日 緊急事態宣言延長要請

5月7日 緊急事態宣言延長決定（5/12～5/31）

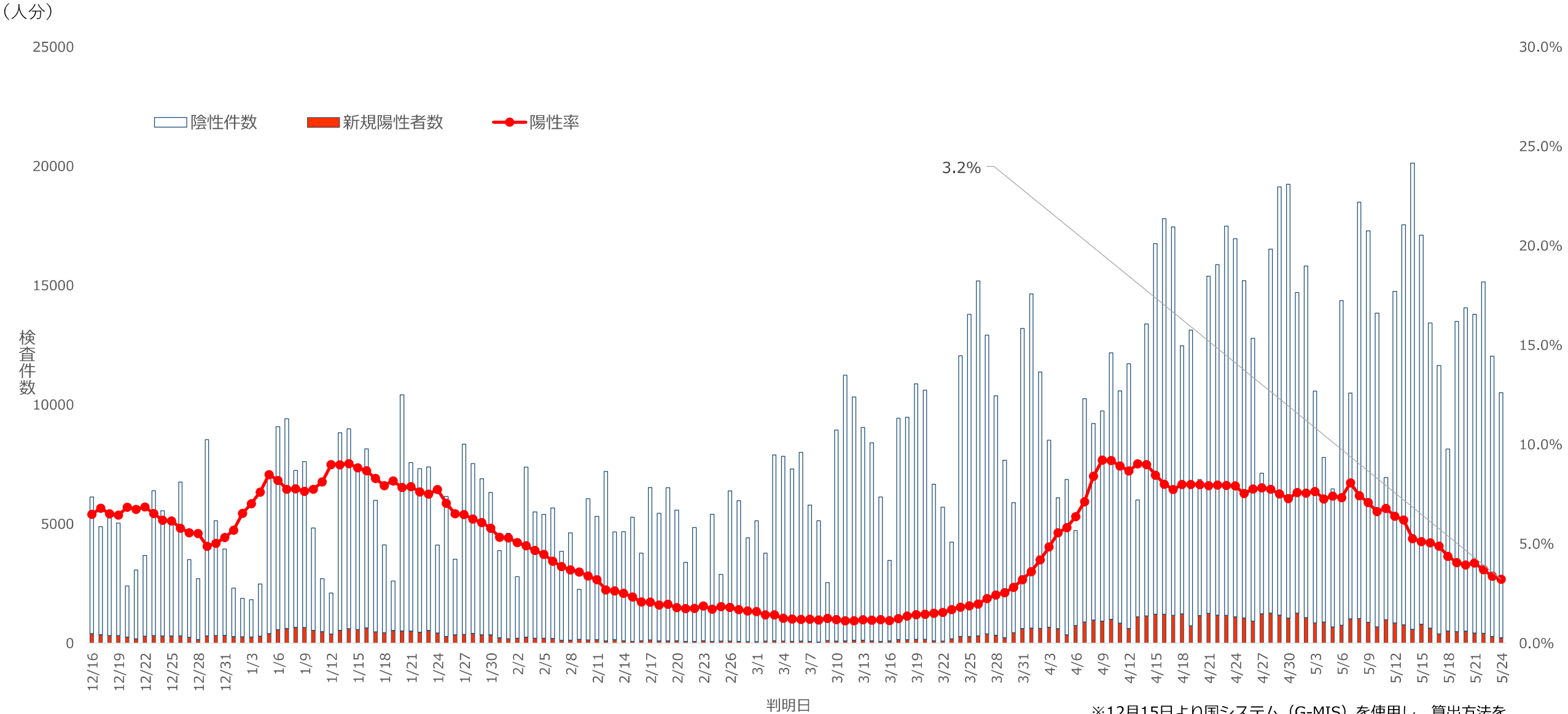
7日間毎の新規陽性者数

◆直近1週間は減少速度が上がったものの、一日平均約400名の新規陽性者が発生しており、依然高水準。
 (第四波は、1か月半で7日間新規陽性者数が7,800名弱(一日平均1,100名程度)まで増加し、3週間継続)



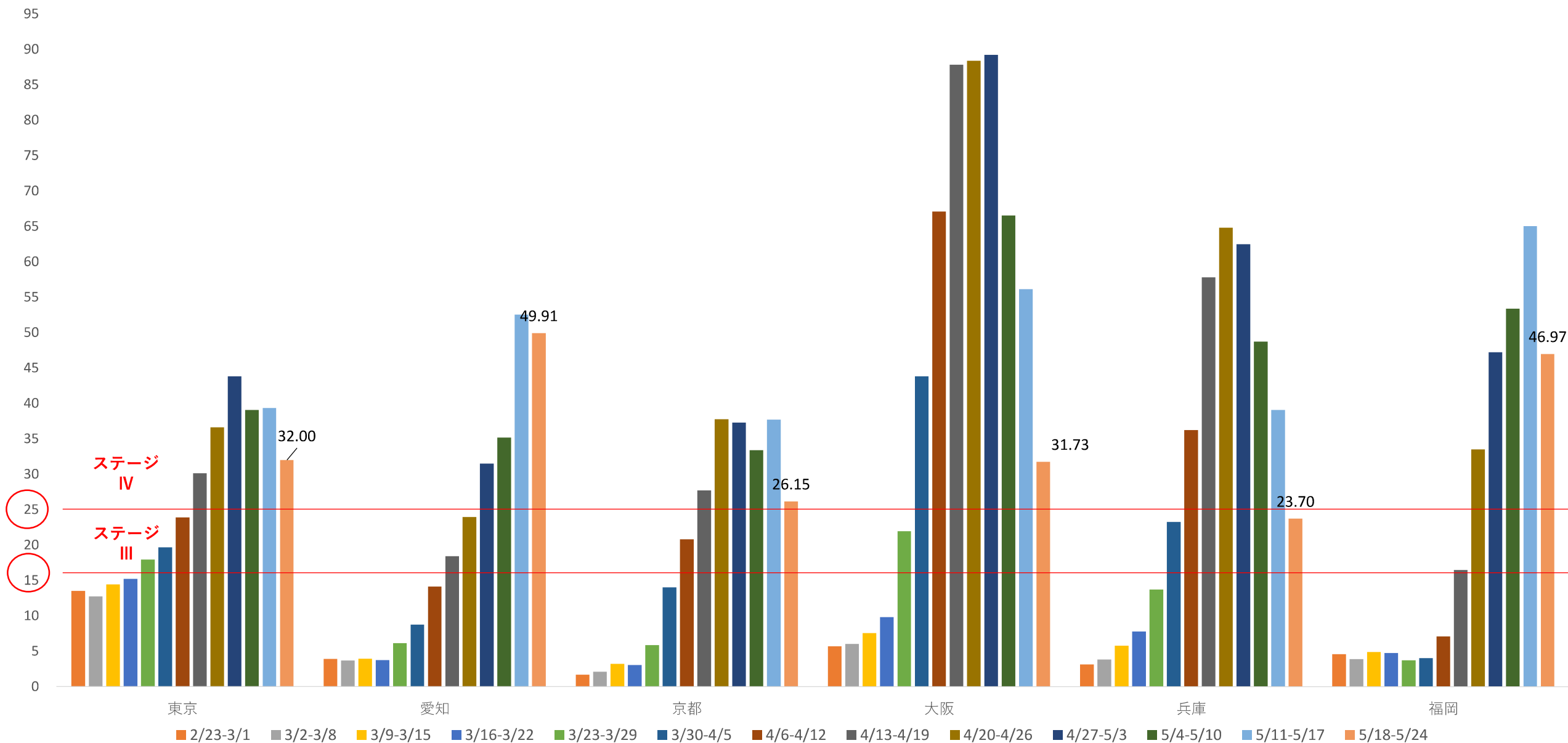
検査件数と陽性率

5月4日をピークに陽性率が減少。



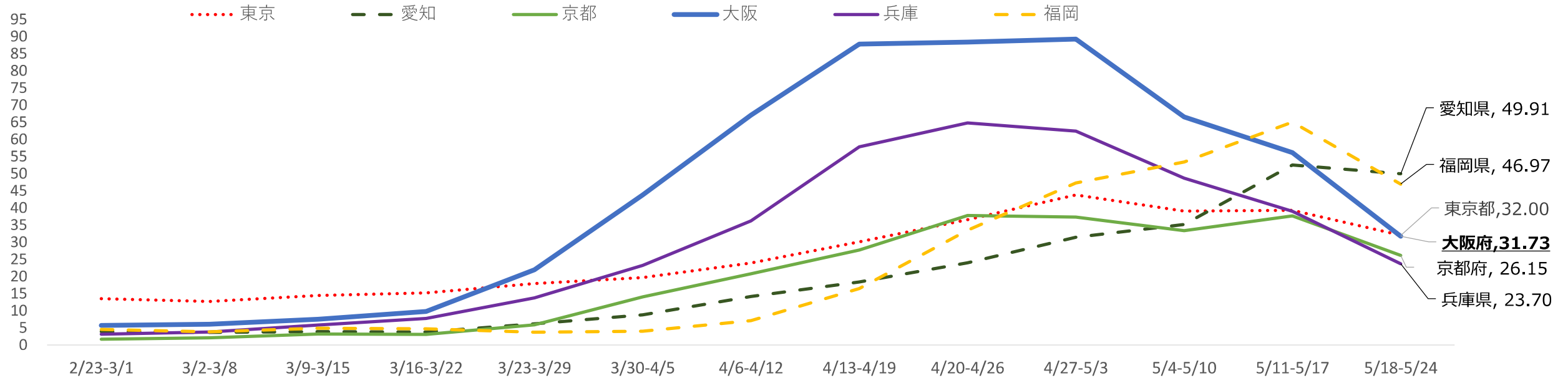
※12月15日より国システム（G-MIS）を使用し、算出方法を「1週間の陽性者数／1週間の検体採取をした人数」に変更

第四波緊急事態宣言発令区域（一部都道府県） 週・人口10万人あたり新規陽性者数



第四波緊急事態宣言発令区域（一部都道府県） 週・人口10万人あたり新規陽性者数

- ◆ 3月以降、関西2府1県は感染が急拡大したが、東京都は関西圏と比較すると感染拡大が抑えられている。愛知県、福岡県は、4月末以降感染が急拡大。
- ◆ 他府県と比べ、関西2府1県は、3月上旬より変異株が本格的に置き変わり始めた。



変異株置き換わりの割合	都府県	3月上旬	4月上旬	5月上旬
	東京都	—	約0.25	約0.75
大阪府	約0.25	約0.75	約1.00	
京都府	約0.25	約0.75	約1.00	
兵庫県	約0.25	約0.75	約1.00	
愛知県	約0.20	約0.50	約0.85	
福岡県	—	約0.25	約1.00	

(※) 501Y変異検出数／501Y-PCRスクリーニング件数（第35回アドバイザリーボード資料3-2を元に記載）。割合は大阪府が資料より推定したものであり、正確を期すものではない。

「大阪モデル」モニタリング指標の状況

病床のひっ迫状況は改善傾向が見られるが、確保病床（224床）における重症病床使用率は、依然、100%を大幅に超過。

分析事項	モニタリング指標	府民に対する警戒の基準	府民に対する非常事態の基準	府民に対する非常事態解除の基準	府民に対する警戒解除の基準	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	現在の状況
(1) 市中での感染拡大状況	①新規陽性者における感染経路不明者7日間移動平均前週増加比	①2以上かつ ②10人以上	—	—	—	0.71	0.66	0.60	0.63	0.59	0.56	0.58	5/4以降1を下回り、減少傾向
	②新規陽性者における感染経路不明者数7日間移動平均		—	—	10人未満	347.29	325.43	302.71	295.29	258.57	232.86	224.29	5/3以降、減少傾向
	【参考①】新規陽性者における感染経路不明者の割合	—	—	—	—	57.9%	56.6%	60.3%	56.9%	52.0%	56.9%	46.8%	概ね40～60%台で推移
(2) 新規陽性患者の拡大状況	③7日間合計新規陽性者数	120人以上かつ 後半3日間で半数以上	—	—	—	4481	4109	3849	3688	3309	2963	2797	5/3以降、減少傾向
	うち後半3日間		—	—	—	1510	1367	1486	1393	1322	1095	896	
	④直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	—	—	—	0.5人未満	50.83	46.61	43.66	41.84	37.54	33.61	31.73	5/3以降、減少傾向
	【参考②】陽性率（7日間）	—	—	—	—	4.4%	4.1%	3.9%	4.0%	3.7%	3.4%	3.2%	5/8以降、減少傾向
(3) 病床等のひっ迫状況	⑤患者受入重症病床使用率（運用率）	—	70%以上 （「警戒（黄色）」信号が点灯した日から起算して25日以内）	7日間連続 60%未満	60%未満	144.6% (92.0%)	149.6% (95.2%)	149.1% (96.0%)	141.1% (90.8%)	140.6% (90.5%)	137.5% (88.5%)	129.0% (83.0%)	5/6以降、減少傾向
	【参考③】患者受入軽症中等症病床使用率	—	—	—	—	72.1%	70.2%	69.0%	68.0%	66.2%	64.2%	65.9%	5/6以降、減少傾向
	【参考④】患者受入宿泊療養施設部屋数使用率	—	—	—	—	34.6%	30.5%	28.4%	26.5%	25.3%	24.5%	23.1%	5/3以降、減少傾向

・大阪モデルの重症病床使用率は、病床確保計画の確保病床数224床で算出。重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く。

・括弧内は、病床確保計画の確保病床数（224床）を上回って確保した病床数を含んだ運用病床に占める、重症病床入院者数（対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く）の割合。

4/20 緊急事態宣言発令要請を決定（第46回対策本部会議）

4/23 緊急事態宣言発令決定、府としての措置を決定（第47回対策本部会議）

新型コロナウイルス感染症対策分科会におけるモニタリング指標の状況

医療のひっ迫具合を示す指標に改善傾向が見られるが、3月1日の緊急事態措置解除の段階と比べると、依然、極めて厳しい状況。

指標		ステージIV 目安	3/1	4/25	5/12	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/24時点の 目安に対する状況	
ステージIV	医療提供体制等の負荷 医療のひっ迫具合	①確保病床占有率	50%以上	30.4% (601/1,978)	88.7% (1,882/2,122)	80.2% (2,087/2,603)	74.7% (1,985/2,657)	73.5% (1,963/2,671)	72.6% (1,935/2,667)	71.0% (1,894/2,667)	69.4% (1,851/2,667)	67.3% (1,796/2,667)	68.2% (1,820/2,670)	●
		②入院率	25%以下	56.1% (601/1,072)	11.3% (1,882/16,692)	9.6% (2,087/21,812)	13.1% (1,985/15,136)	13.5% (1,963/14,538)	14.1% (1,935/13,770)	14.2% (1,894/13,321)	14.6% (1,851/12,702)	15.2% (1,796/11,792)	16.4% (1,820/11,082)	●
		③重症病床確保病床占有率	50%以上	35.0% (143/408)	73.1% (386/528)	67.5% (500/741)	63.0% (471/748)	63.6% (476/748)	63.6% (473/744)	60.9% (453/744)	59.8% (445/744)	58.9% (438/744)	56.3% (419/744)	●
		④人口10万人あたり療養者数	30人以上	12.16	189.36	247.44	171.71	164.92	156.21	151.12	144.09	133.77	125.72	●
	感染の状況	⑤陽性率 1週間平均	10%以上	1.6%	7.5%	6.4%	4.4%	4.1%	3.9%	4.0%	3.7%	3.4%	3.2%	○
		⑥直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数	25人以上	5.67	86.09	69.61	50.83	46.61	43.66	41.84	37.54	33.61	31.73	●
		⑦感染経路不明割合 1週間平均	50%以上	47.4%	61.4%	56.2%	54.3%	55.4%	55.1%	56.0%	54.7%	55.0%	56.1%	●

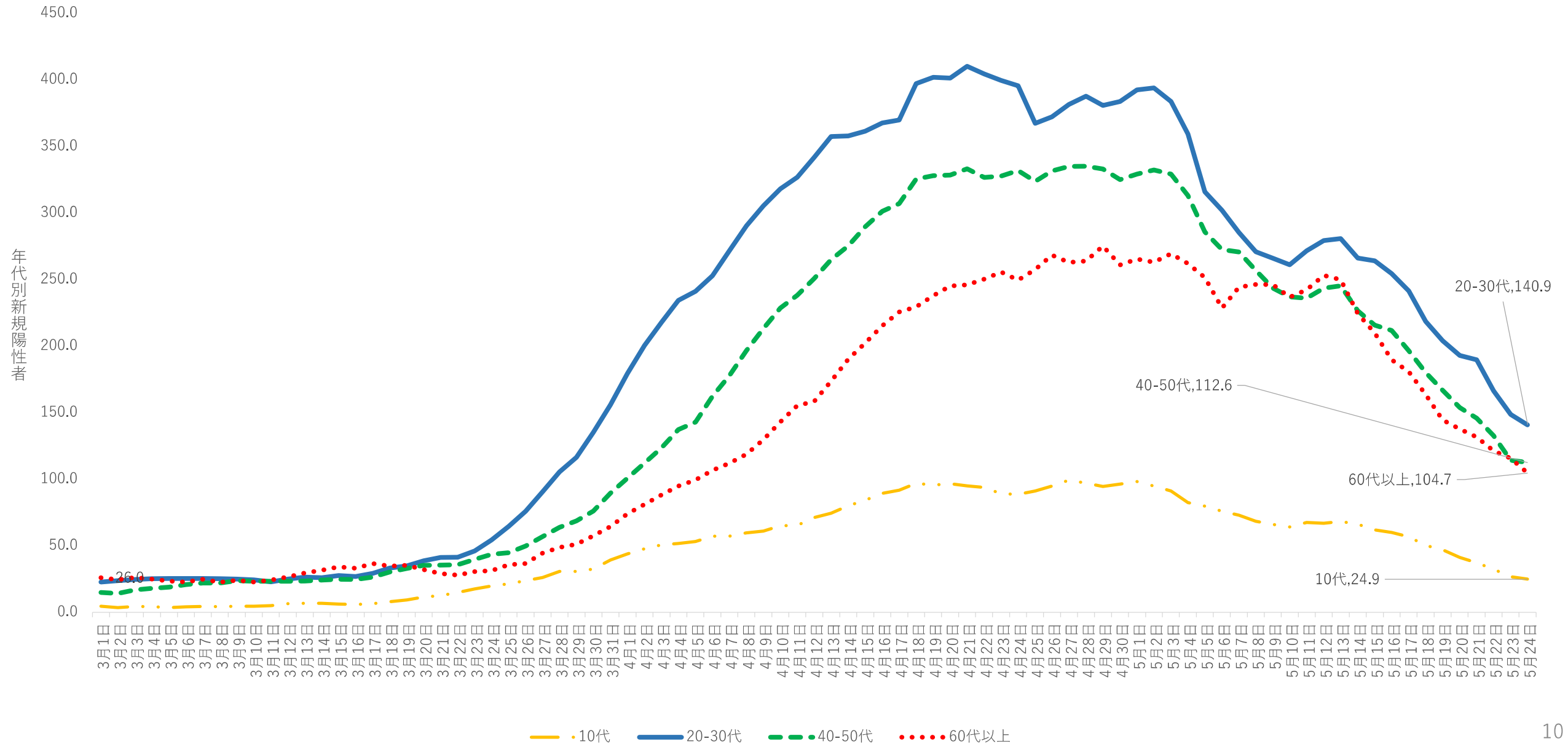
入院率は、人口10万人あたり療養者数が10人以上の場合に適用する。ただし、新規陽性者が発生届が届け出られた翌日までに療養場所の種別が決定され、かつ入院が必要な者が同日までに入院している場合には適用しない。
重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除く。

3/1 緊急事態措置解除
4/25 緊急事態措置適用
5/12 緊急事態措置延長

●：基準外 ○：基準内

年代別新規陽性者数（7日間移動平均）の推移（日別）

各年代で新規陽性者数（7日間移動平均）が減少。

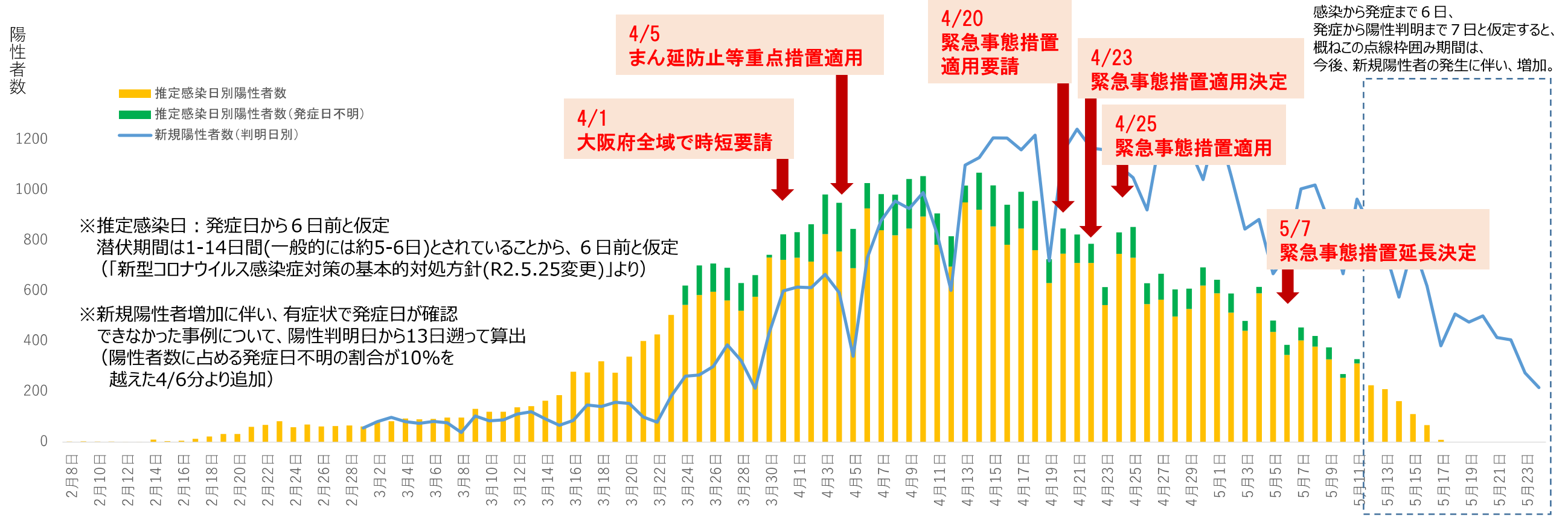


【第四波】推定感染日別陽性者数

推定感染日別陽性者は4月中旬以降、減少。

(ただし、4月6日以降、発症日不明の割合が10%を超過したことから、発症日不明の新規陽性者については、仮定に基づく推定のもと、計上。)

(3月1日以降5月24日までの判明日分) (N=42,605名(調査中、無症状8,227名を除く))



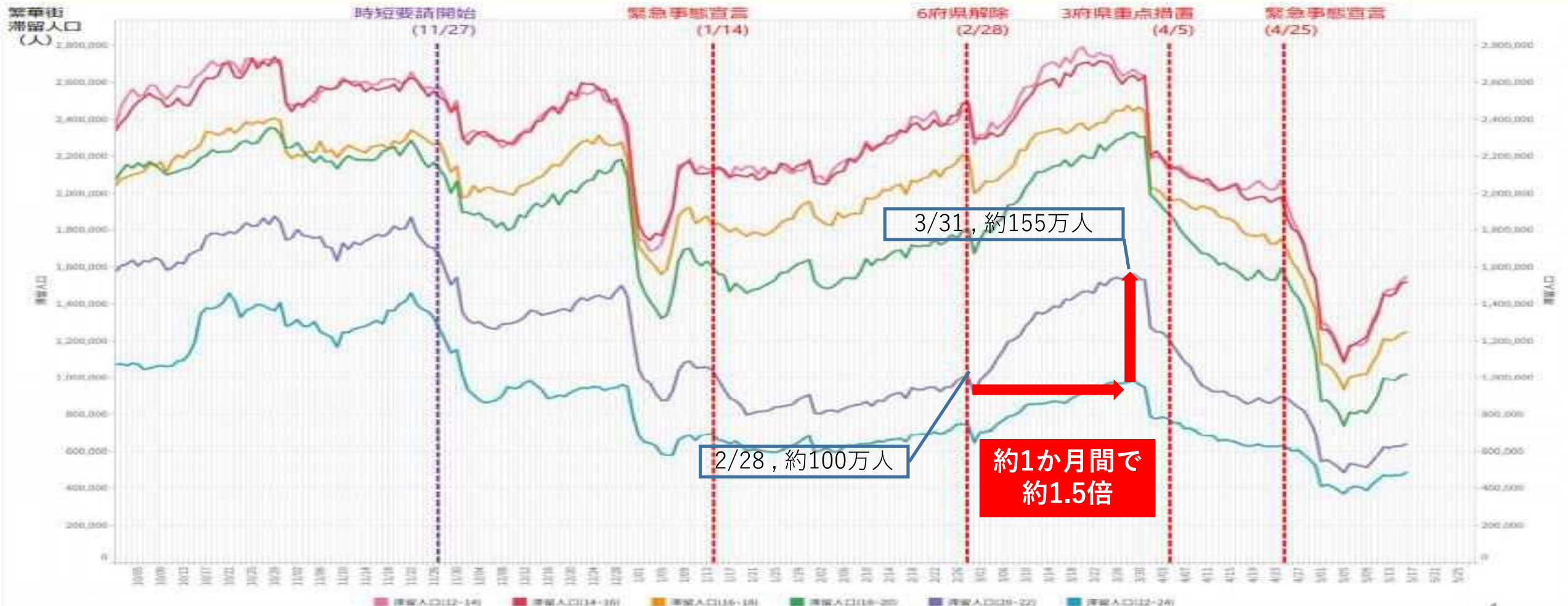
	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	4/1	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24
有症状の陽性者数に占める発症日不明の割合	1.1%	1.7%	2.3%	1.9%	4.7%	0.9%	2.5%	3.1%	5.2%	4.7%	8.8%	5.6%	10.5%	13.4%	11.7%	13.9%	11.1%	10.4%	1.7%	9.2%	9.0%	12.3%	13.0%	16.6%	12.7%	13.9%	12.4%	13.0%	16.9%	13.8%	11.4%

	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24
有症状の陽性者数に占める発症日不明の割合	11.4%	7.3%	12.0%	12.9%	13.7%	14.0%	15.6%	8.9%	11.8%	12.8%	11.4%	9.5%	8.6%	11.9%	9.5%	15.4%	11.1%	9.4%	9.5%	9.2%	9.7%	6.3%	6.5%	9.1%	8.4%	10.4%	10.1%	11.8%	5.1%	7.9%

第三波 緊急事態宣言終了以降の大阪府の人流の変化

大阪府は緊急事態宣言終了後、約1か月間かけて約1.5倍に拡大。

時間帯別主要繁華街滞留人口の日別推移：大阪（2020年10月1日～2021年5月16日）

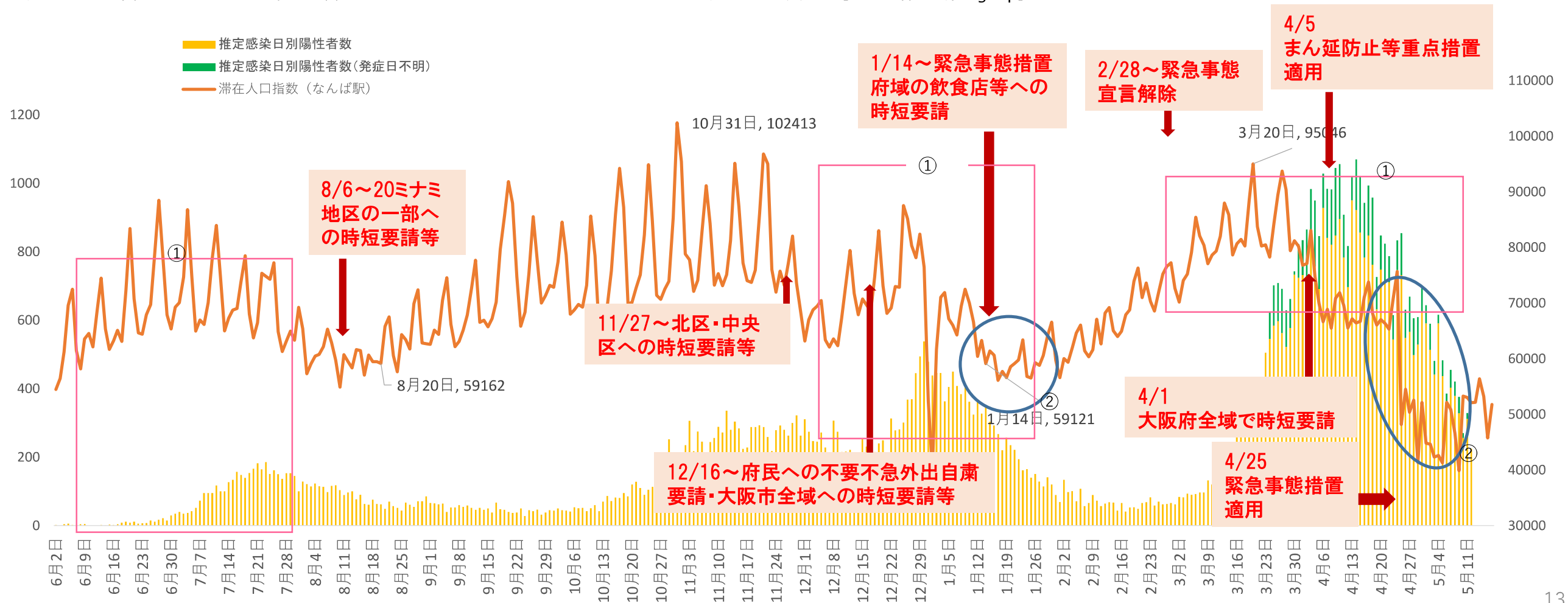


第35回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード資料3-4より抜粋。繁華街滞留人口は、NTTドコモが提供する「ドコモ地図ナビ」のオートGPS機能利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報をNTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータを使用。主要繁華街にレジャー目的で移動・滞留したデータを抽出。
数値は大阪府が資料より推定したものであり、正確を期すものではない。

推定感染日別陽性者数と人流について

- ◆ 過去の波の経験から、人流が増えると、推定感染者数が遅れて増加する傾向。(①)
- ◆ 第三波の緊急事態宣言発令直後と比べ、人流抑制による感染収束を目的として措置を強化している第四波は、措置適用4月25日以降、人流が大きく減少。(②)

感染から発症まで6日、発症から陽性判明まで7日と仮定すると、概ね5/12～5/24の期間は、今後、新規陽性者の発生に伴い、増加。
 人流は、駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウントしており、前述のアドバイザーボードの人流データとは異なる。【出典：株式会社Agoop】

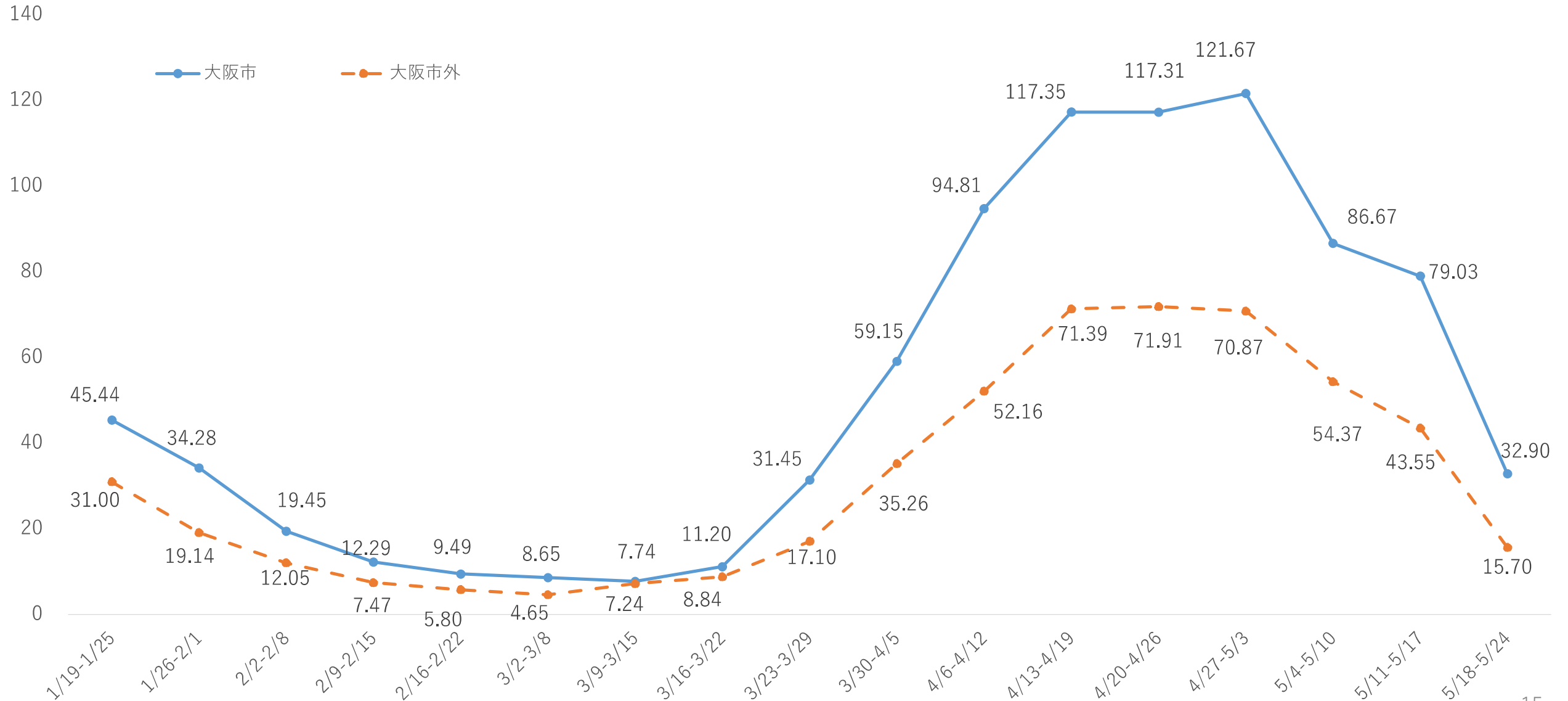


2 市内・市外の比較

大阪市・市外の陽性者比較（人口10万人あたり 1週間単位）

※市内外は居住地による
※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

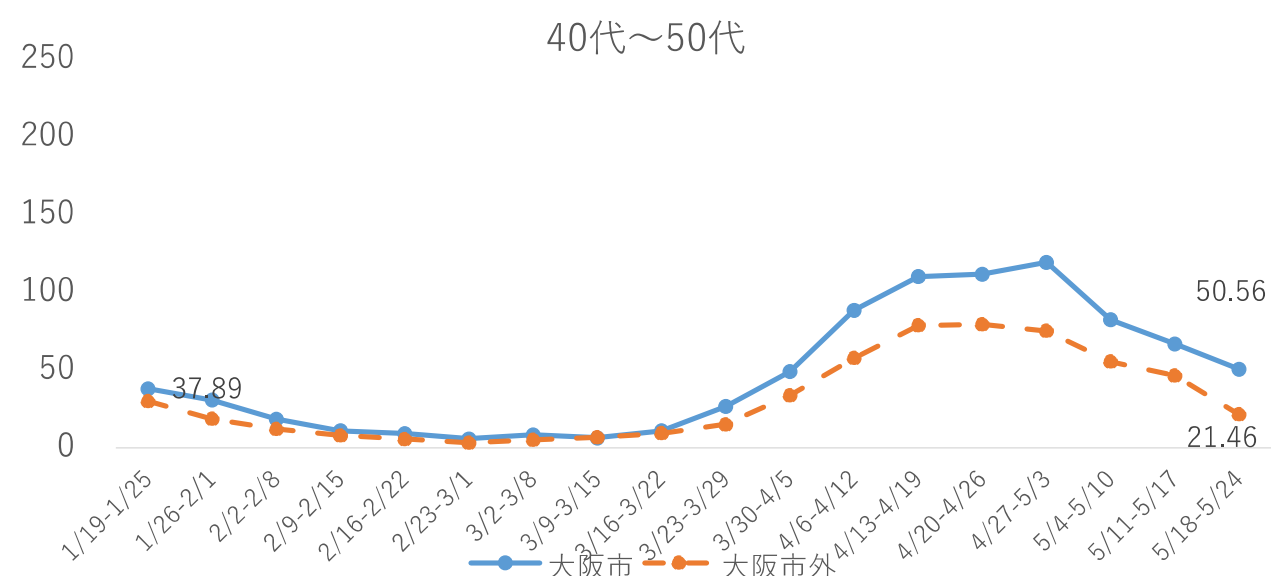
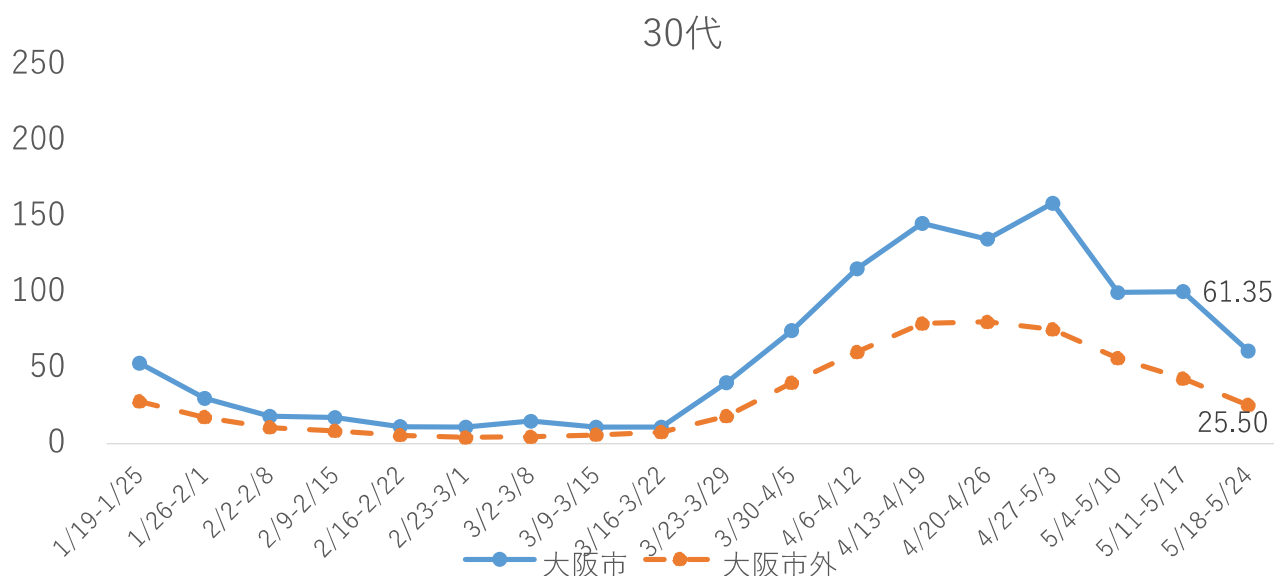
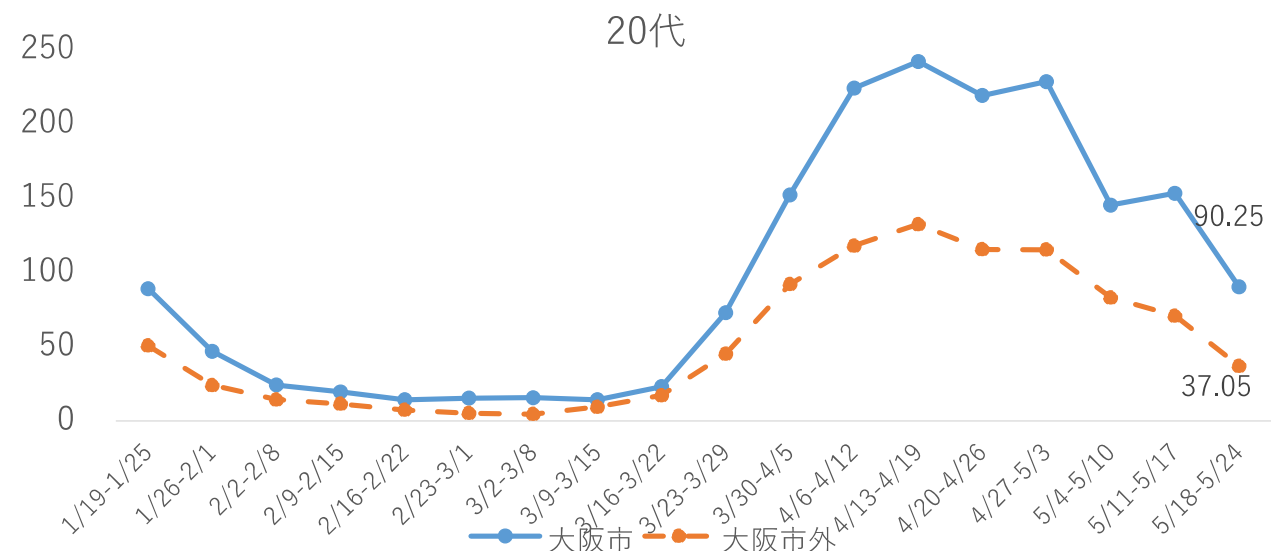
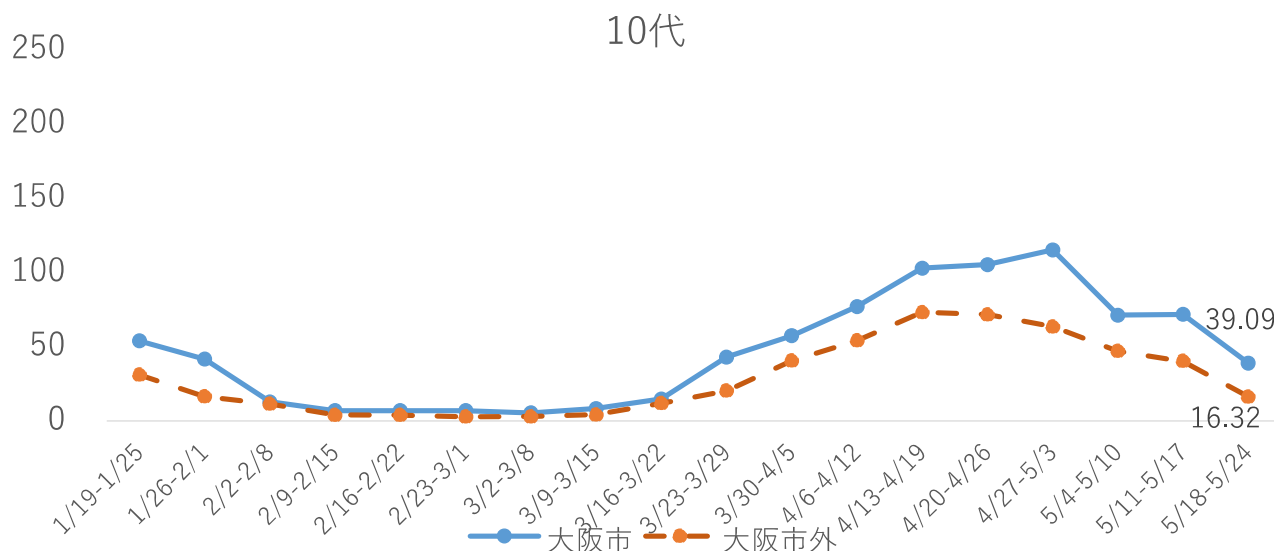
市内・市外居住者ともに減少。市外居住者はステージⅢ（15人）の基準に到達しつつある。
市内居住者については、依然、ステージⅣ（25人）の基準を超過。



大阪市・市外 年代別陽性者比較（人口10万人あたり）

※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

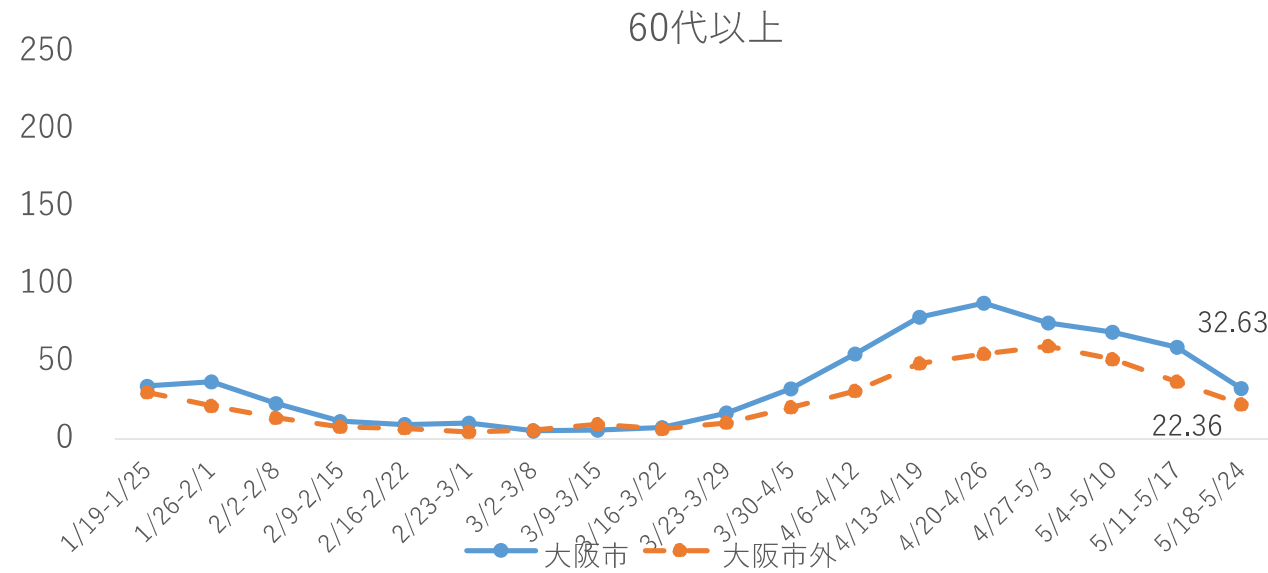
直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は、全年代で減少しているが、市内の50代以下はステージⅣの基準を超過。市外居住者もステージⅣの基準前後であり、依然、高水準。



大阪市・市外 年代別陽性者比較（人口10万人あたり）

※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は、全年代で減少しているが、市内の50代以下はステージⅣの基準を超過。市外居住者もステージⅣの基準前後であり、依然、高水準。



推定感染日別新規陽性者数（大阪市・市外 7日間移動平均）

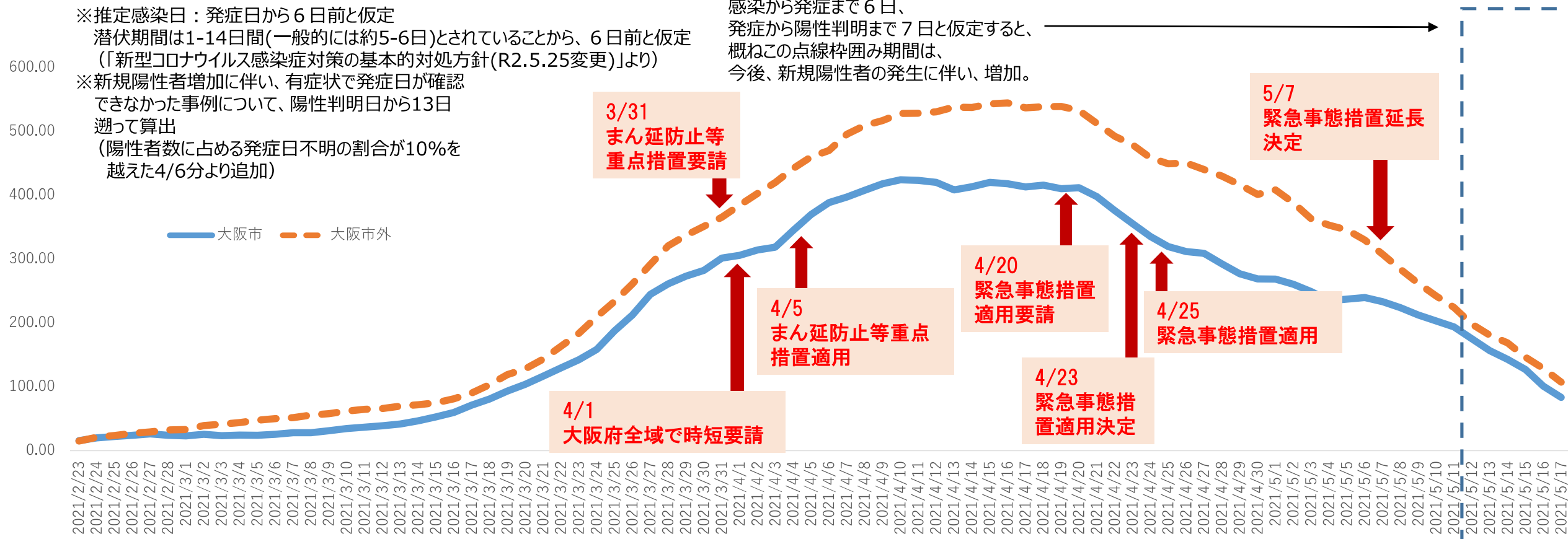
※市内外は居住地による
※発症日が調査中、無症状等を除く

緊急事態措置適用要請前後から減少。

（ただし、4月6日以降、発症日不明の割合が10%を超過したことから、発症日不明の新規陽性者については、仮定に基づく推定のもと、計上。）

※推定感染日：発症日から6日前と仮定
潜伏期間は1-14日間(一般的には約5-6日)とされていることから、6日前と仮定
（「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針(R2.5.25変更)」より）
※新規陽性者増加に伴い、有症状で発症日が確認できなかった事例について、陽性判明日から13日遡って算出
（陽性者数に占める発症日不明の割合が10%を越えた4/6分より追加）

感染から発症まで6日、
発症から陽性判明まで7日と仮定すると、
概ねこの点線枠囲み期間は、
今後、新規陽性者の発生に伴い、増加。



	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	3/30	3/31	4/1	4/2	4/3	4/4	4/5	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/11	4/12	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17	4/18	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24
有症状の陽性者数に占める発症日不明の割合	1.1%	1.7%	2.3%	1.9%	4.7%	0.9%	2.5%	3.1%	5.2%	4.7%	8.8%	5.6%	10.5%	13.4%	11.7%	13.9%	11.1%	10.4%	1.7%	9.2%	9.0%	12.3%	13.0%	16.6%	12.7%	13.9%	12.4%	13.0%	16.9%	13.8%	11.4%

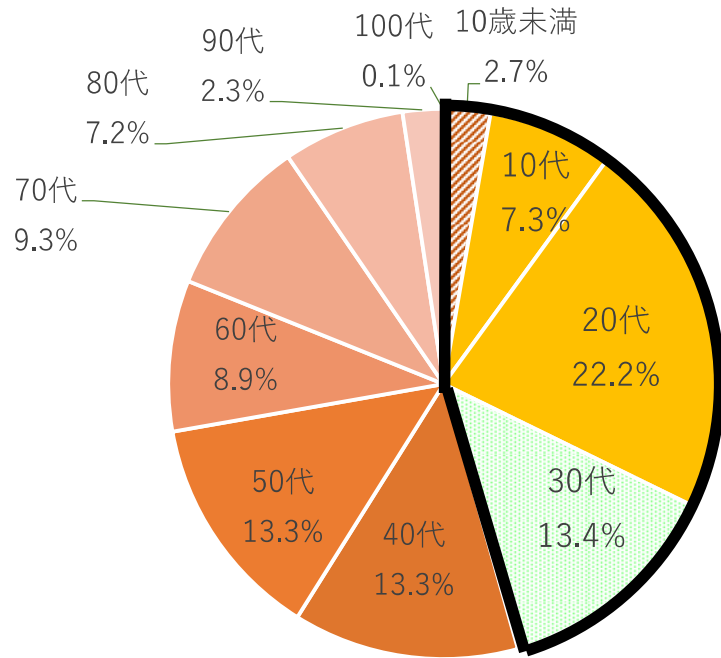
	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	5/13	5/14	5/15	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24
有症状の陽性者数に占める発症日不明の割合	11.4%	7.3%	12.0%	12.9%	13.7%	14.0%	15.6%	8.9%	11.8%	12.8%	11.4%	9.5%	8.6%	11.9%	9.5%	15.4%	11.1%	9.4%	9.5%	9.2%	9.7%	6.3%	6.5%	9.1%	8.4%	10.4%	10.1%	11.8%	5.1%	7.9%

3 年代・居住地別の比較

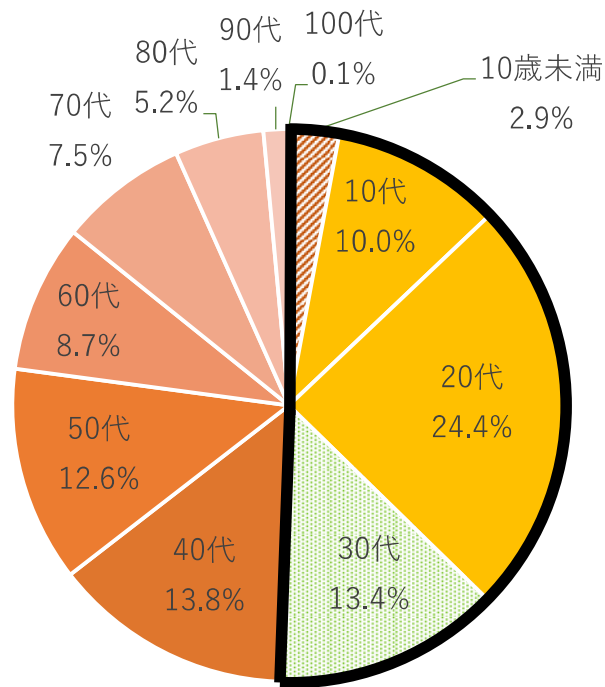
年代別新規陽性者の割合

第三波に比べ、第四波は、30代以下の割合がやや増加。

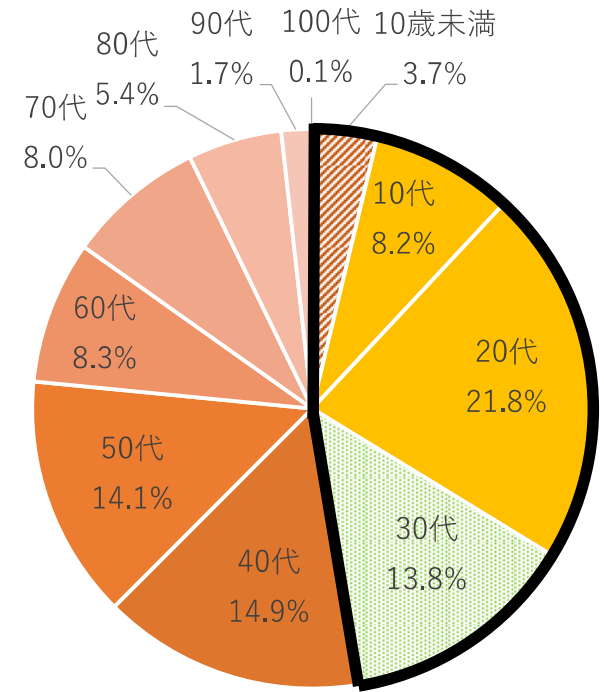
第三波
(10月10日～2月28日)



第四波
(3月1日～3月31日)



第四波 ※年代不明の事例を除く
(4月1日～5月24日)

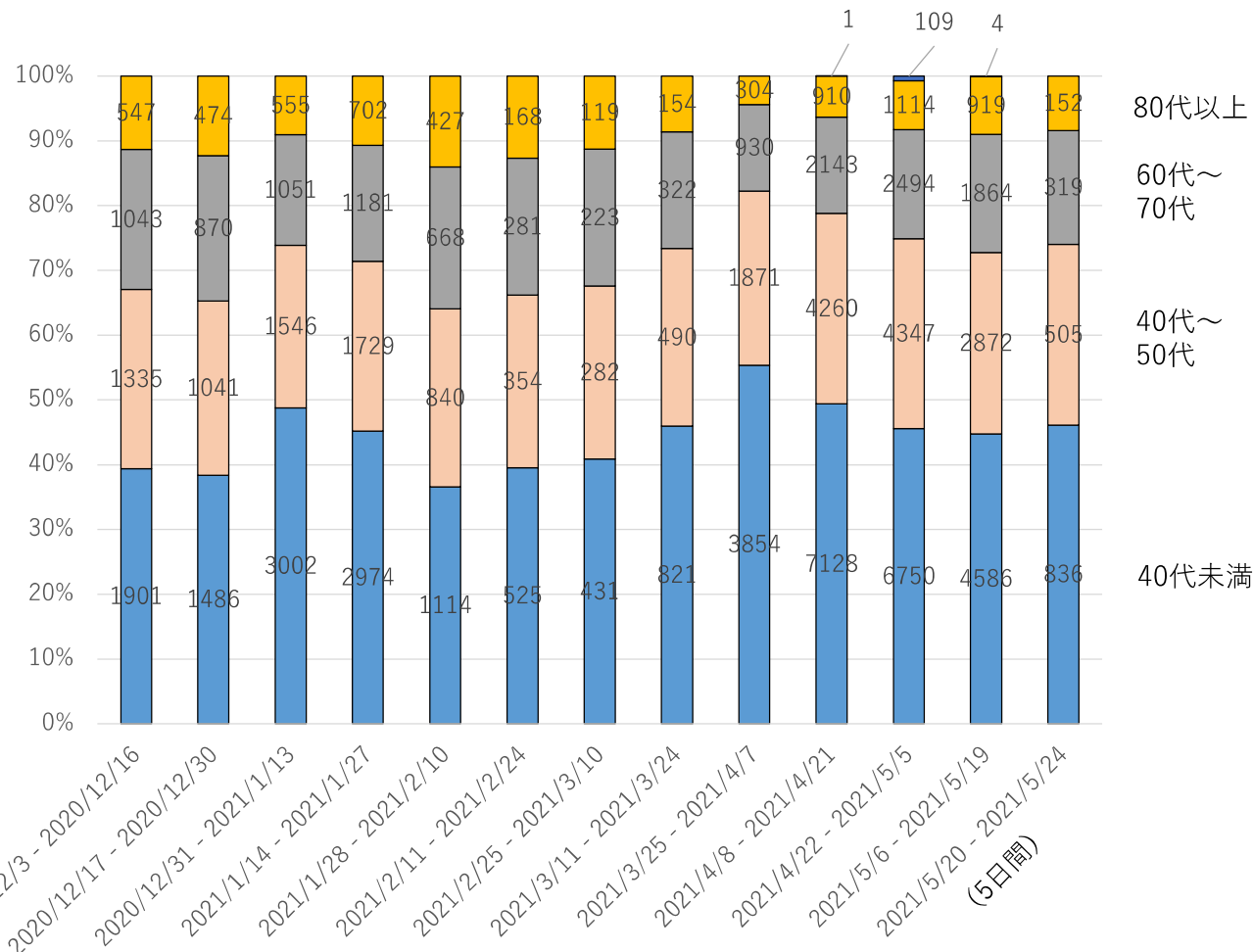


	第三波	第四波 (3月1日～3月31日)	第四波 (4月1日～5月24日)
30代以下割合 (うち、20代以下)	45.6% (32.2%)	50.7% (37.3%)	47.5% (33.7%)

陽性者の年齢区分

新規陽性者に占める60代以上の割合は3割弱。

陽性者の年齢区分（割合, 2週間単位）

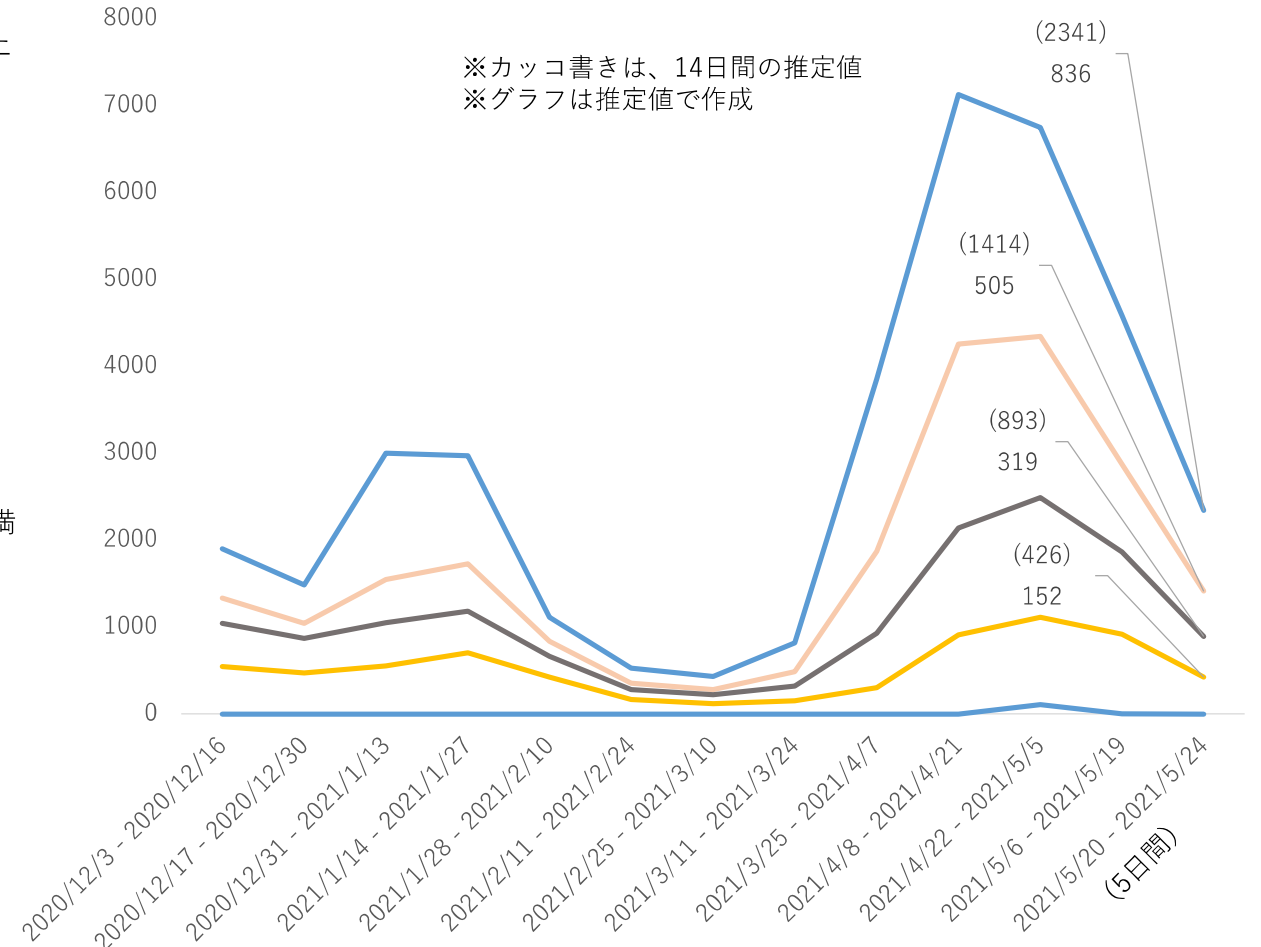


60代以上の割合 (7日間平均)	2/8 37%	4/5 18%	5/24 26%
---------------------	------------	------------	-------------

■ 40代未満 ■ 40代~50代 ■ 60代~70代 ■ 80代以上 ■ 調査中

(12月3日以降5月24日までに判明した76,928事例の状況)

陽性者の年齢区分（実数, 2週間単位）

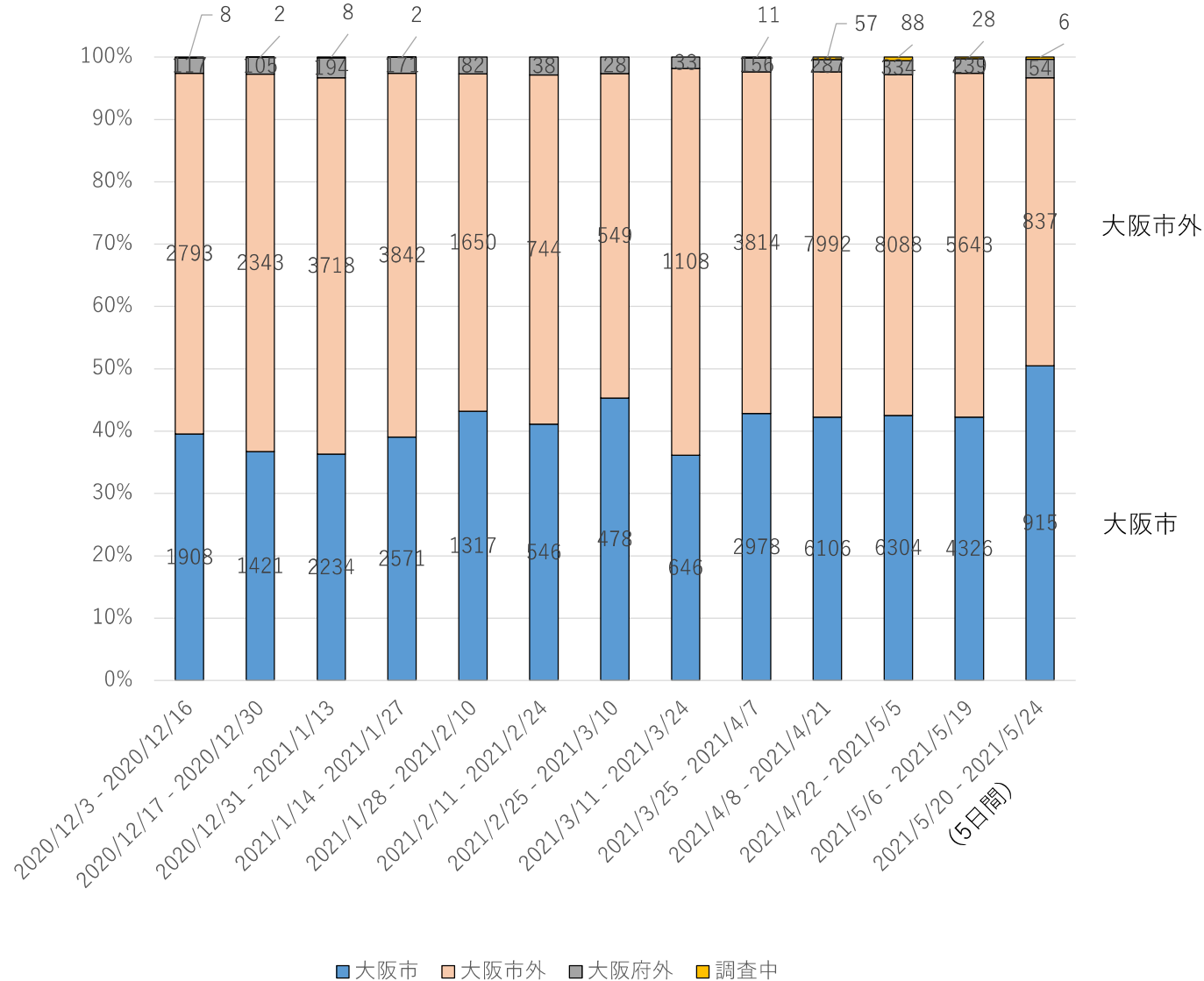


— 40代未満 — 40代~50代 — 60代~70代 — 80代以上 — 調査中

陽性者の居住地

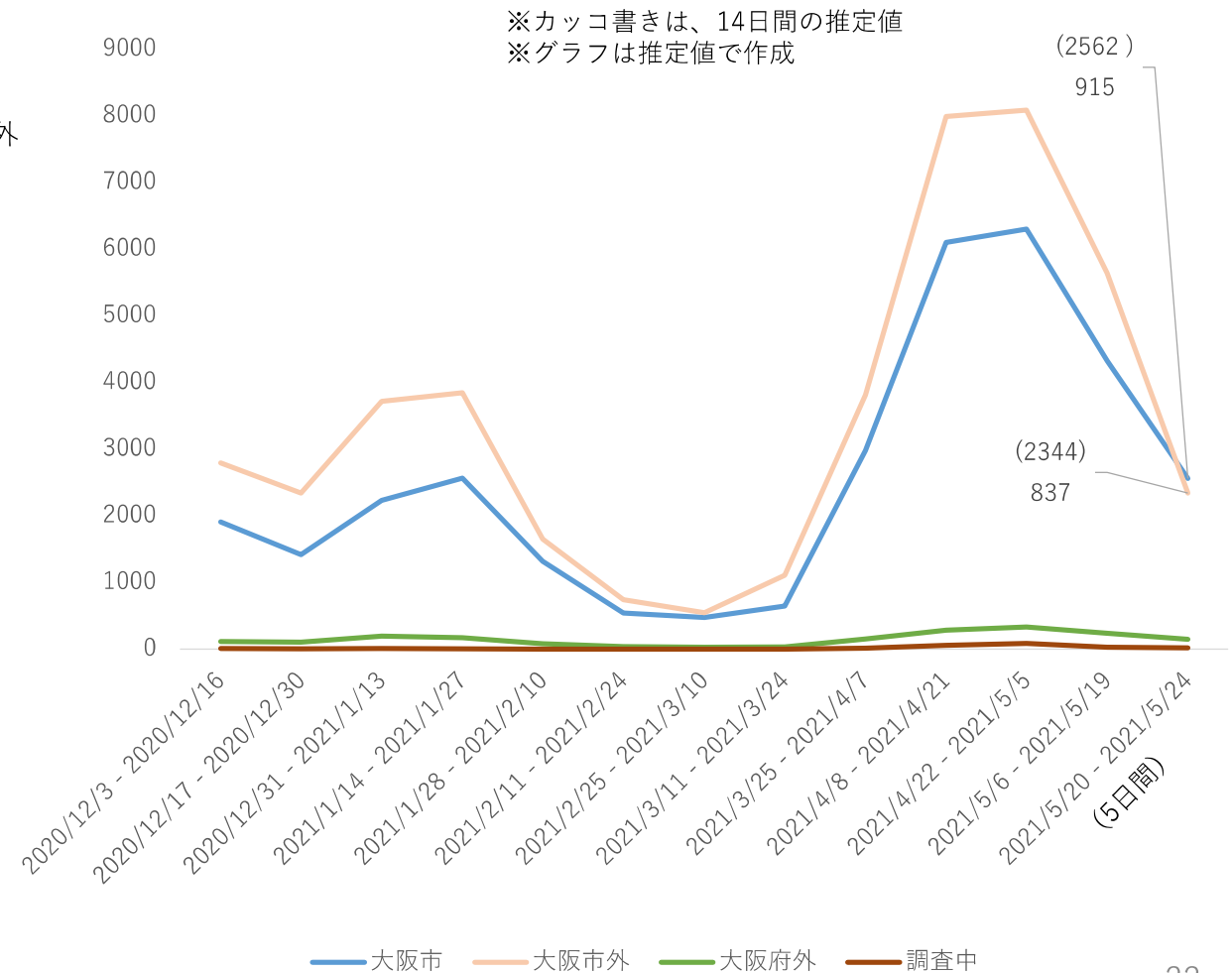
直近は、市内居住者の割合が、4割強から5割に増加。

陽性者の居住地区分（割合、2週間単位）



（12月3日以降5月24日までに判明した76,928事例の状況）

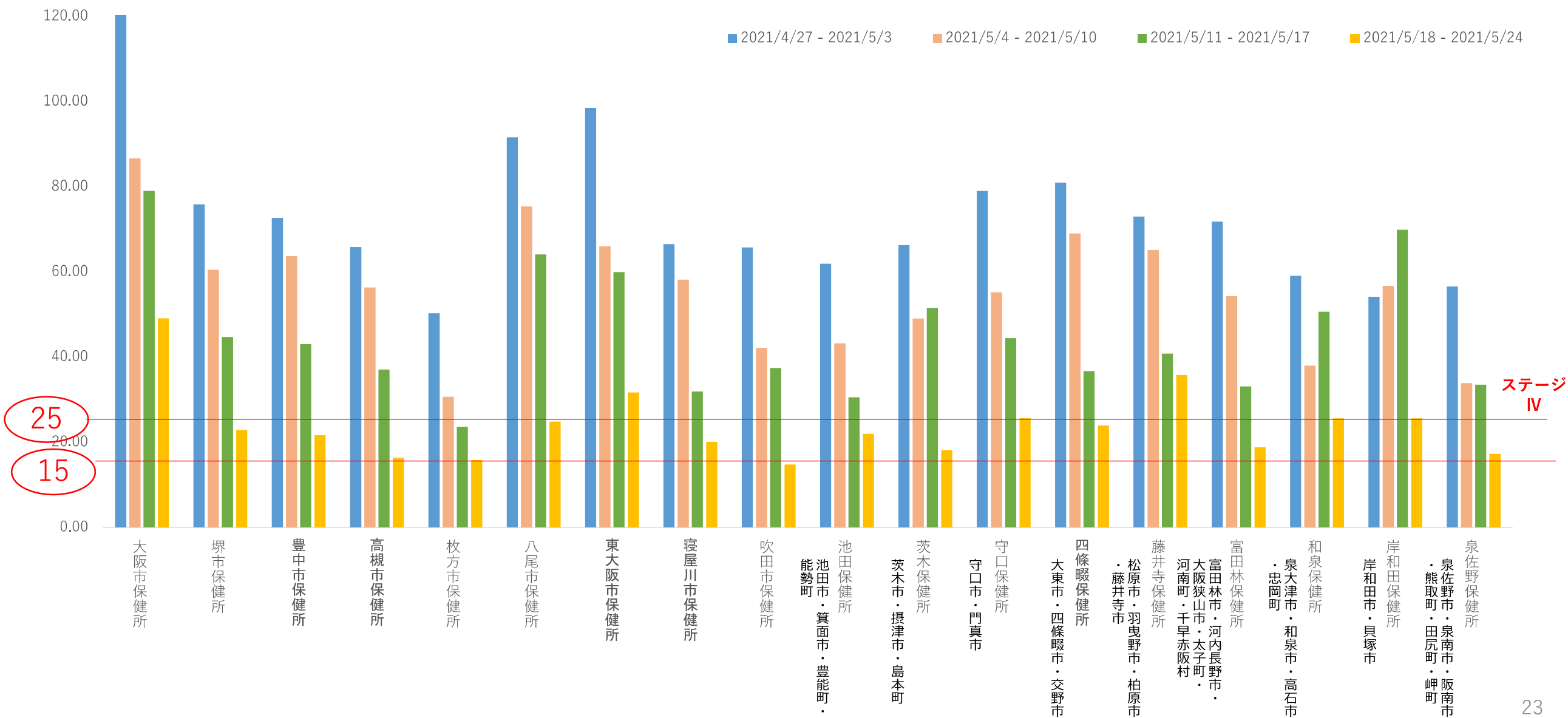
陽性者の居住地区分（実数、2週間単位）



保健所管内別陽性者比較（人口10万人あたり）

※居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

各保健所管内で新規陽性者数は減少傾向にあるが、ステージⅢ（15人）を下回っているのは1保健所管内のみ。

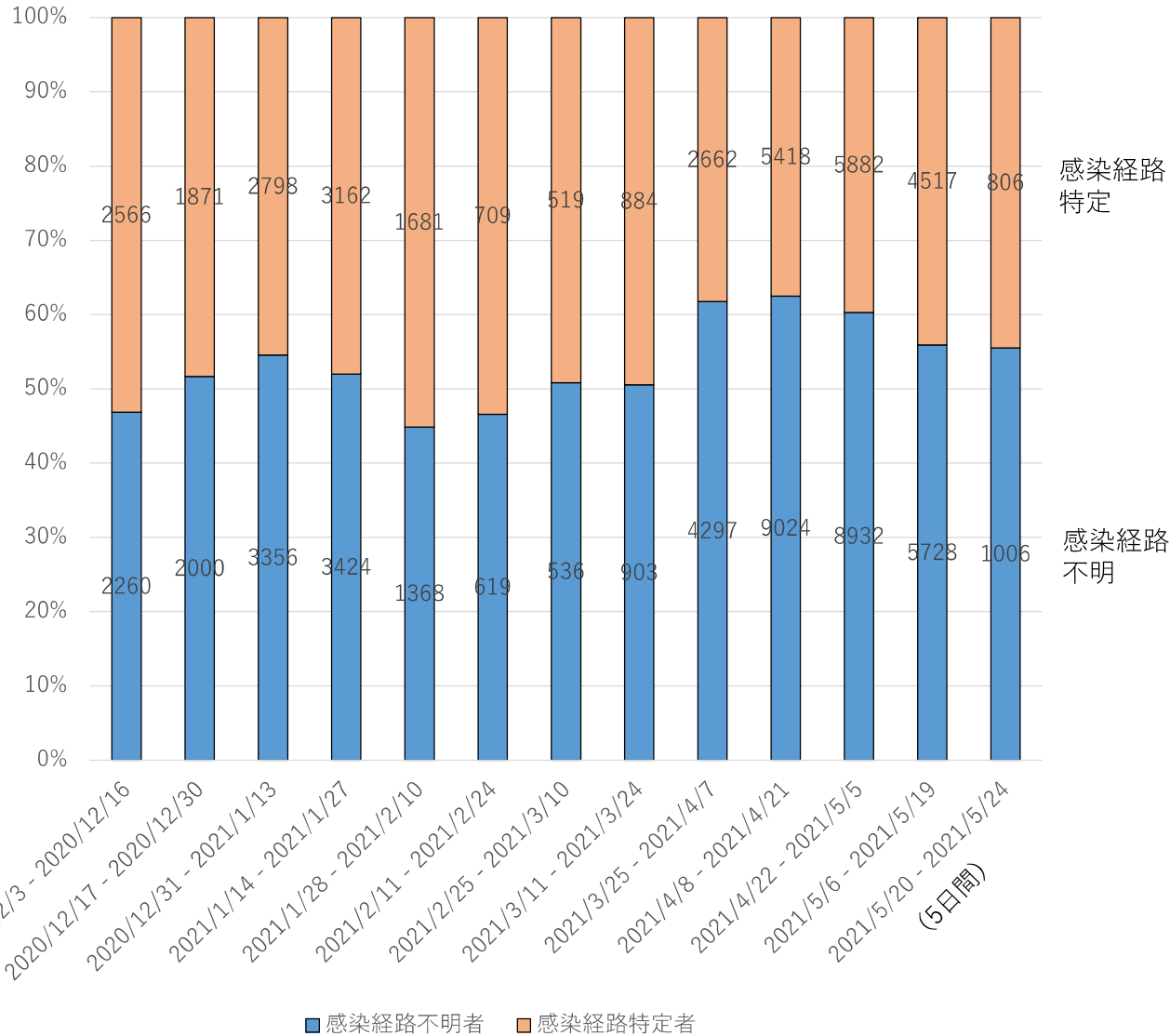


4 感染経路

陽性者の感染経路の状況

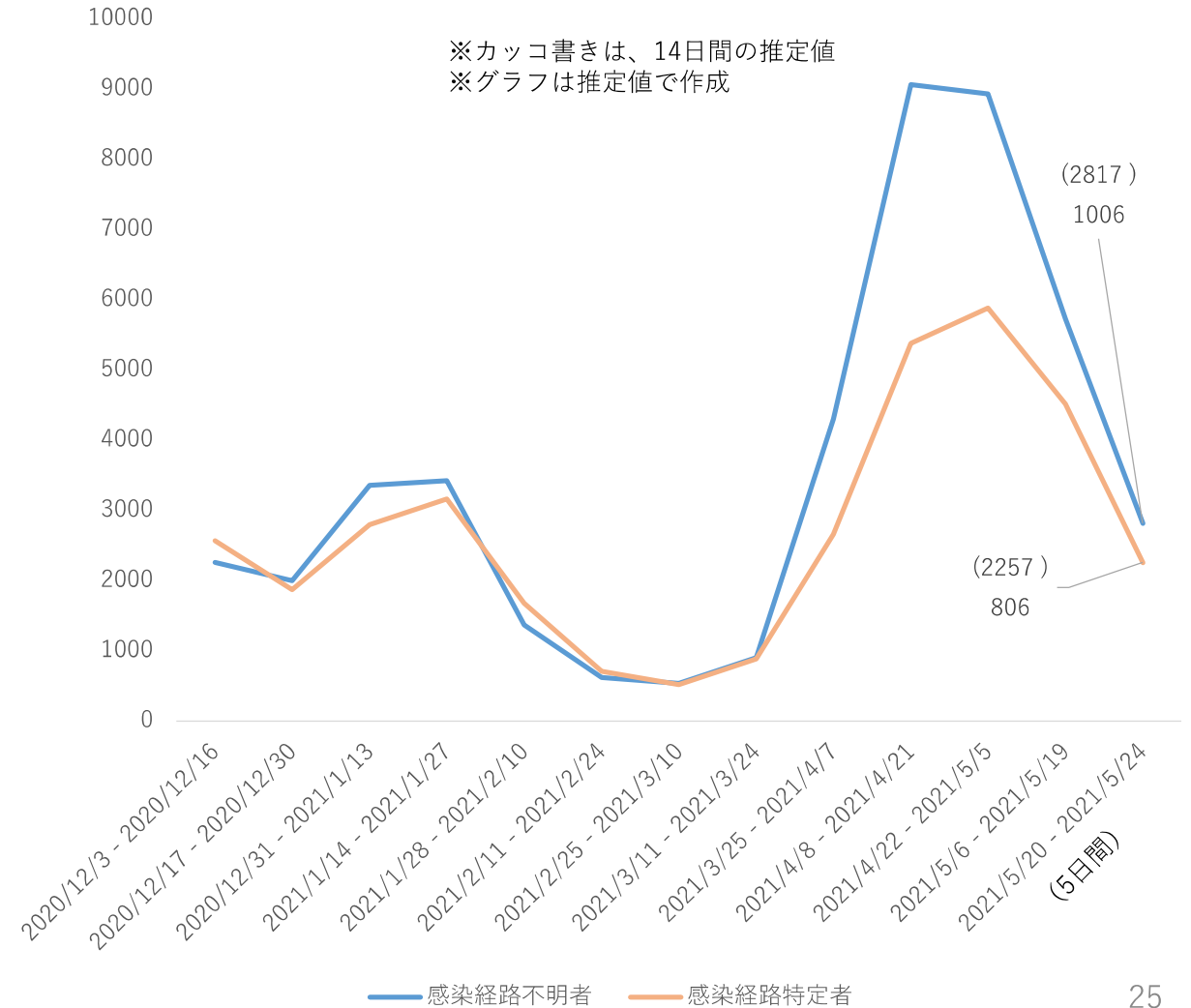
感染経路不明の割合は5割強。

感染経路の状況（割合）



（12月3日以降5月24日までに判明した76,928事例の状況）

感染経路の状況（実数）



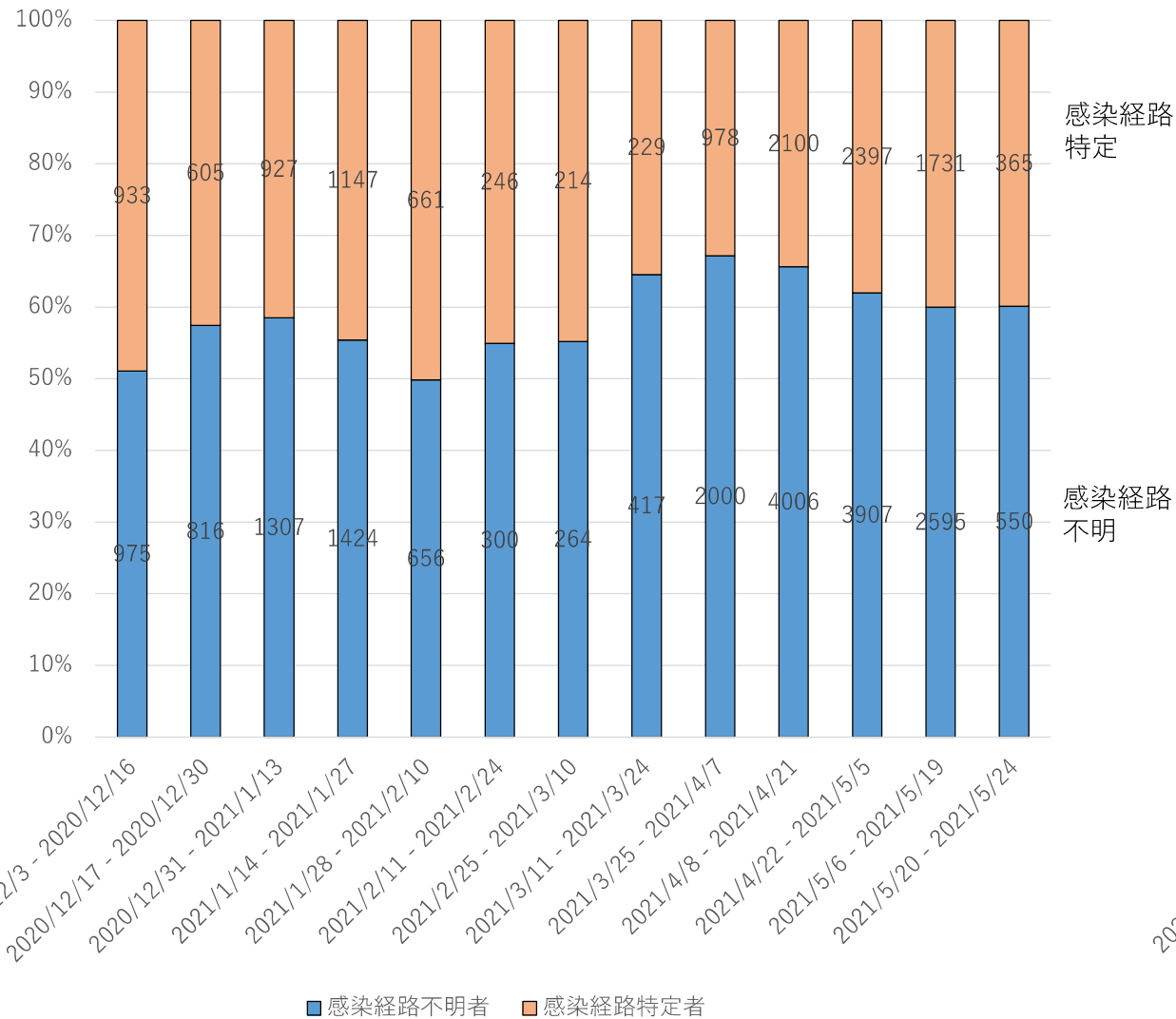
陽性者の感染経路の状況（大阪市内外）

※市内外は居住地による
 ※居住地が非公表、不明、調査中、他都道府県等を除く

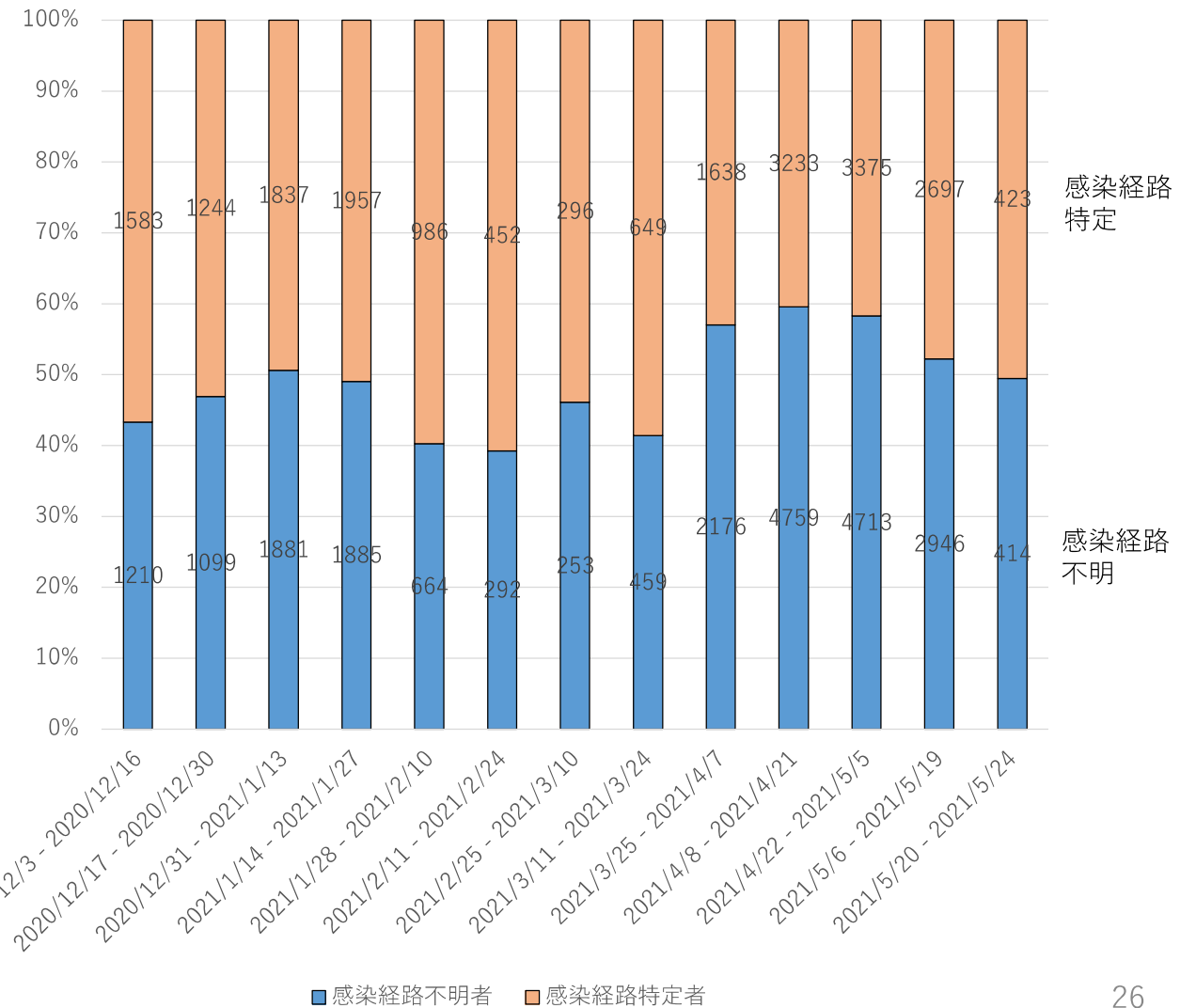
市内居住者の感染経路不明割合は、約6割。市外居住者は減少傾向にあり、約5割。

（12月3日以降5月24日までに判明した76,928事例の状況）

感染経路の状況（大阪市）



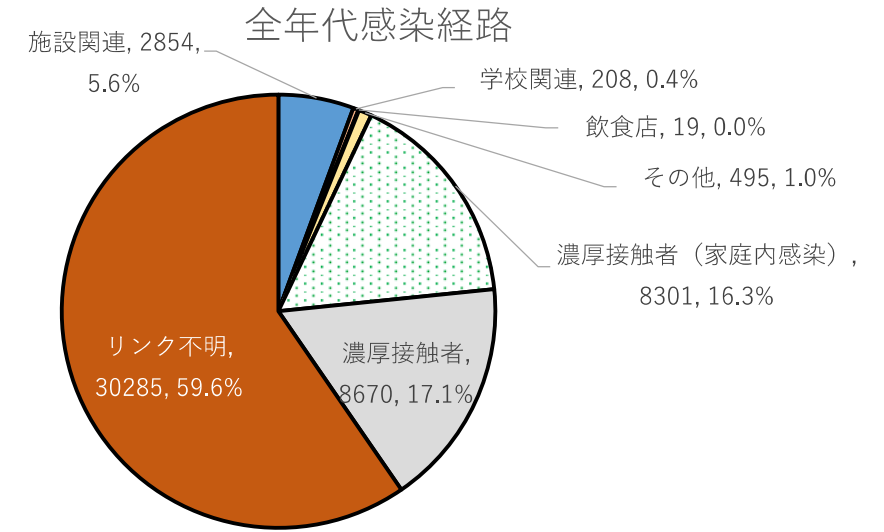
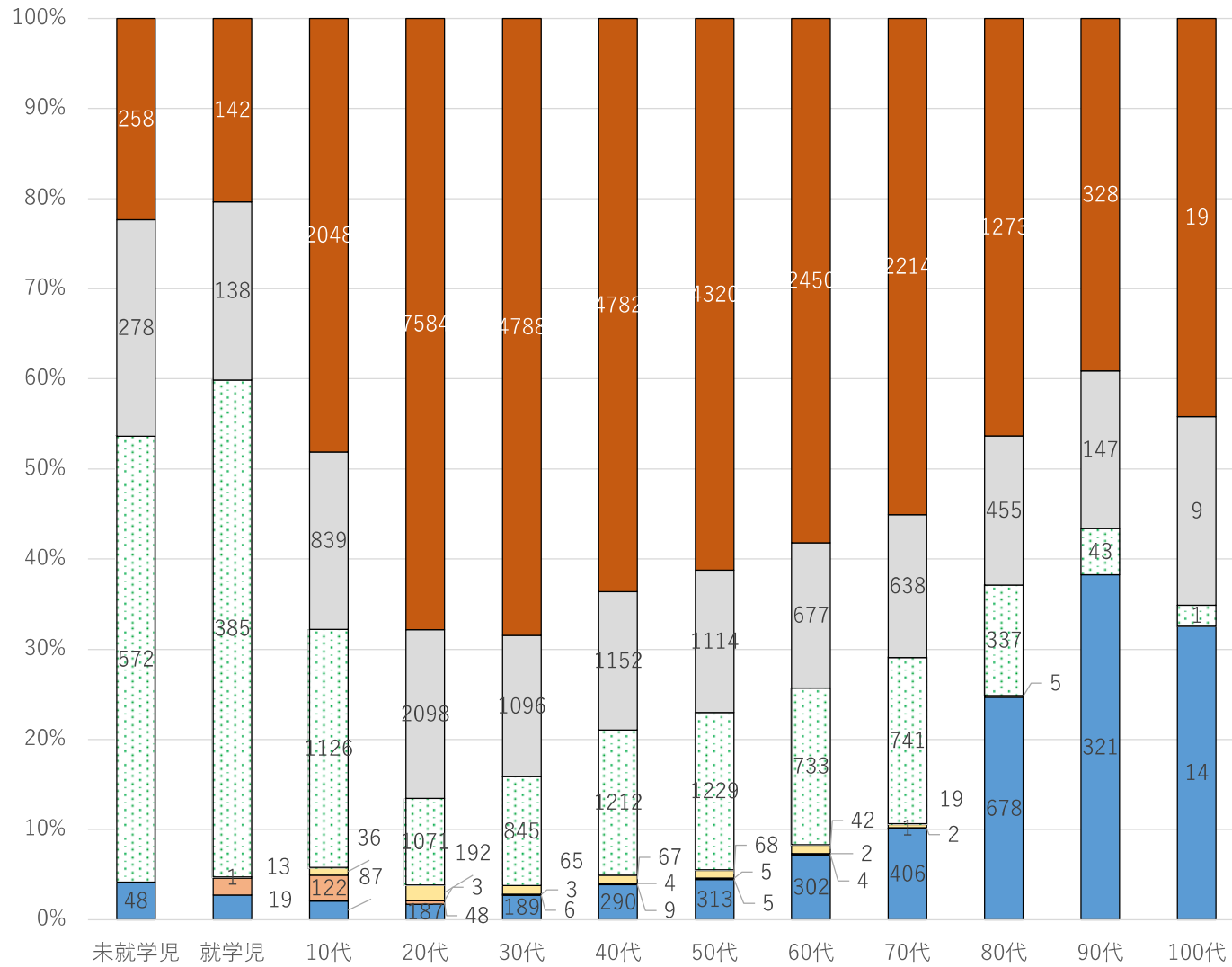
感染経路の状況（大阪市内外）



感染経路（第四波）

（3月1日以降5月24日までに判明した50,718事例の状況）

年代別感染経路



<全年代感染経路>

時点	施設関連	学校関連	飲食店	その他	濃厚接触者 (家庭内感染)	濃厚接触者	リンク不明
第二波	7.7%	0.5%	0.5%	0.4%	12.3%	18.6%	60.0%
第三波	13.0%	1.2%	0.2%	1.4%	16.7%	14.8%	52.7%
(参考) 第四波 (3/1~3/31)	9.2%	0.8%	0.4%	1.9%	18.3%	12.8%	56.5%
第四波 (3/1~5/24)	5.6%	0.4%	0.0%	1.0%	16.3%	17.1%	59.6%

■施設関連 ■学校関連 ■飲食店 ■その他 ■濃厚接触者 (家庭内感染) ■濃厚接触者 ■リンク不明

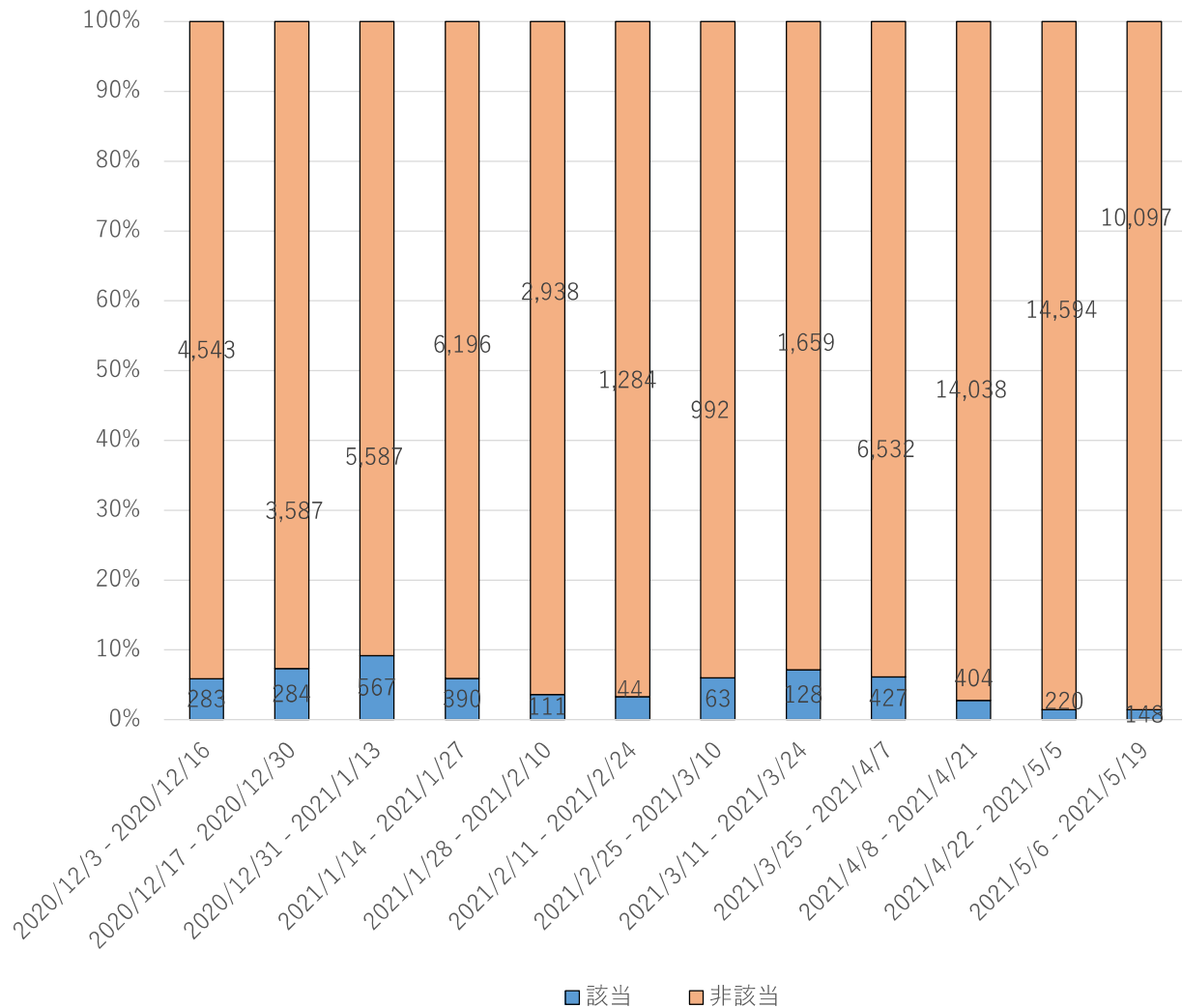
5 感染エピソード

夜の街の関係者及び滞在者の状況（陽性者全体における該当者）

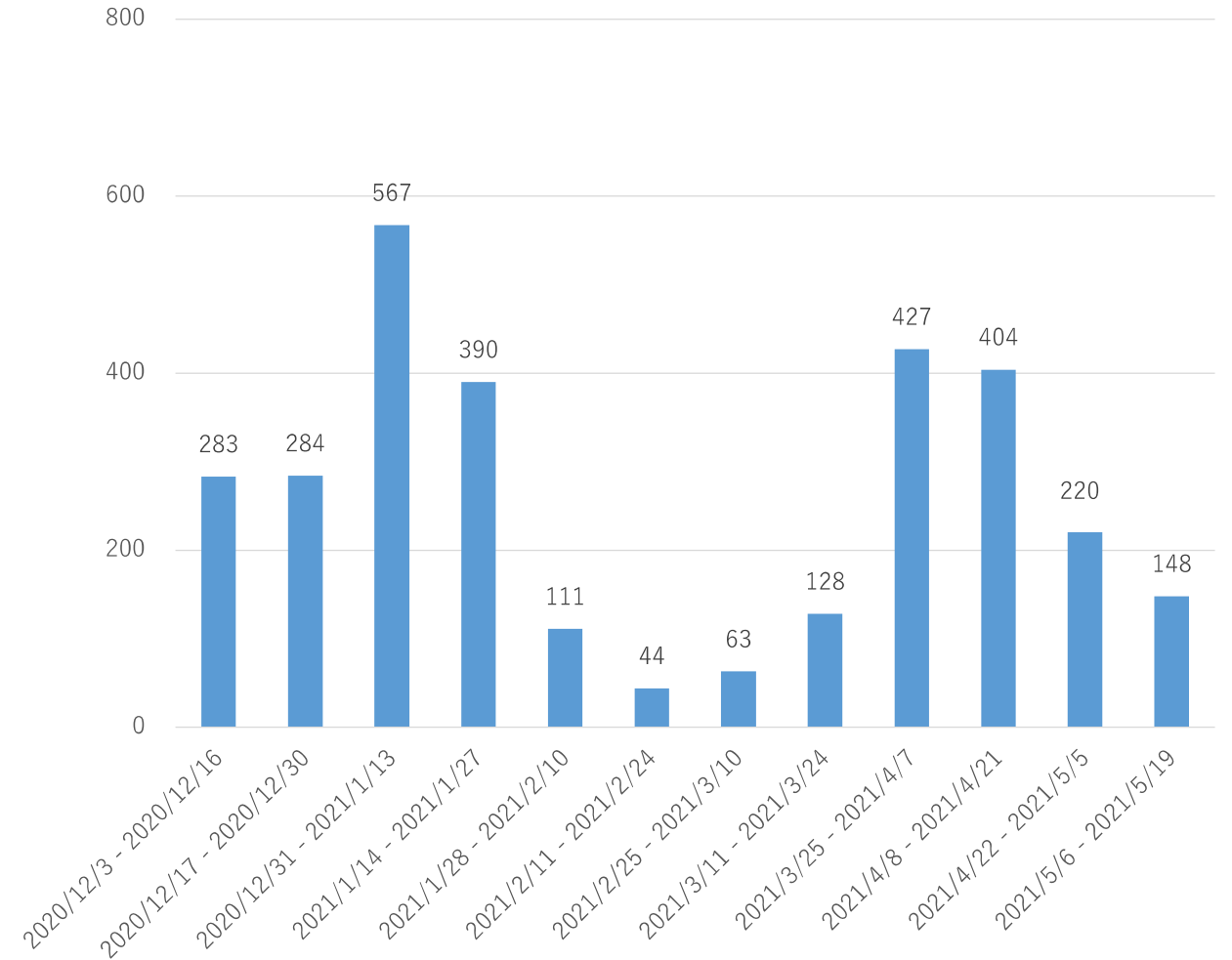
夜の街の関係者及び滞在者の人数は減少が続いているが、第三波緊急事態措置期間中ほどには減少していない。

（12月3日以降5月19日までに判明した75,116事例の状況）

夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：割合）



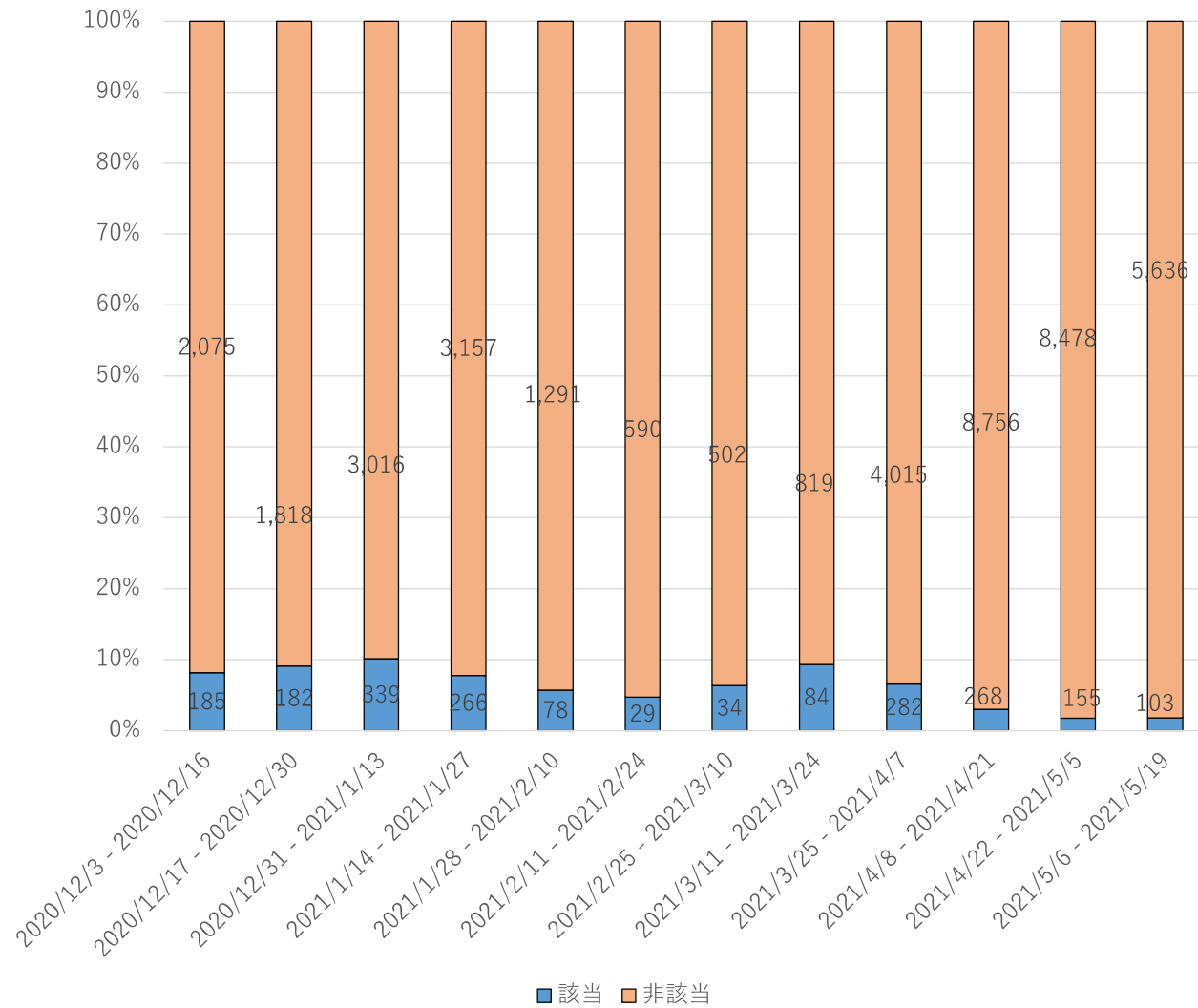
夜の街の関係者及び滞在者の状況（全件：実数）



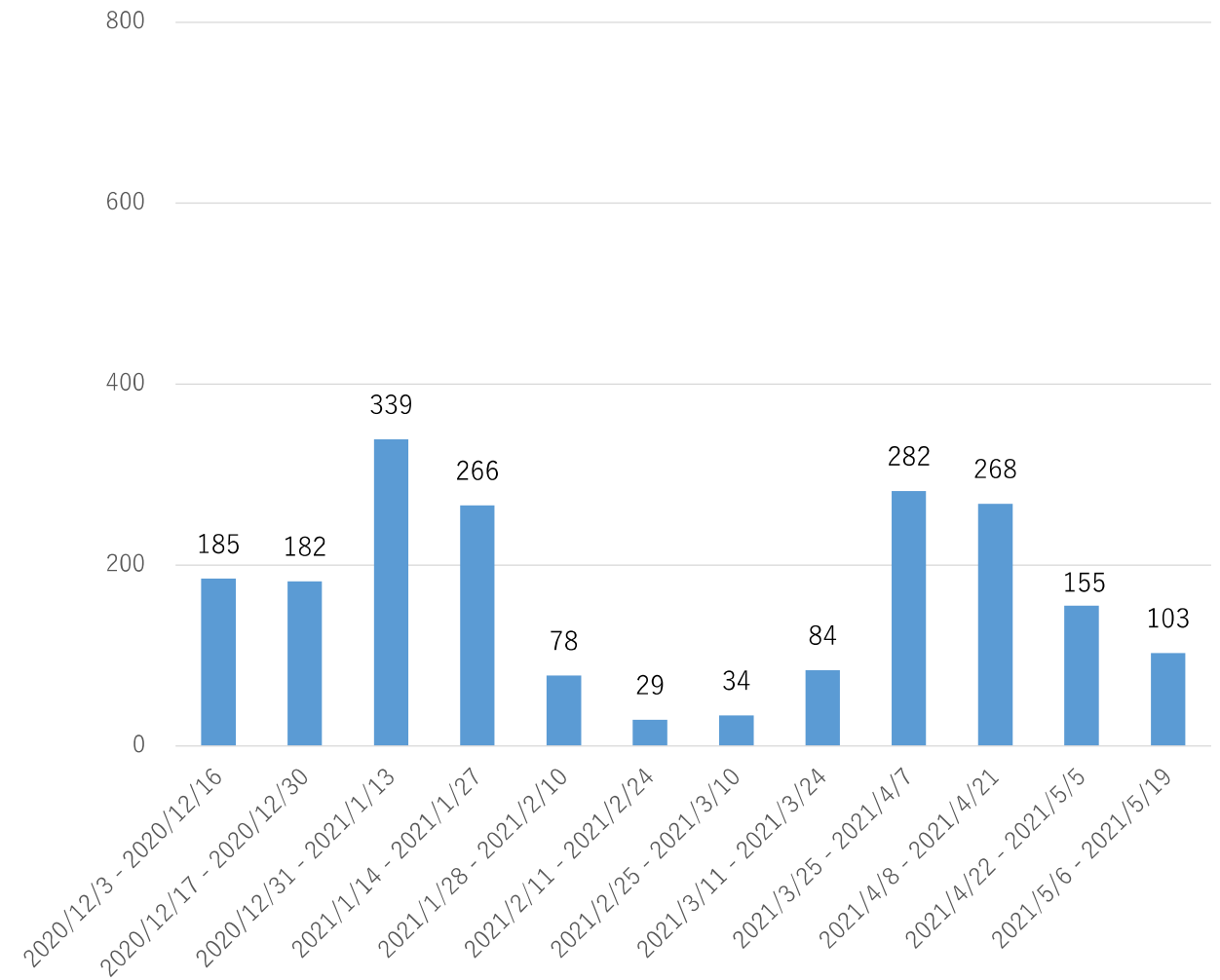
夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明者における該当者）

（12月3日以降5月19日までに判明した感染経路不明者42,469事例の状況）

夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明：割合）



夜の街の関係者及び滞在者の状況（感染経路不明：実数）

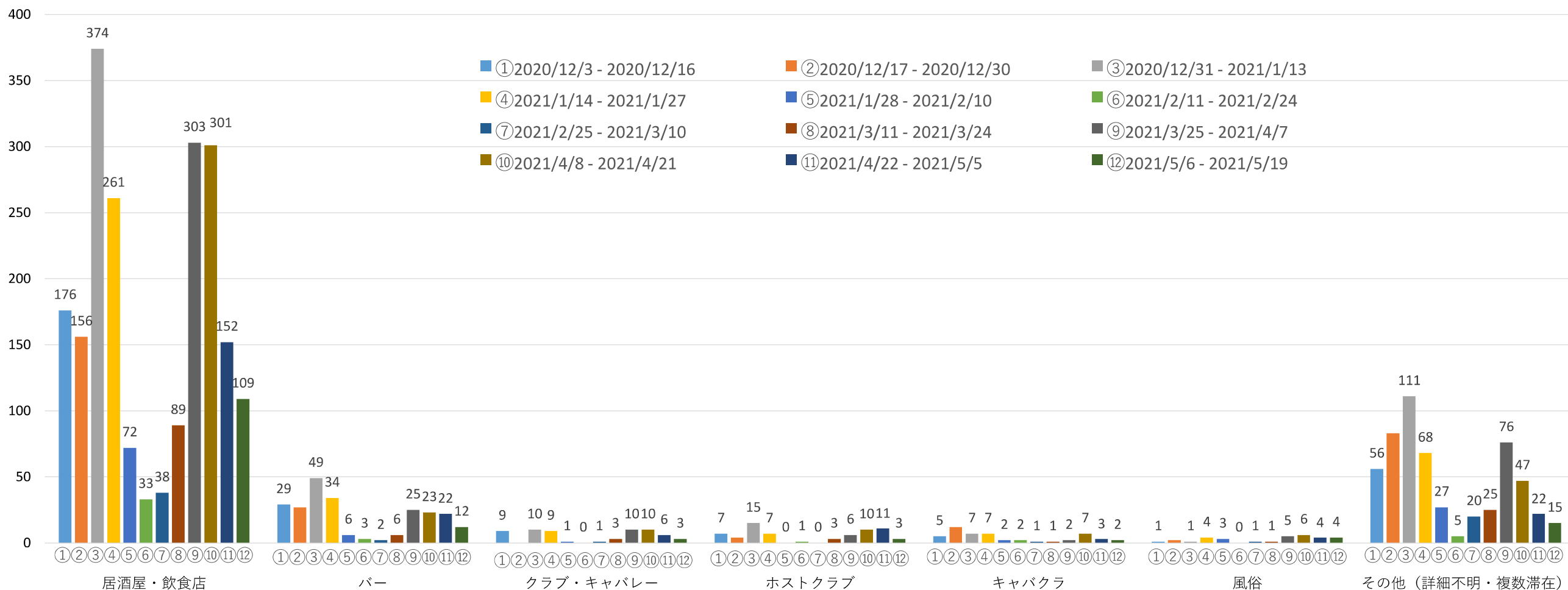


※該当・非該当は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在分類別の状況

居酒屋・飲食店は、減少が続いているが、第三波緊急事態措置期間中ほどには減少していない。

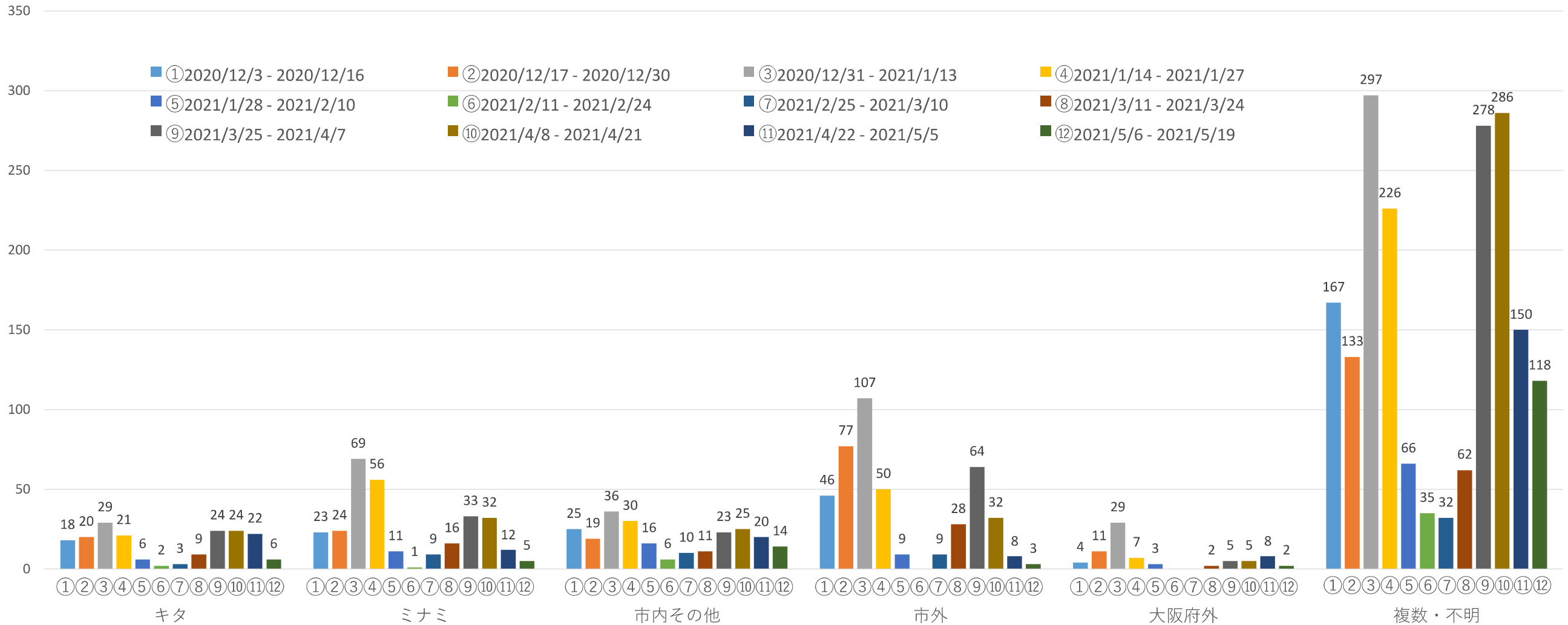
(12月3日以降5月19日までに判明した3,069事例の状況)



※滞在先の分類は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在エリア別の状況

(12月3日以降5月19日までに判明した3,069事例の状況)

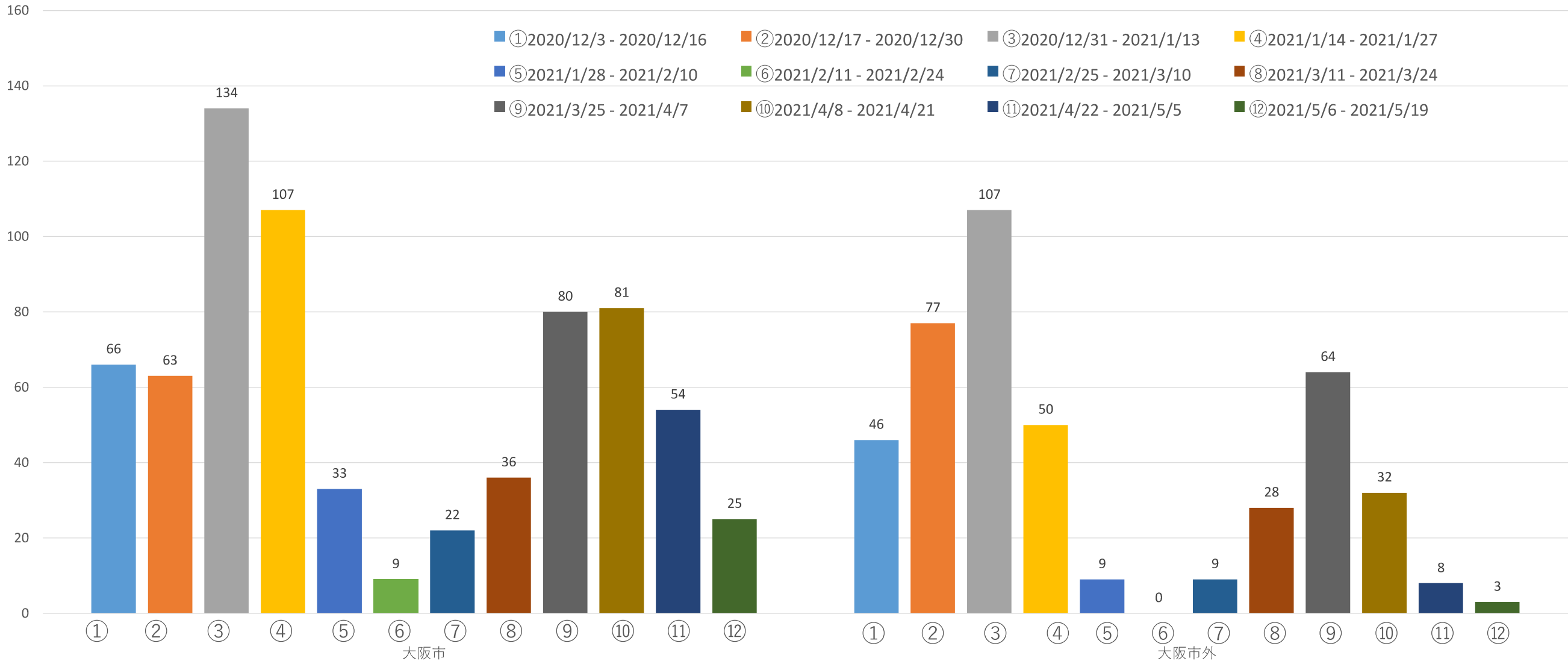


※滞在エリアの分類は本人からの聞き取り情報による

夜の街の滞在エリア別の状況

夜の街の滞在エリアとして市内、市外ともに減少。

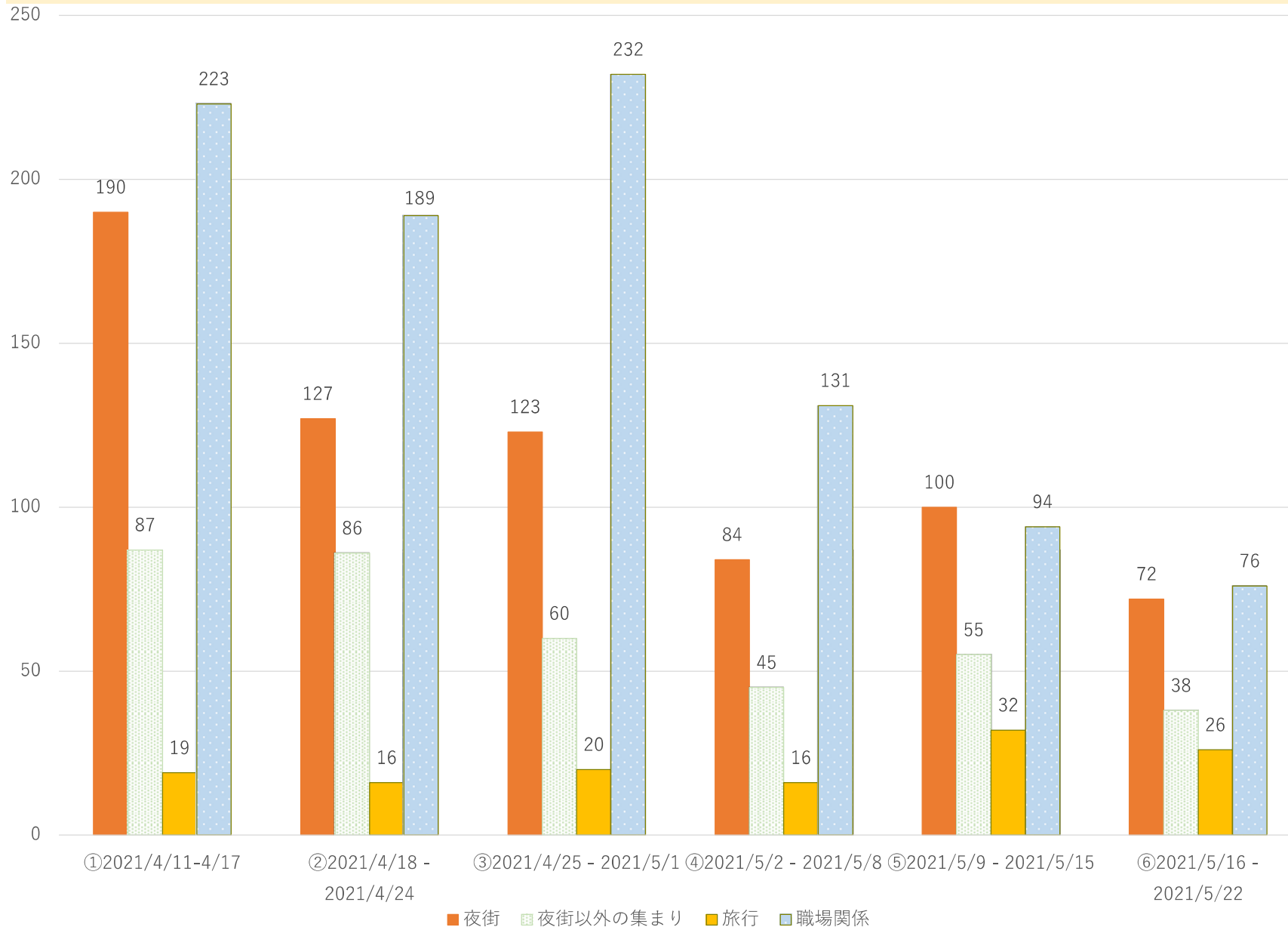
(12月3日以降5月19日までに判明した3,069事例の状況)



※滞在エリアの分類は本人からの聞き取り情報による

陽性者のエピソード：緊急事態宣言前後及びゴールデンウィーク前後の比較（5月22日時点）

夜街関連や職場関係のエピソードを有する陽性者は4月中旬まで多かったが、4月25日の緊急事態措置適用及びゴールデンウィーク後、大きく減少。旅行関連は、ゴールデンウィーク後、増加。



	エピソード ※
夜街	居酒屋、バー、スナック、夜の会食・飲食、夜のカラオケなど
夜街以外の集まり	陽性者と会食、複数人で会食、自宅での会食、カラオケ、ゴルフ、麻雀、説明会、花見、バーベキュー、ライブなど
旅行	旅行、県をまたいでの出張、自動車運転免許合宿、帰省など
職場関係	同僚同士での会食、執務室や作業場での接触、会議等での接触、移動中の車での接触、喫煙時・休憩室での接触など

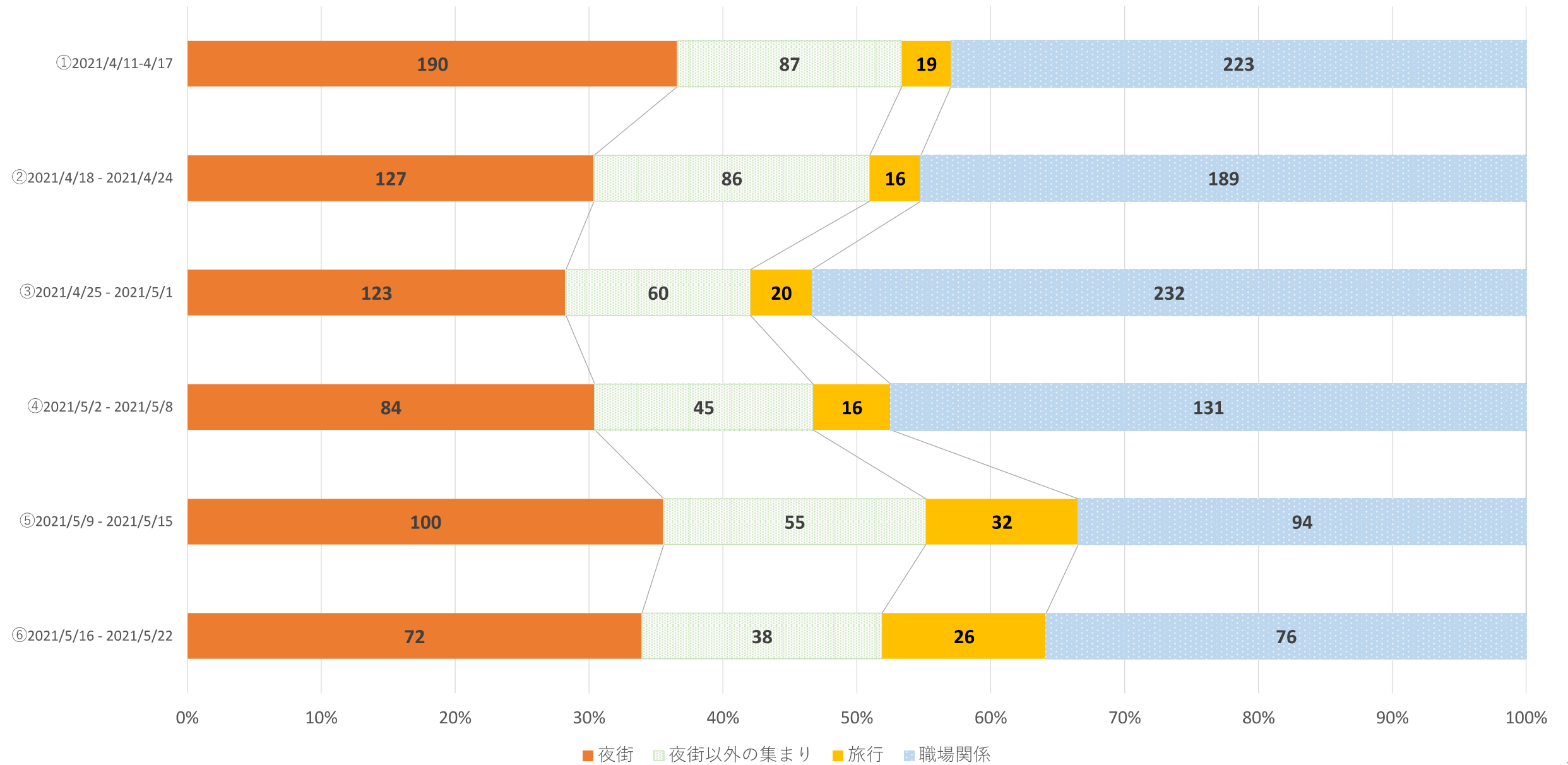
※ 新規陽性者への聞き取りにおいて把握した行動歴の中で、感染源となった可能性のあるエピソード（感染経路不明、家庭内感染、医療機関・学校・福祉施設内での感染を除く）
新規陽性者の内、4～7%程度

○**3密（密集・密閉・密接）のいずれかに該当するエピソードが多くみられるほか、「喫煙室や更衣室、電話など設備等の共有」などについてもエピソード有。**

○**昼間の集まりでの感染事例も多くみられ、特に会食は時間に関係なく発生。**

○「マスクやアクリル板、換気、消毒等の感染対策は実施していた」事例も多くみられ、**施設側の対策だけで感染を十分に防ぐことは難しい。**

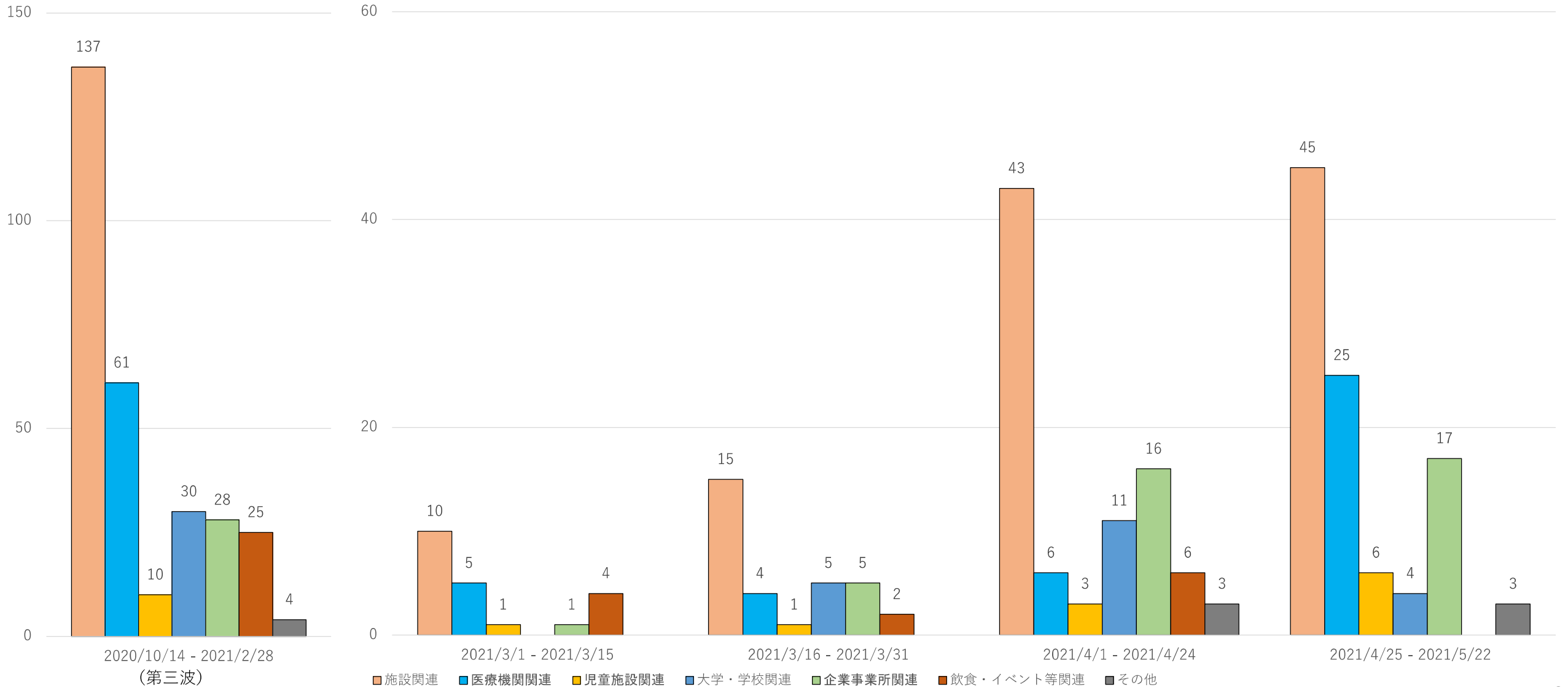
陽性者のエピソード：緊急事態宣言前後及びゴールデンウィーク前後の比較【割合】（5月22日時点）



第三波から第四波にかけてのクラスター状況（施設数）【実数】

4月25日以降、医療機関関連の施設数が急増。

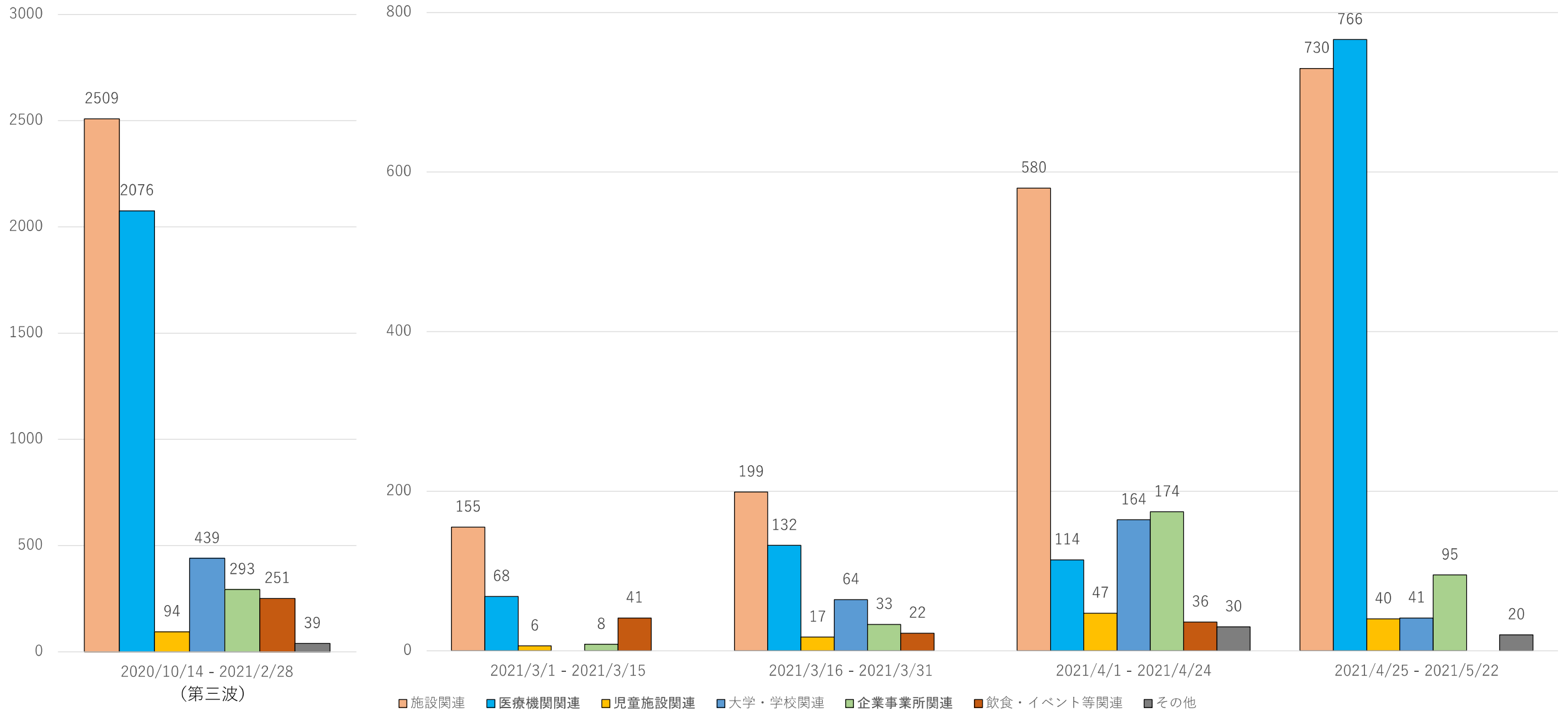
大学・学校関連は減少し、飲食・イベント等関連は発生していないが、施設関連や企業事業所関連は大きな変化なし。



※第三波と第四波で、縦軸の最大値が異なる。

第三波から第四波にかけてのクラスター状況（陽性者数）【実数】

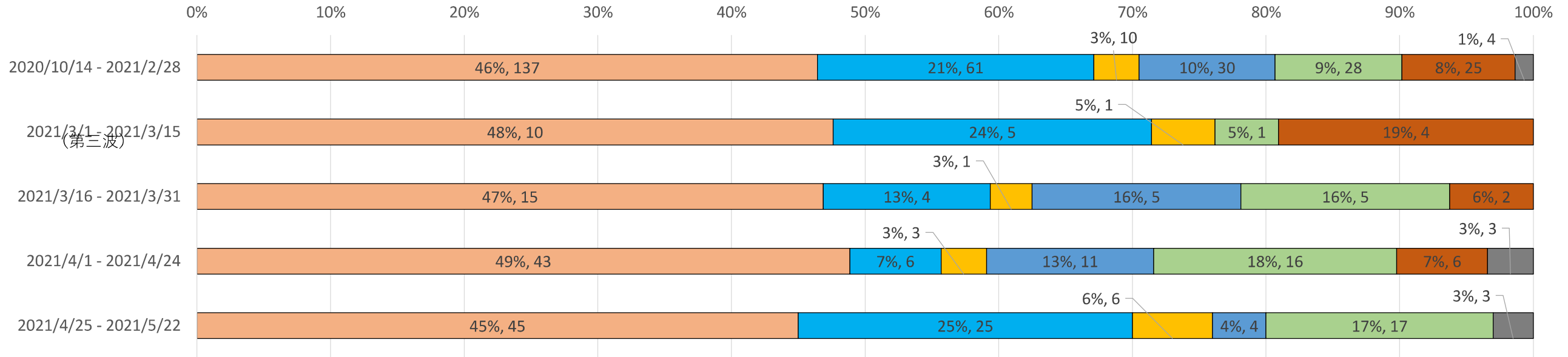
4月25日以降、医療機関関連における陽性者数が急増。施設関連は、施設数は変化がないものの、陽性者数は増加。大学・学校関連、企業事業所関連は減少し、飲食・イベント等関連は発生していない。



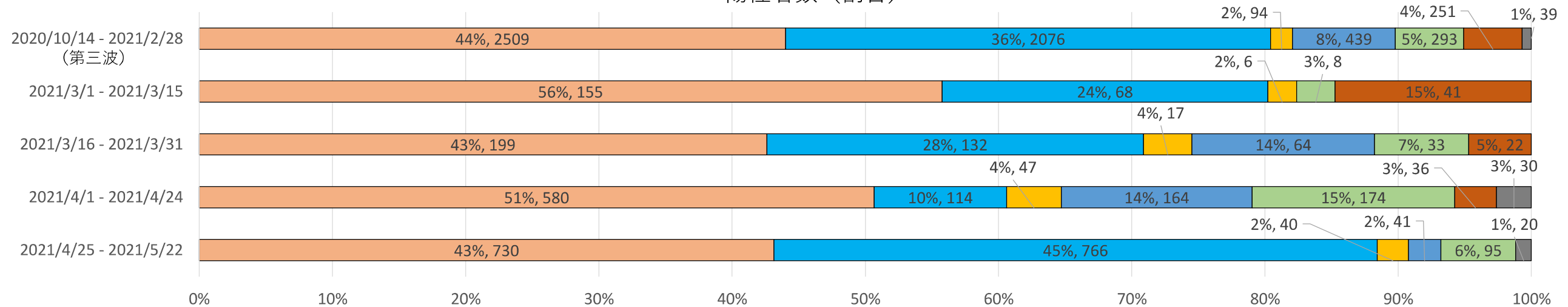
※第三波と第四波で、縦軸の最大値が異なる。

第三波から第四波にかけてのクラスター状況【割合】

施設数（割合）



陽性者数（割合）

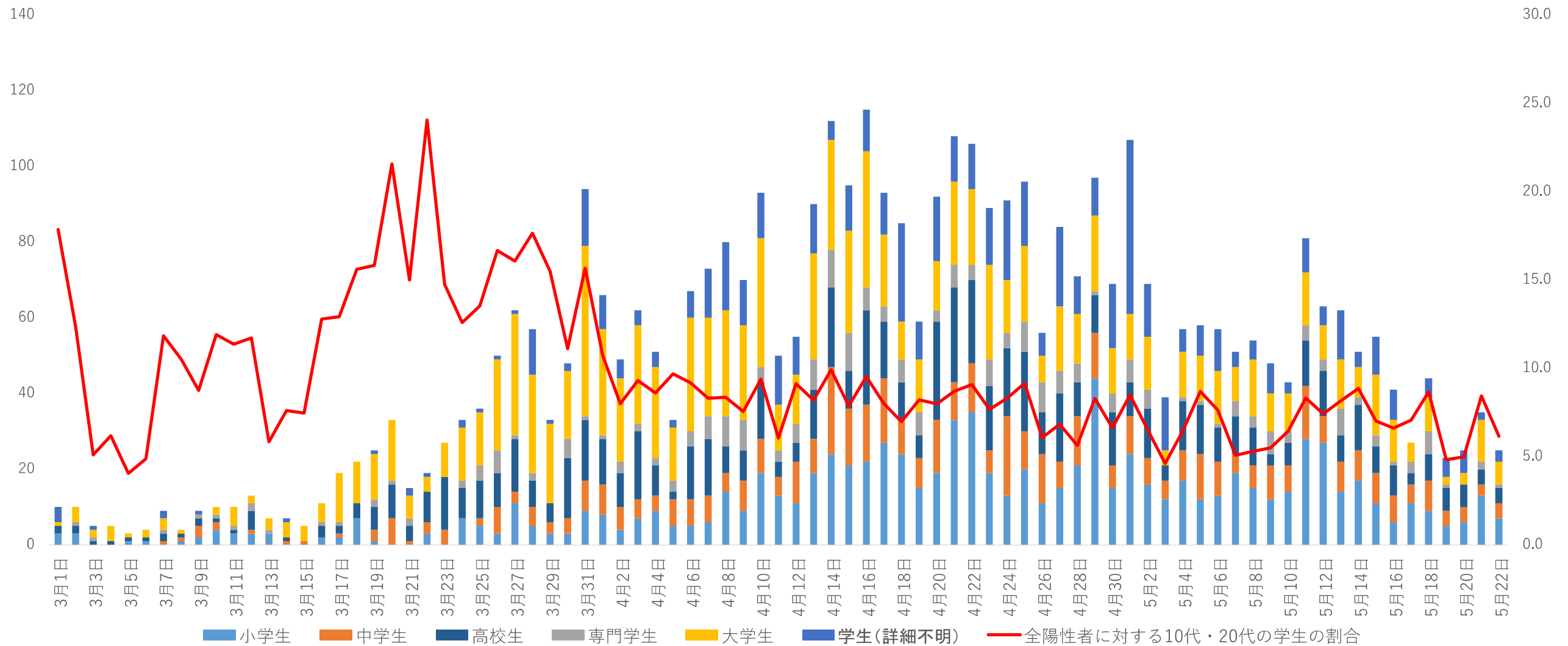


■ 施設関連
 ■ 医療機関関連
 ■ 児童施設関連
 ■ 大学・学校関連
 ■ 企業事業所関連
 ■ 飲食・イベント等関連
 ■ その他

本人からの聞き取り情報による

小・中・高・大学生等の感染状況

5月に入り、学生の新規陽性者数は減少しているが、陽性者に占める10・20代の学生の割合は横ばいとなっている。

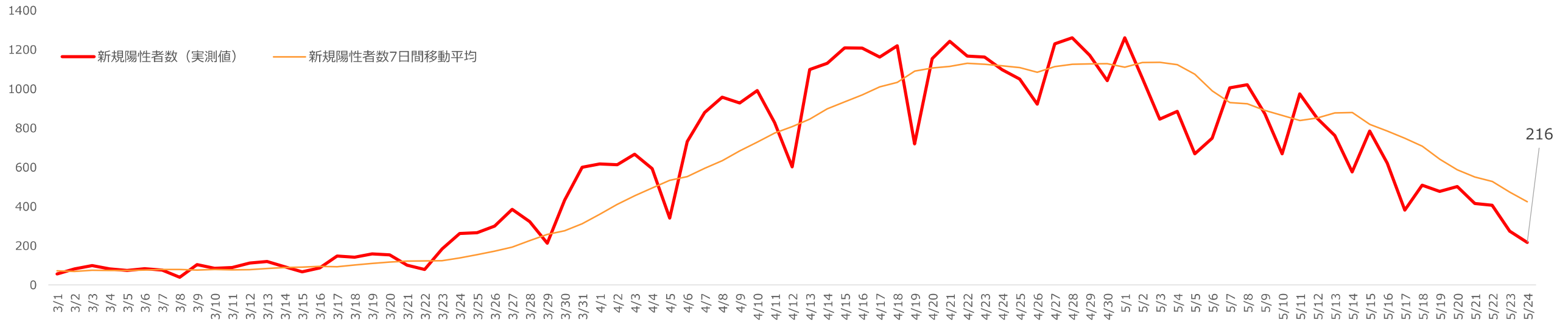


※分類は本人からの聞き取り情報による

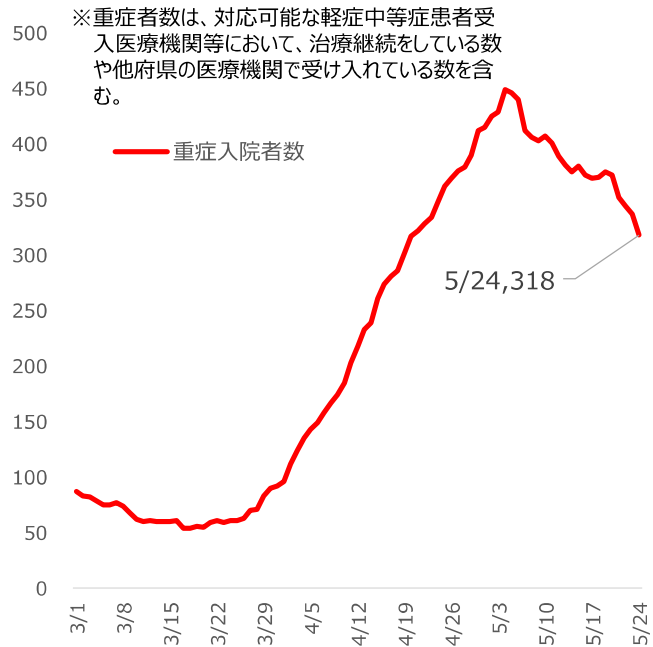
- 1 入院・療養状況 P2~6
- 2 重症者数の推移と年代別内訳 P7~13
- 3 重症・死亡例のまとめ P14~21

1 入院・療養状況

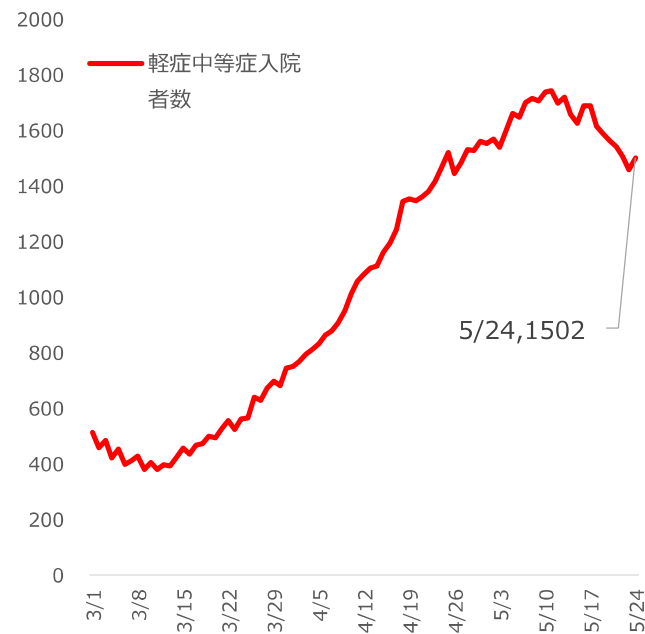
新規陽性者数と入院・療養者数 (5月24日時点)



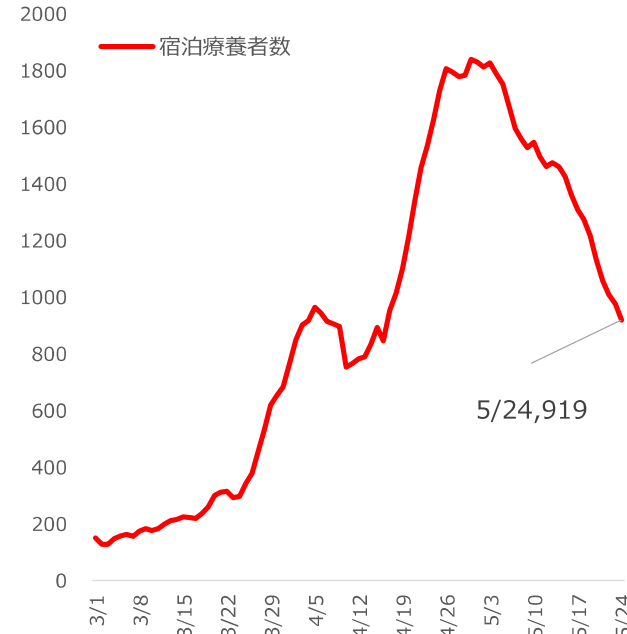
入院患者 (重症)



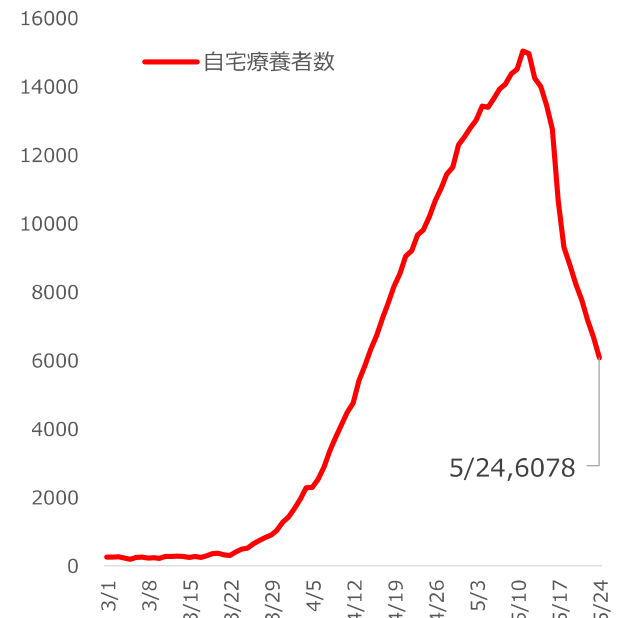
入院患者 (軽症中等症)



宿泊療養者



自宅療養者



入院・療養状況(5月24日時点)

		重症病床	軽症中等症病床	宿泊療養施設
確保計画	フェーズ1	75床	700床	800室
	フェーズ2	110床	1,000床	1,600室
	フェーズ3	150床	1,200床	2,400室
	フェーズ4	180床	1,500床	—
	フェーズ4-2	221床	1,800床	—
確保数等	確保数348床※ ※病床確保計画の確保病床数(224床)を上回って確保した病床数を含む。	確保数2,322床	3,986室	
入院・療養者数 (別途、自宅療養 6,078人)	289人※ ※上記の他、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において、治療継続をしている者 29人 (計 重症者数 318人)	1,531人※ ※左記29人を含む	919人	
使用率	83.0% (入院者数289/確保数等348) 大阪モデルに基づく使用率は、129.0% (入院者数289/確保病床数224)	65.9% (1,531/2,322)	23.1% (919/3,986)	
運用率	83.0% ※1 (入院者数289/運用数348) うち、大阪コロナ重症センター(24/30) (参考)91.4% 運用病床に占める重症者数割合 (重症者数318/運用数348)	66.7% (1,531/2,297)	23.1% (919/3,986)	

※1 運用率における入院者数には、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を除き、かつ、医療機関が重症病床として運用計画を大阪府に提出していない病床に入院している重症者数を含む。

新型コロナウイルス感染症患者受入病床の確保・運用状況

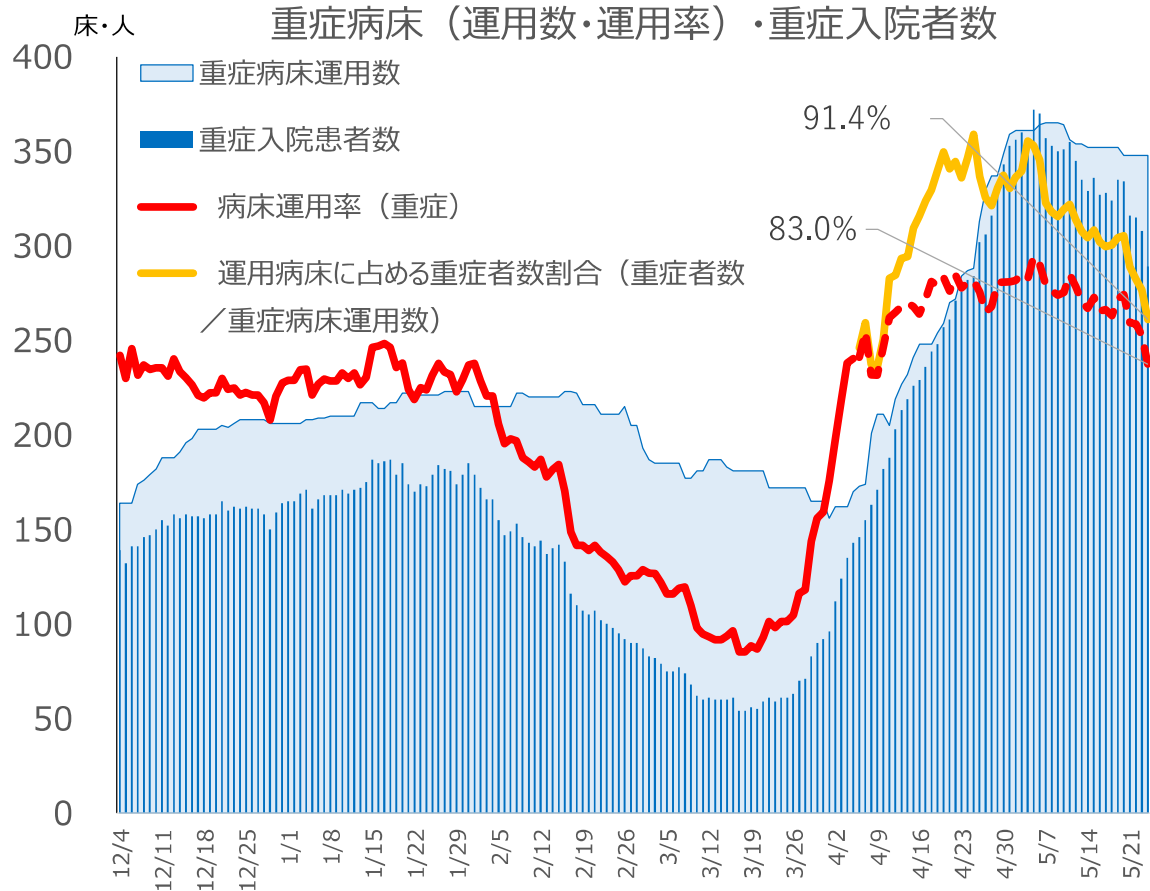
● 重症病床運用状況(令和2年12月4日以降)

5月24日現在 **病床運用率83.0%**

運用病床数 **348床**※1 入院患者数 **289人**※2

※1 病床確保計画の確保病床数(224床)を上回って確保した病床数を含む。

※2 上記の他、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において、治療継続をしている重症者数29人(計重症者数318人)また、医療機関が重症病床として運用計画を大阪府に提出していない病床に入院している重症者数を含む。



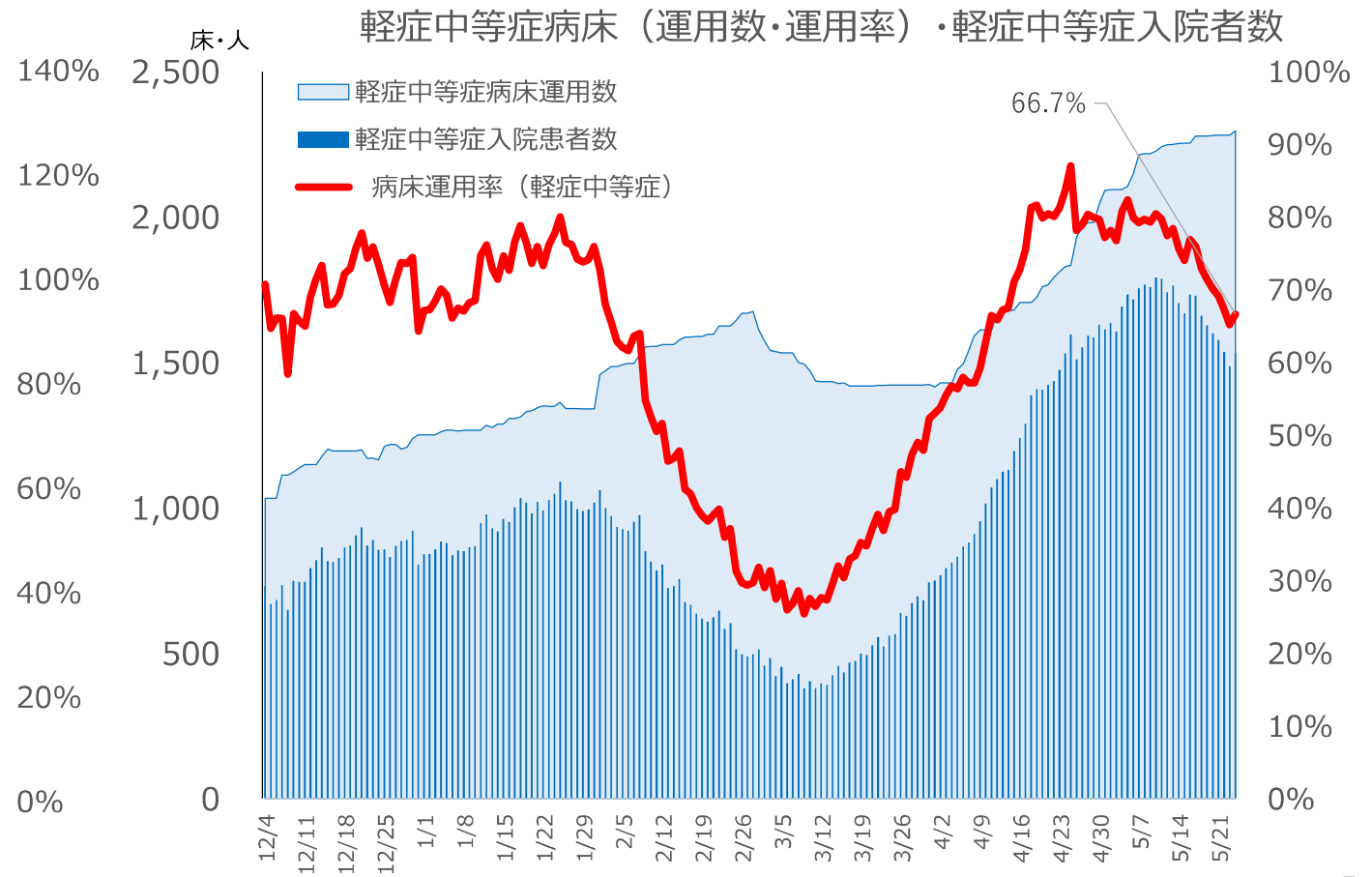
● 軽症中等症病床運用状況(令和2年12月4日以降)

5月24日現在 **病床運用率66.7%**

運用病床数 **2,297床** 入院患者数 **1,531人**※

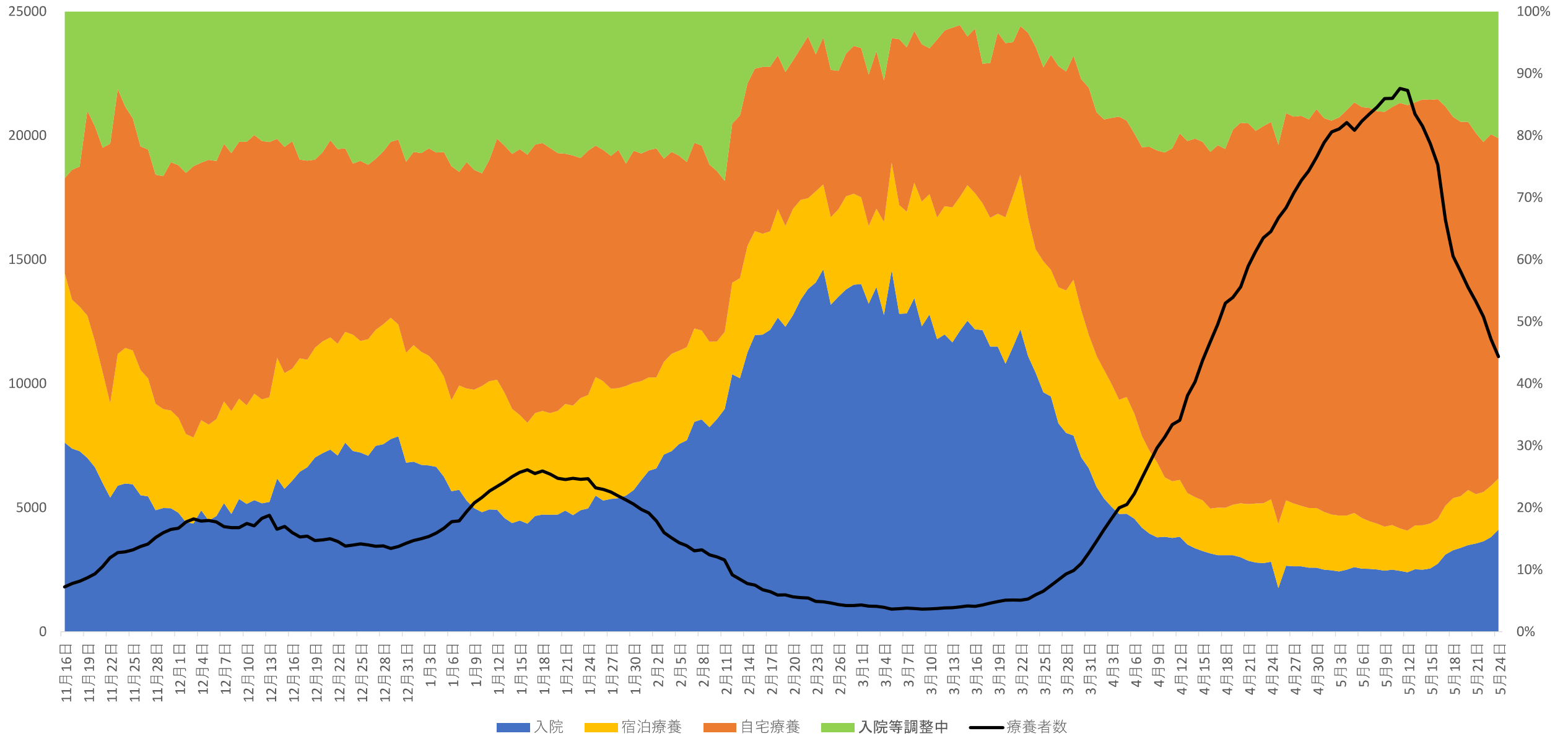
(※左記29人を含む)

- **小児・精神患者用病床等約80床を除いた運用率 約69%**
- **重症者を治療継続をすることで、軽症中等症患者受入可能な病床数は実際より少なく、極めてひっ迫**



入院・療養状況(5月24日時点)

入院率は、5月15日以降増加傾向(5月24日時点 16.4%)。



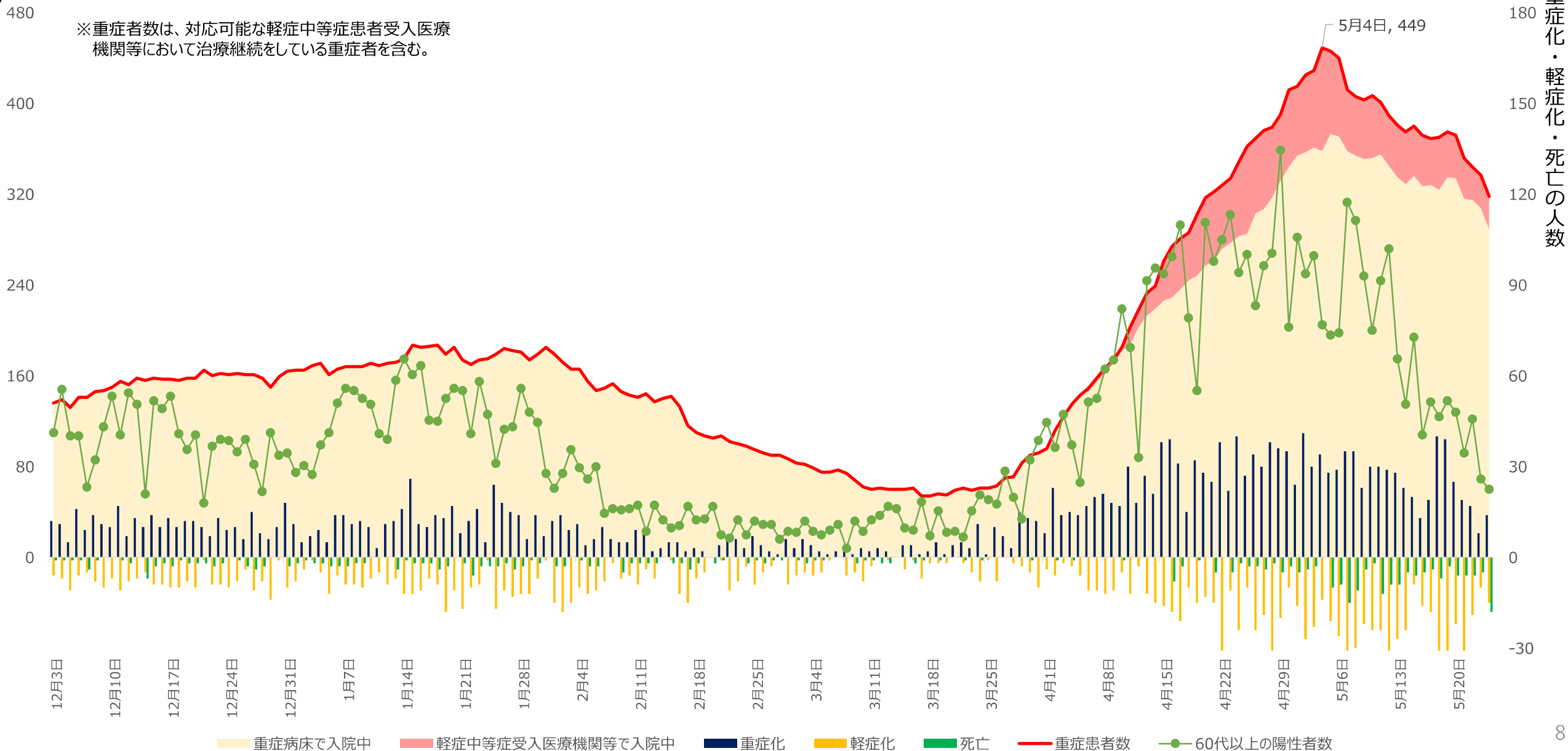
2 重症者数の推移と年代別内訳

新規陽性者数と重症者数の推移

60代以上の新規陽性者数と重症患者数の推移（報道提供日ベース）

60代以上の新規陽性者数と重症患者数

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。

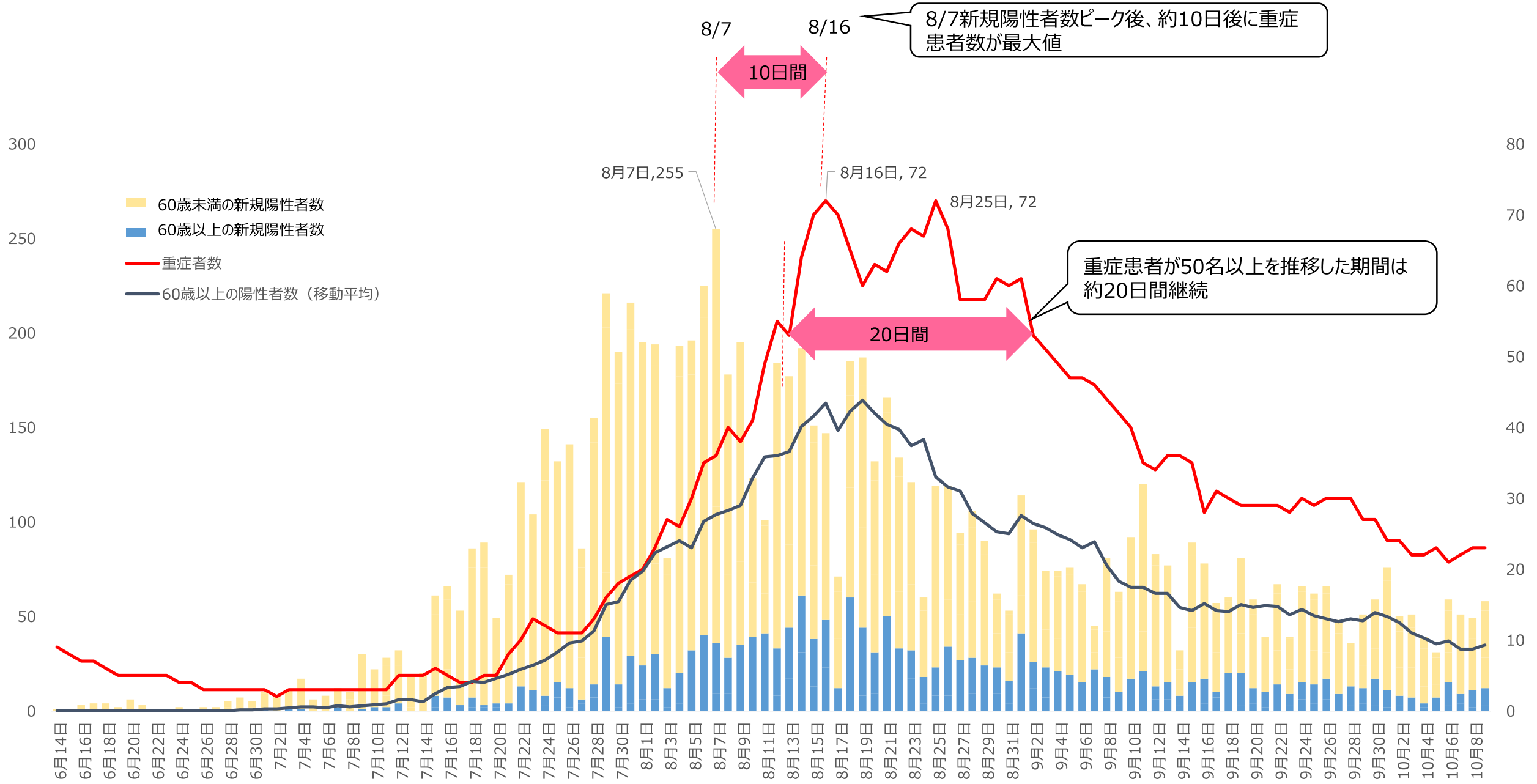


重症化・軽症化・死亡の人数

【第二波】陽性者の年齢区分と重症者数の推移

陽性者数

重症者数

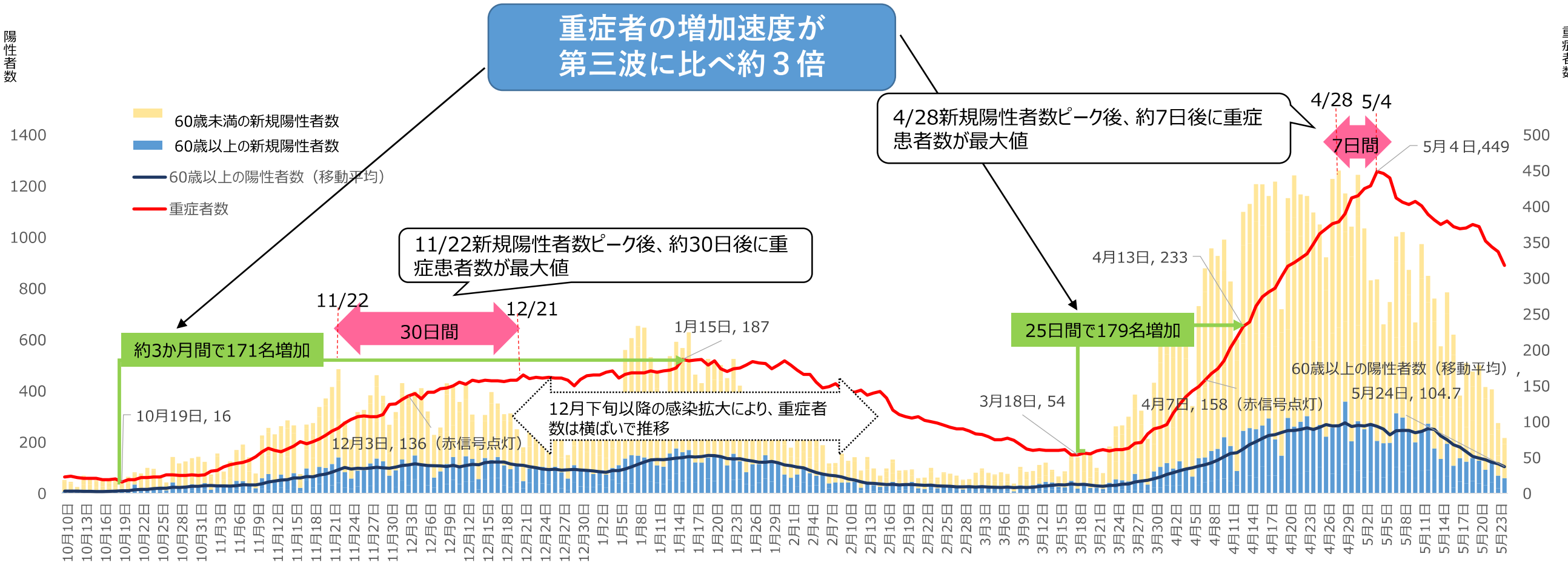


【第三波・第四波】重症者数と60歳以上の陽性者数の推移

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。

陽性者数

重症者数



新規陽性者数は64.4%減

	3/30-4/5	4/6-4/12	4/13-4/19	4/20-4/26	4/27-5/3	5/4-5/10	5/11-5/17	5/18-5/24
新規陽性者数	3861	5914	7743	7792	7865	5865	4947	2797
60代以上の陽性者数	696	1109	1665	1878	1885	1657	1265	733
割合 (%)	18.0%	18.8%	21.5%	24.1%	24.0%	28.3%	25.6%	26.2%

60代以上陽性者数は61.1%減

【第四波】重症者数の推移と今後の課題

【第四波の重症者数の推移】

- 重症者数は、第三波において171名増加に要した日数が約3か月のところ、**第四波は179名増加に要した日数が約25日間と3倍の速度で増加。**
また、重症者数は3月18日 54名から5月4日 449名となり、**48日間で395名増加（約8.3倍）。**
- 第三波では、重症者数が10月19日 16名から12月3日（赤信号点灯）136名まで46日間。
第四波は、重症者数が3月18日 54名から4月7日（赤信号点灯）158名まで21日間と短期間。
- 新規陽性者数ピーク後から重症者数ピークまでの期間は、第三波30日間に対し、**第四波7日間と短期間。**

【重症者数における今後の課題】

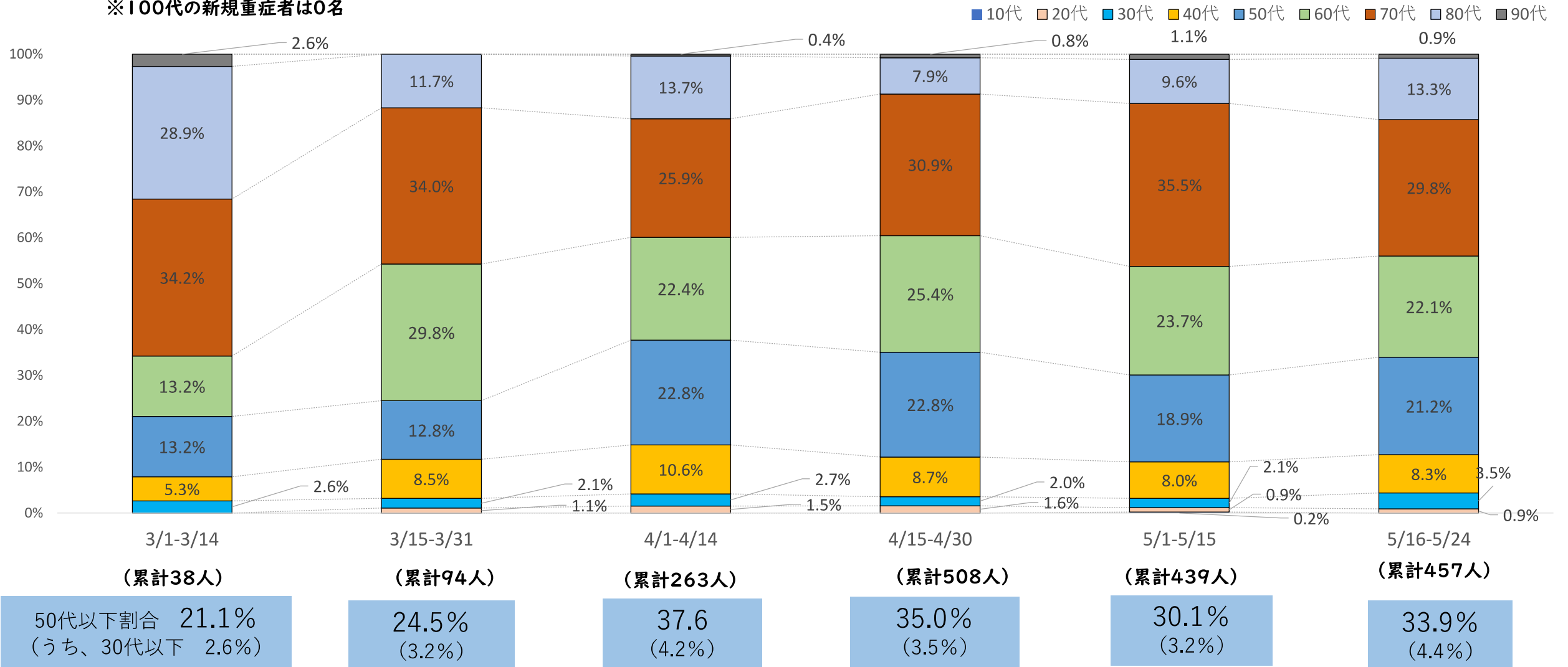
- 5月の新規陽性者数に占める60代以上の高齢者の割合は3割と依然多いことから、**引き続き、重症者数が一定数発生することが想定**

年代別新規重症者の内訳（公表日別）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。

第四波では、4月以降、新規重症者数に占める50代以下の割合が増加。

※100代の新規重症者は0名

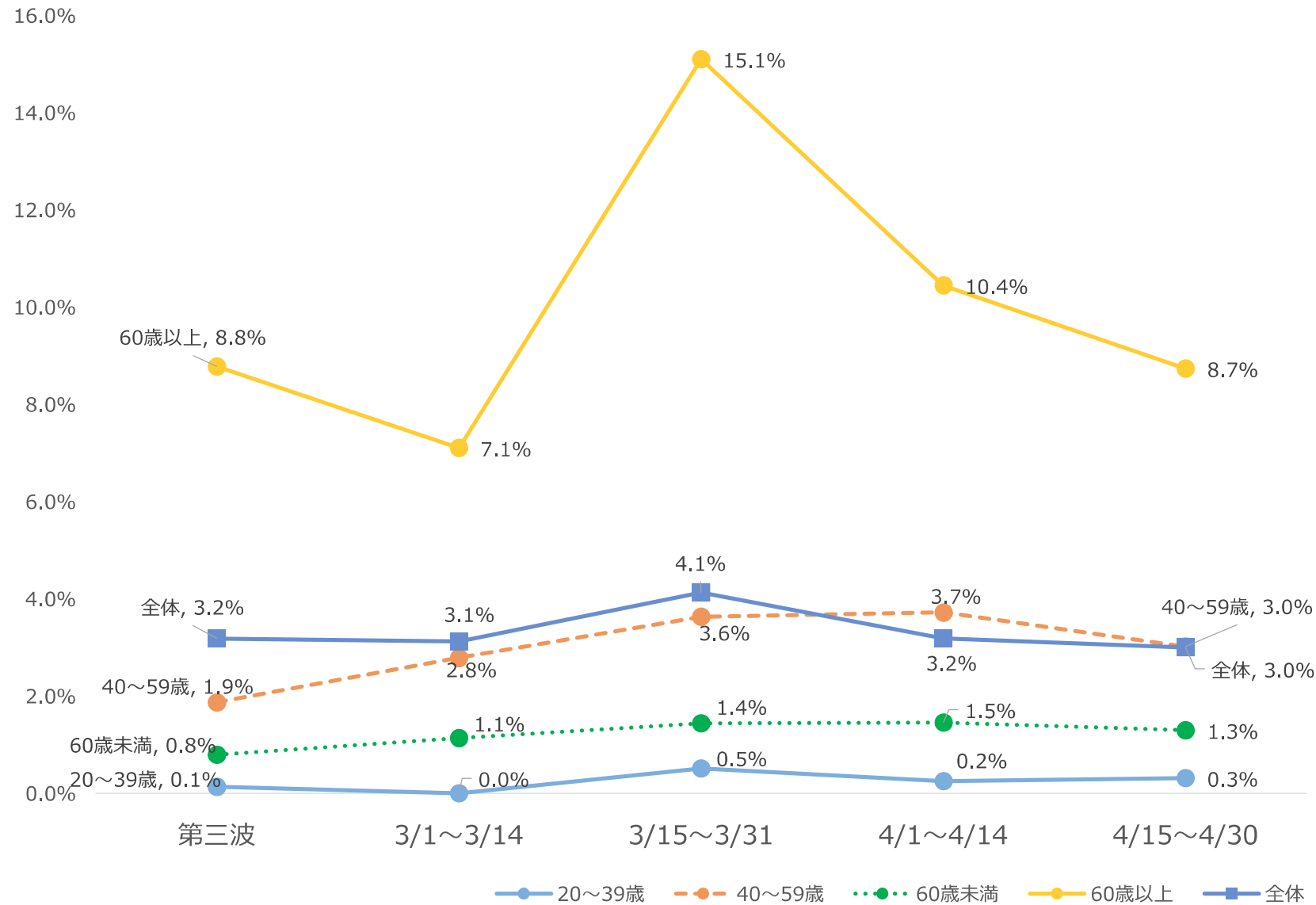


年代別重症率の推移（令和3年5月19日時点）

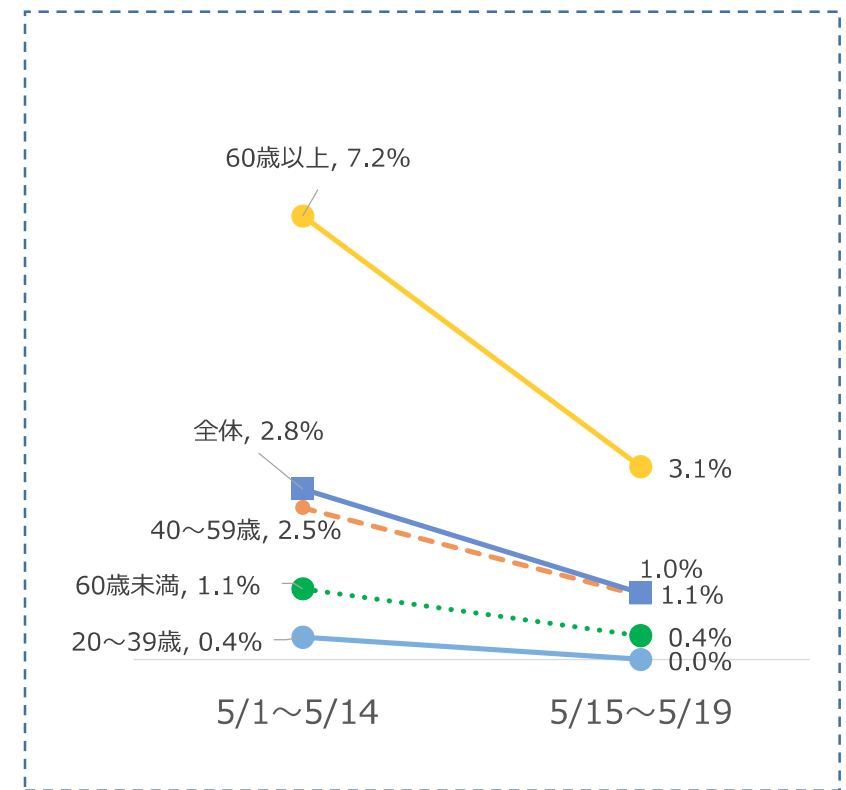
※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。

第三波と比べ、各年代の重症化率は高い傾向。

年代別重症率の推移



※陽性判明から重症化まで約1週間程度要することから、今後、重症者数が増加する期間



3 重症・死亡例のまとめ

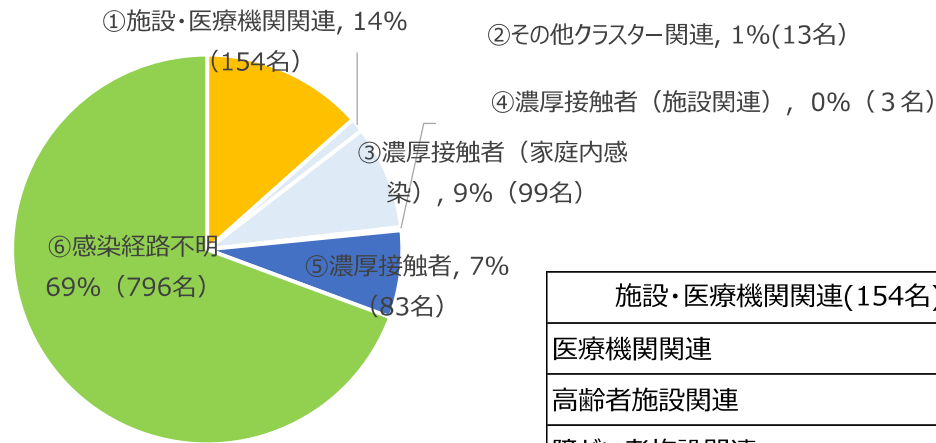
【第三波】重症・死亡例について推定される感染経路（令和3年5月19日時点）

死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

第三波の重症例1,148名について、推定される感染経路の7割は感染経路不明者。

死亡例938名について、推定される感染経路の5割強が施設・医療機関関連で、3割強が感染経路不明者。

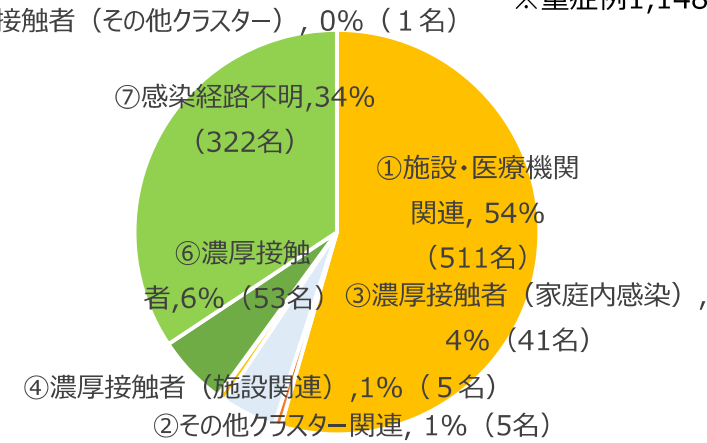
重症例（N=1,148）について推定される感染経路



施設・医療機関関連(154名)の内訳	
医療機関関連	94
高齢者施設関連	56
障がい者施設関連	4

死亡例（N=938）について推定される感染経路

※重症例1,148例のうち、233例は死亡のため重複あり



施設・医療機関関連 (511名)の内訳	
医療機関関連	272
高齢者施設関連	238
障がい者施設関連	1

年代	重症例総数	感染経路内訳						陽性者総数	重症化率
		施設・医療機関関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者	感染経路不明		
未就学児	1			1				689	0.15%
20代	2	1					1	7,079	0.03%
30代	14		1	1			12	4,654	0.30%
40代	42	2		1		3	36	4,851	0.87%
50代	142	7	3	6		11	115	4,994	2.84%
60代	246	20		24		17	185	3,393	7.25%
70代	451	57	7	49	3	32	303	3,658	12.33%
80代	224	48	2	16		18	140	2,797	8.01%
90代	26	19		1		2	4	899	2.89%
計	1,148	154	13	99	3	83	796	33,014	-

年代	死亡例総数	感染経路内訳							陽性者総数	死亡率
		施設・医療機関関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者（その他クラスター）	濃厚接触者	感染経路不明		
30代	1							1	4,654	0.02%
40代	3							2	4,851	0.06%
50代	14	5						7	4,994	0.28%
60代	55	16	1	3	1			31	3,393	1.62%
70代	239	106	2	14			10	107	3,658	6.53%
80代	414	225	2	19	2	1	23	142	2,797	14.80%
90代	202	150		5	2		13	32	899	22.47%
100代	10	9					1		36	27.78%
計	938	511	5	41	5	1	53	322	25,282	-

【第四波】重症・死亡例について推定される感染経路（令和3年5月19日時点）

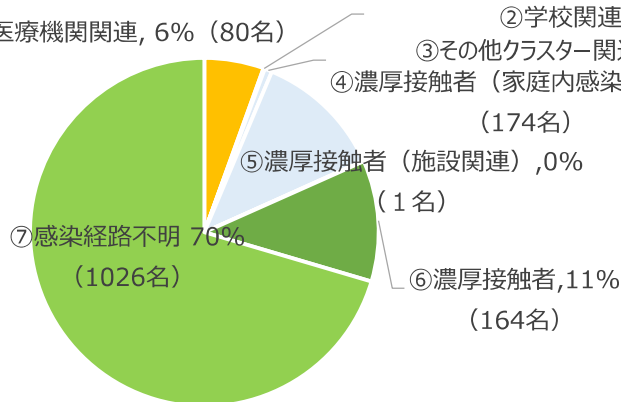
死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

第四波の重症例1,457名について、推定される感染経路の7割は感染経路不明者で第三波と同じ傾向。施設・医療機関関連の割合は第三波に比べ、減少。

死亡例869名について、推定される感染経路の3割強が施設・医療機関関連で、第三波の5割強より減少。感染経路不明者は5割であり、第三波の3割より増加。

重症例（N=1,457）について推定される感染経路

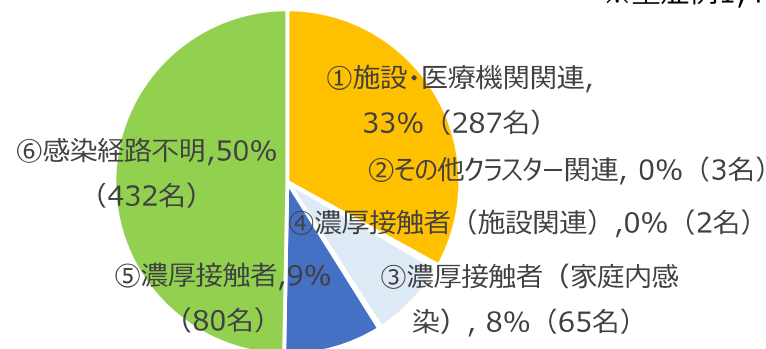
- ①施設・医療機関関連, 6% (80名)
- ②学校関連, 0% (2名)
- ③その他クラスター関連, 1% (10名)
- ④濃厚接触者（家庭内感染）, 12% (174名)
- ⑤濃厚接触者（施設関連）, 0% (1名)
- ⑥濃厚接触者, 11% (164名)
- ⑦感染経路不明 70% (1,026名)



施設・医療機関関連	人数
医療機関関連	45
高齢者施設関連	29
障がい者施設関連	3
児童施設関連	2
福祉施設関連	1

死亡例（N=869）について推定される感染経路

※重症例1,457例のうち、188例は死亡のため重複あり



施設・医療機関関連	人数
医療機関関連	113
高齢者施設関連	169
障がい者施設関連	3
児童施設関連	1
福祉施設関連	1

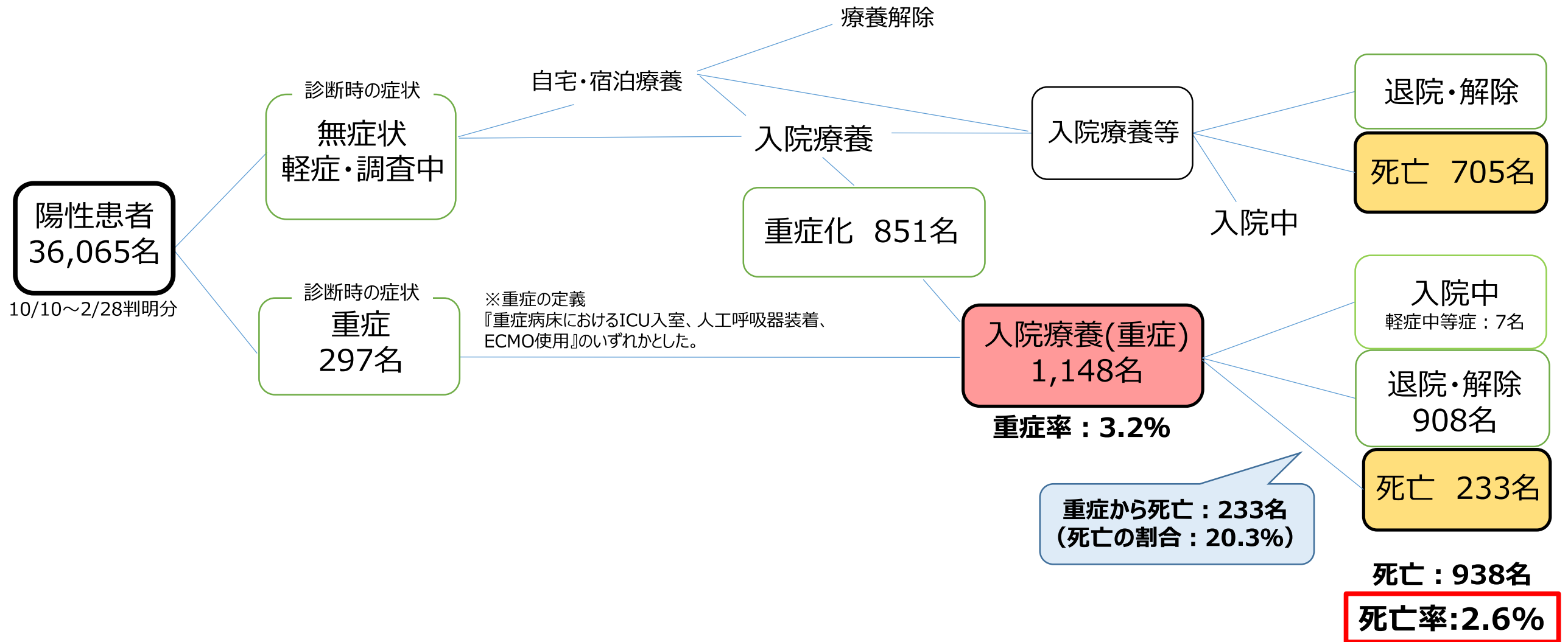
年代	重症例総数	感染経路内訳							陽性者総数	重症化率
		施設・医療機関関連	学校関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者	感染経路不明		
10代	1	1							4,168	0.02%
20代	18				1		3	14	10,794	0.17%
30代	35				5		4	26	6,713	0.52%
40代	126	1		4	6		11	104	7,268	1.73%
50代	292	9	1	4	32		33	213	6,797	4.30%
60代	350	15	1	1	43		41	249	4,052	8.64%
70代	468	29		1	67		55	316	3,860	12.12%
80代	155	23			19	1	15	97	2,633	5.89%
90代	12	2			1		2	7	804	1.49%
計	1,457	80	2	10	174	1	164	1,026	47,089	-

年代	死亡例総数	感染経路内訳							陽性者総数	死亡率	
		施設・医療機関関連	その他クラスター関連	濃厚接触者（家庭内感染）	濃厚接触者（施設関連）	濃厚接触者	感染経路不明				
30代	5				1			1	3	6,713	0.07%
40代	12								12	7,268	0.17%
50代	41	4			1			3	33	6,797	0.60%
60代	76	19			9			3	45	4,052	1.88%
70代	229	53	1		22			22	131	3,860	5.93%
80代	359	133	2		27	2		35	160	2,633	13.63%
90代	141	75			5			15	46	804	17.54%
100代	6	3						1	2	41	14.63%
計	869	287	3		65	2		80	432	32,168	-

(参考) 【第三波】重症及び死亡事例のまとめ (令和3年5月19日時点)

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

重症及び死亡例の経過

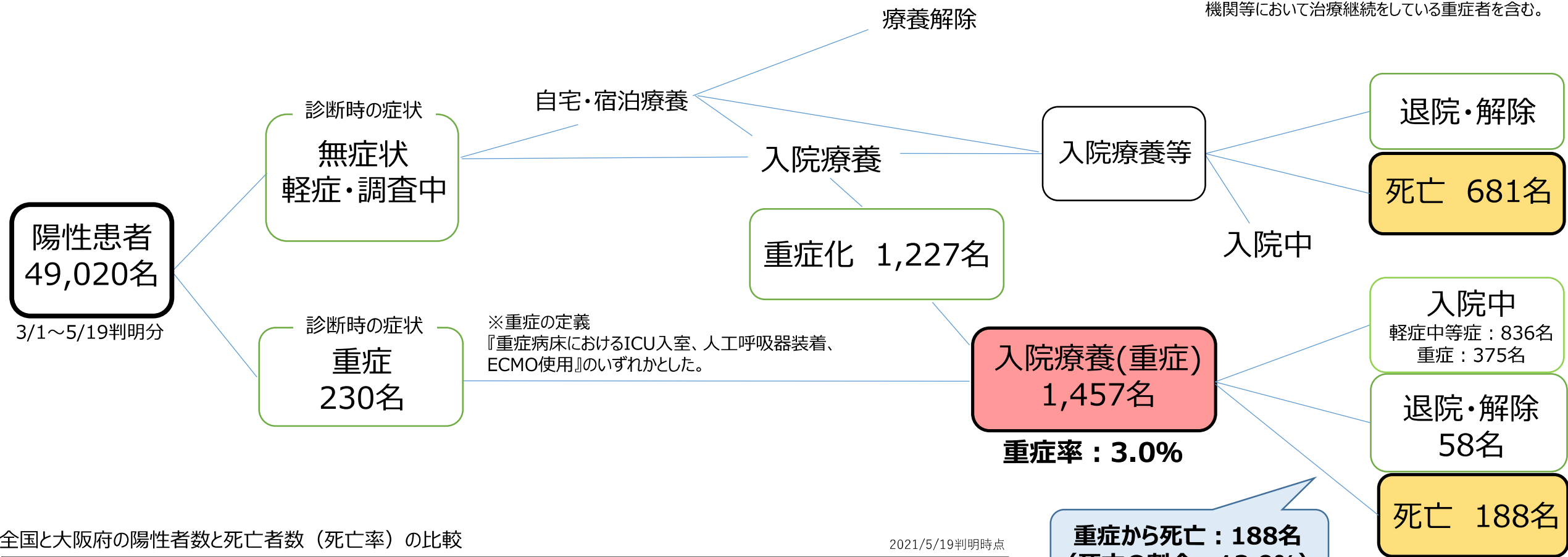


【第四波】重症及び死亡事例のまとめ（令和3年5月19日時点）

重症及び死亡例の経過

※死亡率：新規陽性者に占める死亡者の割合

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。



全国と大阪府の陽性者数と死亡者数（死亡率）の比較

2021/5/19判明時点

	累計陽性者数	死亡者数 (死亡率)			
		6/13まで	6/14~10/9	10/10~2/28	3/1~5/19
大阪府	96,142	1,786 (2.1%)	9,271 (4.9%)	36,065 (1.5%)	49,020 (2.6%)
全国	689,816	17,179 (5.4%)	70,012 (1.0%)	343,342 (1.8%)	259,283 (1.5%)

※チャーター機帰国者、クルーズ船乗客、空港検疫は含まれていない

※全国は厚生労働省公表資料（5/19の国内の発生状況）より集計。

※死亡率は5月19日時点までの死亡者数に基づく。今後、死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

重症者のまとめ（令和3年5月19日時点）

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。

第三波と比べ、重症者数に占める50代以下の割合が32.4%（第三波 17.5%）と大きい。

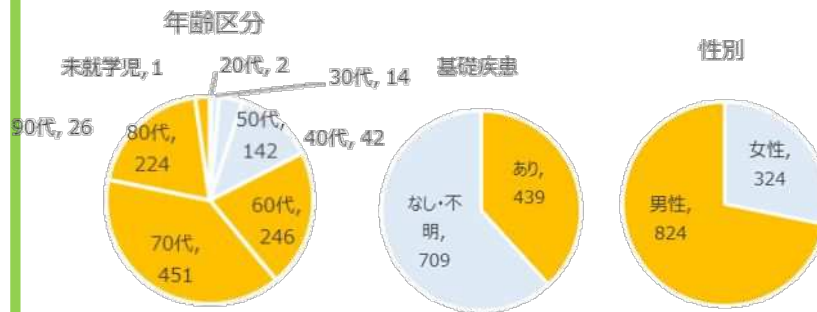
第三波（10/10～2/28）

新規陽性者数	36,065
(再掲)40代以上(割合)	20,628(57.2%)
(再掲)60代以上(割合)	10,783(29.9%)
重症者数（※）	1,148
死亡	233
転退院・解除	908
帰入院中（軽症）	7
帰入院中（重症）	0

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が4例あり

■重症者の割合

- ①40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.5% (1,131/20,628)
- ②60代以上の陽性者に占める重症者の割合：8.8%(947/10,783)
- ③全陽性者数に占める重症者の割合：3.2%(1,148/36,065)



平均年齢：66.1歳、60代以上の割合：82.5%

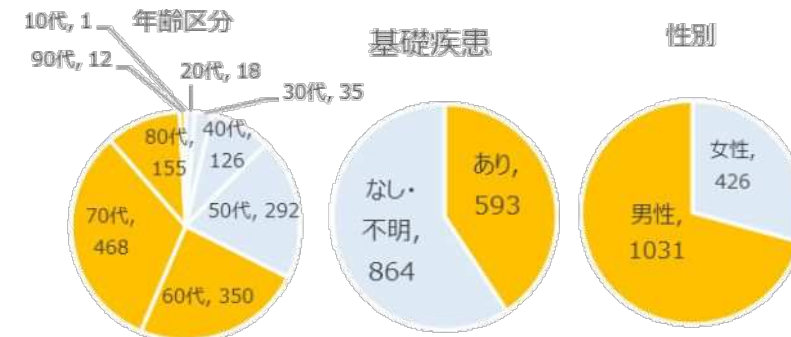
第四波（3/1以降）

新規陽性者数	49,020
(再掲)40代以上(割合)	25,455(51.9%)
(再掲)60代以上(割合)	11,390(23.2%)
重症者数（※）	1,457
死亡	188
転退院・解除	58
帰入院中（軽症）	836
帰入院中（重症）	375

※軽症化後の情報把握のため報道提供していない事例が12例あり

■重症者の割合

- ①40代以上の陽性者に占める重症者の割合：5.5%(1,403/25,455)
- ②60代以上の陽性者に占める重症者の割合：8.6%(985/11,390)
- ③全陽性者数に占める重症者の割合：3.0%(1,457/49,020)



平均年齢：60.6歳、60代以上の割合：67.6%

死亡例のまとめ（令和3年5月19日時点）

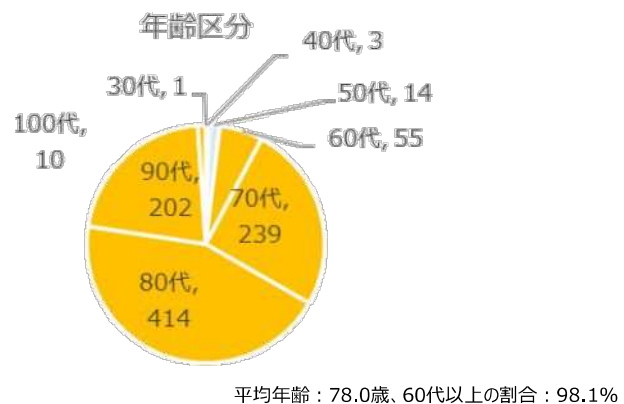
第三波と比べ、死亡者数に占める50代以下の割合が6.7%（第三波 1.9%）と大きい。

第三波（10/10～2/28）

新規陽性者数	36,065
(再掲)40代以上(割合)	20,628(57.2%)
(再掲)60代以上(割合)	10,783(29.9%)
死亡者数	938

■死亡例の割合

- ①40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：4.5% (937/20,628)
- ②60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：8.5%(920/10,783)
- ③全陽性者数に占める死亡例の割合：2.6%(938/36,065)



基礎疾患

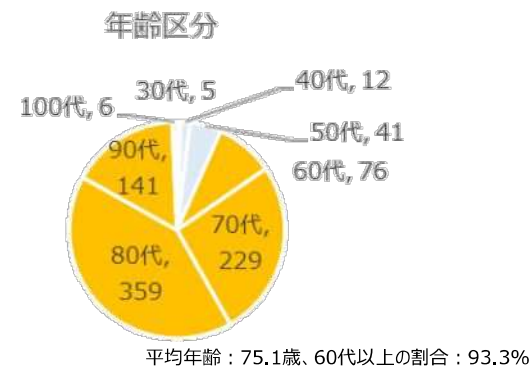


第四波（3/1以降）

新規陽性者数	49,020
(再掲)40代以上(割合)	25,455(51.9%)
(再掲)60代以上(割合)	11,390(23.2%)
死亡者数	869

■死亡例の割合

- ①40代以上の陽性者に占める死亡例の割合：3.4%(864/25,455)
- ②60代以上の陽性者に占める死亡例の割合：7.1%(811/11,390)
- ③全陽性者数に占める死亡例の割合：1.8%(869/49,020)

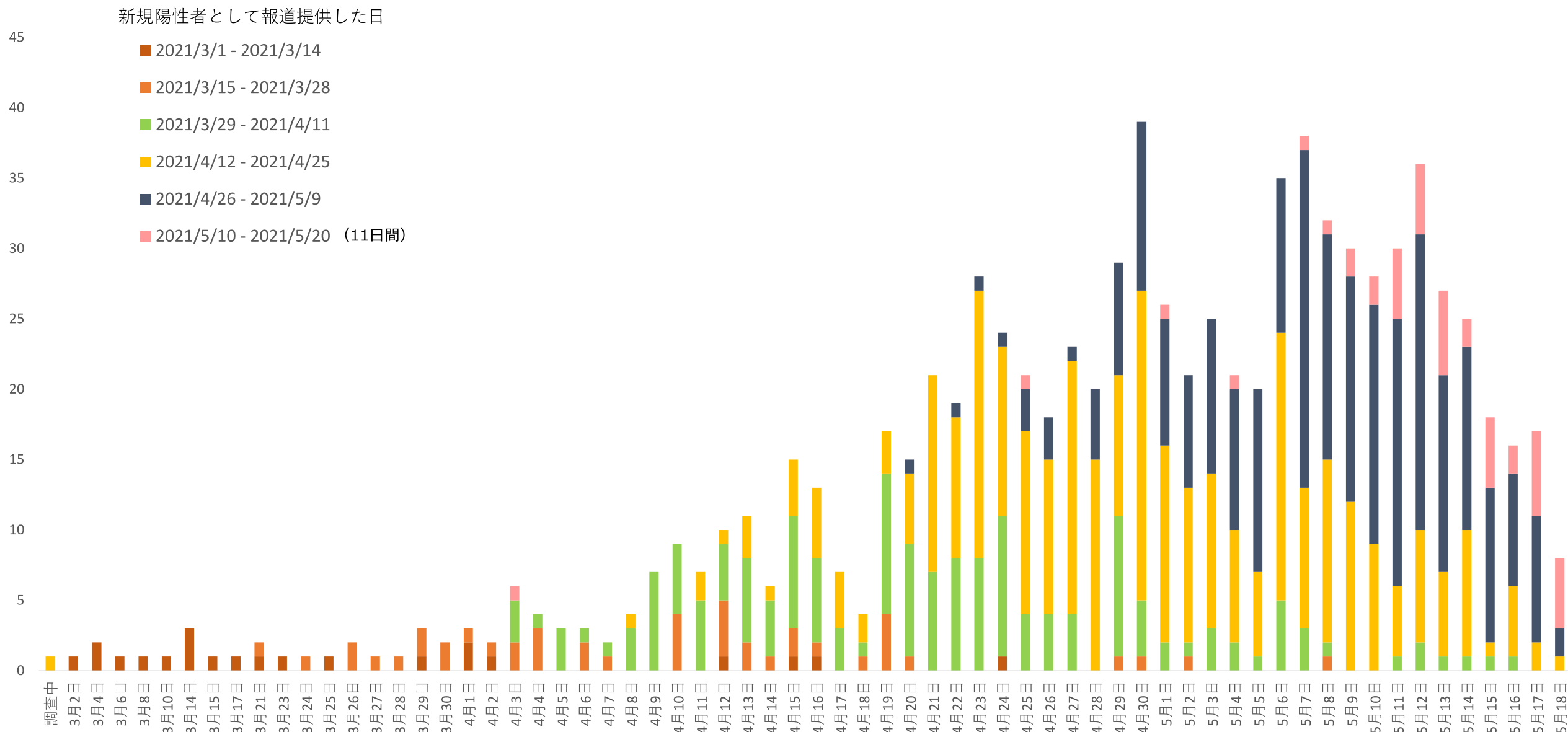


基礎疾患



※死亡率は5月19日時点までの死亡者数に基づく。
今後、死亡者数・新規陽性者数の推移により変動

死亡日別の死亡者数（令和3年5月19日時点）



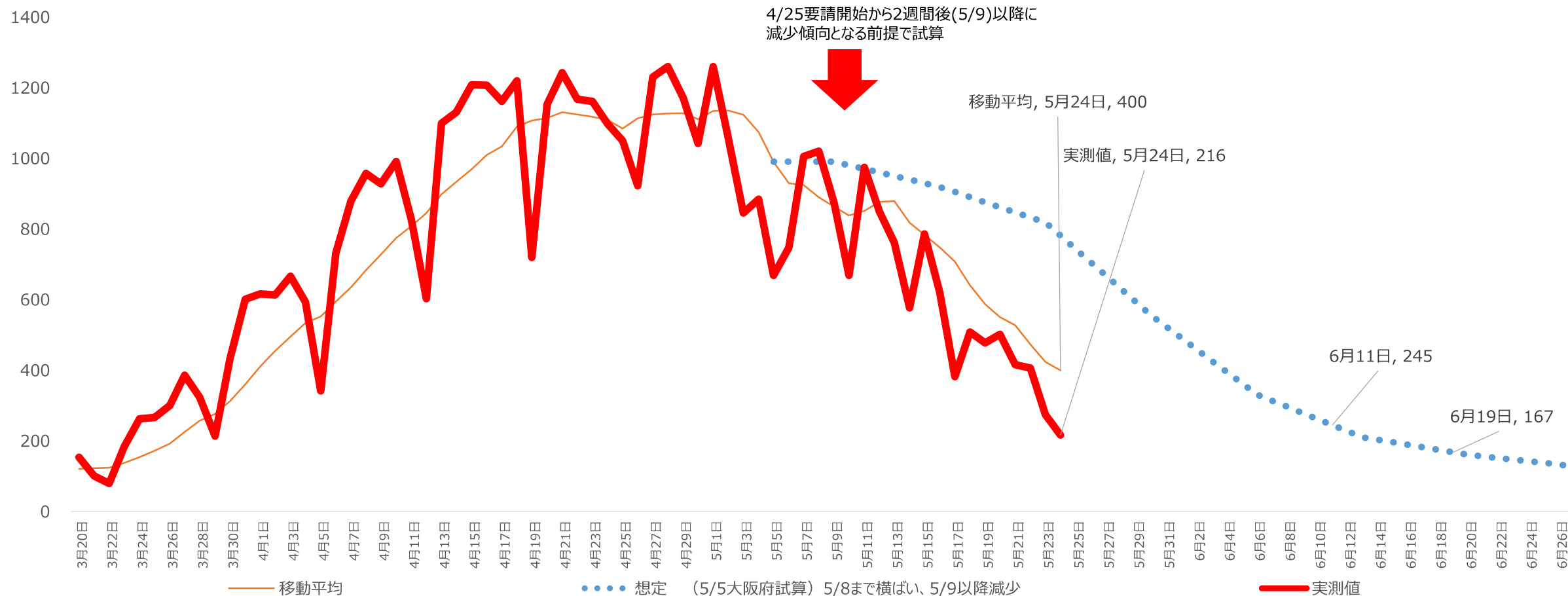
新規陽性者数の推移と患者発生シミュレーション

資料 1 - 3

■ 第48回対策本部会議資料（資料1-4）のシミュレーション（想定③のみ）に実測値をあてはめ。

想定：5/6から5/8までは990名/日（5/5時点の新規陽性者数の7日間平均値）の横ばいとなり、5/9（4/25緊急事態措置開始後2週間）以降、第三波（1月中旬以降）と同じ前週比で減少する場合。

患者発生シミュレーション



直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数が25（ステージⅣ）を下回る日：6月11日

直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数が15（ステージⅢ）を下回る日：6月19日

療養者数のシミュレーション

※重症者数は、対応可能な軽症中等症患者受入医療機関等において治療継続をしている重症者を含む。

入院患者数（重症）シミュレーション

■ 以下の想定でシミュレーションを実施。

5/6から5/8までは990名/日の横ばいとなり、5/9以降第三波（1月中旬以降）と同じ前週比で減少する場合。

【陽性者数の設定の考え方】

■ 新規陽性者中の60代以上の陽性者の割合を18%（※1）と設定。

■ 新規陽性者中の40代・50代の新規陽性者数を28%（※1）と設定。

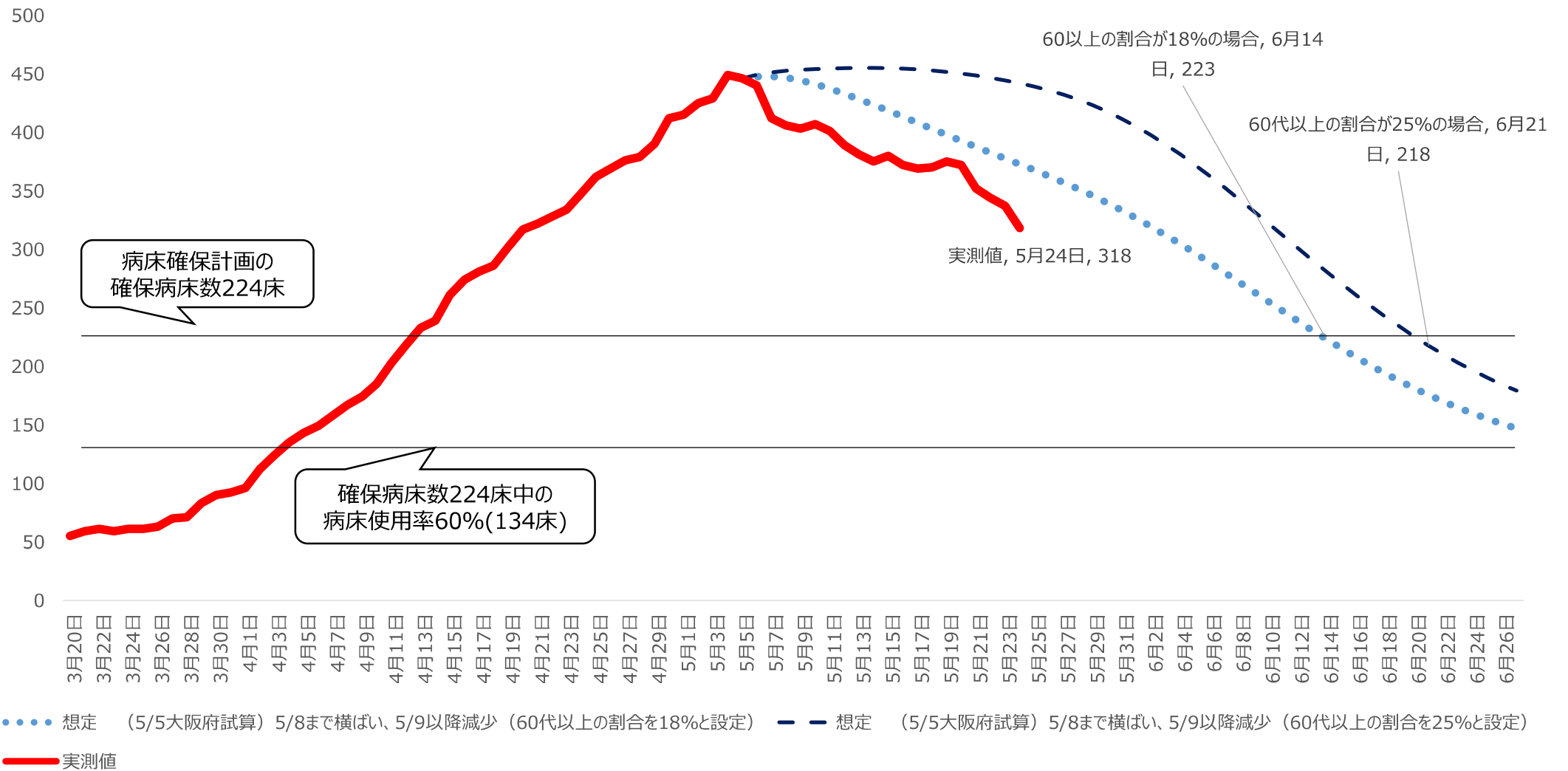
※1：4月7日時点の新規陽性者中の割合（7日間）

【重症率の設定の考え方】

■ 60代以上の新規陽性者の重症率は9.0%（※2）と設定。

■ 40代・50代の新規陽性者の重症率は2.1%（※2）と設定。

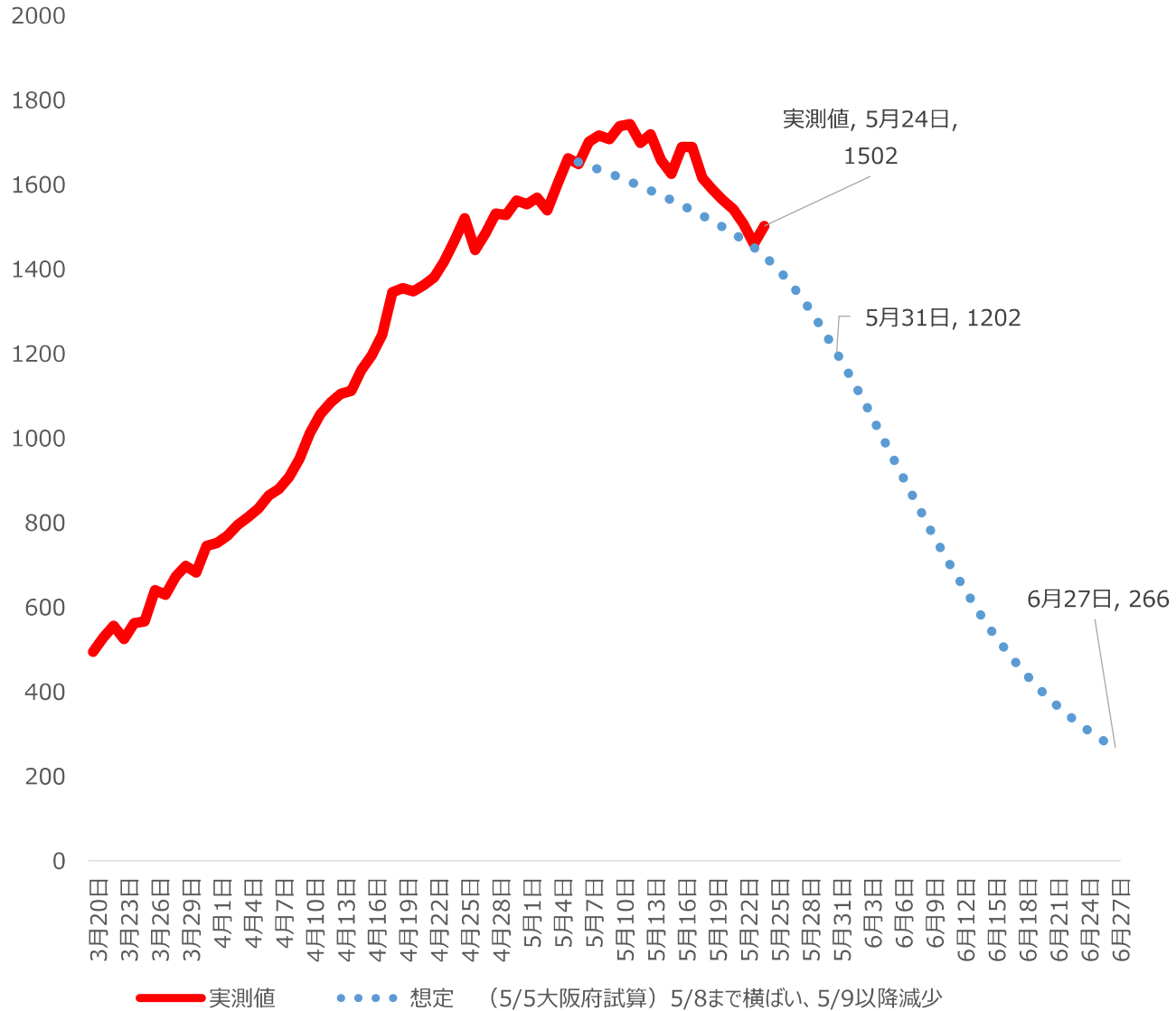
※2：第四波（3/1～4/5）における重症率



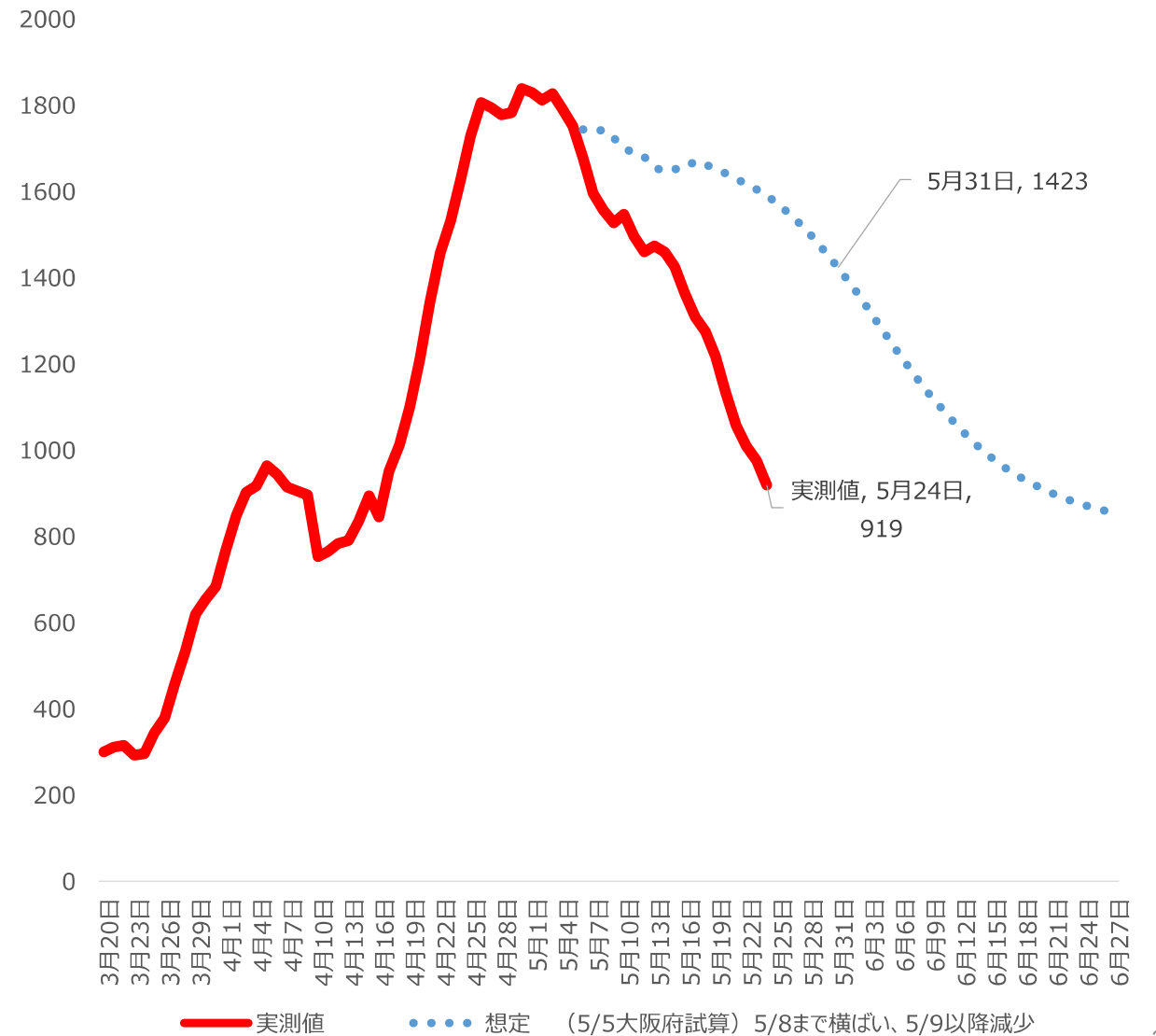
※陽性者数や重症率の設定の考え方は4月5日時点の数値に基づいてシミュレーションを実施しているが、60代以上の割合は直近の数値（5/5時点の新規陽性者中の割合（7日間）25%）に基づきシミュレーションを追加実施。2
今後、重症率や新規陽性者中の60代以上の割合が増加（第三波では最大で35%程度）すると、重症者数は想定するシミュレーションの値よりも増加する可能性あり。

療養者数のシミュレーション

入院患者数（軽症中等症）シミュレーション



宿泊療養者数シミュレーション



新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- 緊急事態宣言発令以降、新規陽性者数は減少傾向が続いているが、一日平均約400名の新規陽性者が発生しており、高水準で推移。直近1週間の人口10万人あたり新規陽性者数は、31.73人とステージⅣの基準（25人）を依然、超過。シミュレーション（5/6時点）上の新規陽性者数減少速度より早期に減少。
- 全年代で新規陽性者数が減少傾向。
- 緊急事態措置適用の4月25日以降、人流が大きく減少し、推定感染日別陽性者数も大きく減少。

(2) 市内・市外居住者の発生動向（週・人口10万人あたり）

- 週・人口10万人あたりの新規陽性者数は、緊急事態措置適用以降、市内・市外居住者ともに大きく減少。市外居住者はステージⅢ（15人）の基準に到達しつつある一方、市内居住者はステージⅣ（25人）を依然超過。特に10代～50代の市内居住者の陽性者数が極めて多い。
- 感染経路不明者の割合は、市内6割、市外5割であり、市中感染が依然多く発生。

(3) 夜の街関連やクラスターの発生動向

- 新規陽性者に占める夜の街の関係者及び滞在者数、特に居酒屋・飲食店に滞在歴のある新規陽性者数は減少しているが、第三波緊急事態措置期間中ほどには減少していない。滞在エリアでは市内外ともに減少している。
- 陽性者のエピソードでは、3密のいずれかに該当するものや昼間の集まりでの感染事例も多くみられる。特に、会食は時間に関係なく発生。
- 4月25日以降、医療機関関連のクラスターが急増。施設数では大学・学校関連は減少しているが、施設関連や企業事業所関連に大きな減少傾向は見られない。

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- 重症者数は5月4日449名をピークに減少しているが、**確保病床（224床）における重症病床使用率は129%（大阪モデル）と100%を大きく超過。**
軽症中等症病床使用率も依然、7割弱とひっ迫している状況が続いている。
緊急事態措置解除基準の目安となる**医療のひっ迫具合を示す分科会の各指標は依然、基準を大きく超過**しており、**第三波における緊急事態措置解除時（3月1日）の水準から大きく乖離。**
(例 入院率 3/1 56.1%⇒5/24 16.4%、病床占有率 3/1 30.4%⇒5/24 68.2%)
- **新規陽性者数に占める60代以上の高齢者の割合は3割弱、60代以上新規陽性者数（7日間移動平均）は105名程度と依然、多い状況**であり、引き続き、重症者数が一定数発生することが想定。**重症者数の減少の推移は注視が必要。**

今後の対応方針について

- 緊急事態措置の効果により、新規陽性者数は大きく減少しており、**感染状況については改善**している。
一方で、**重症病床・軽症中等症病床のひっ迫状況は、改善傾向にはあるものの、依然、極めて厳しい状況。**
病床使用率や入院率など医療のひっ迫を示す指標は、第三波緊急事態措置解除時点の水準から大きく乖離。
- 今後、**感染性が高い可能性があるインド株など、新たな変異株の流行が懸念**され、また、夏に向けて恒例行事等による感染リスク機会の増大も想定されるなか、**感染収束を確実なものとし、次の感染拡大に至る前に医療提供体制への負荷を十分に減らしておくことが必要。**
⇒府全域での接触機会の大幅な削減に向けた取組みの継続が必要。

新型コロナウイルスの懸念される変異株 (VOC)

	主な 変異	感染性 (従来株比)	重篤度 (従来株比)	再感染やワクチン効果 (従来株比)
B.1.1.7 英国で最初に検出された 変異株	N501Y	1.32倍と推定※ (5~7割程度 高い可能性)	1.4倍 (40-64歳 1.66倍) と推定※ (入院・死亡リスクが高い 可能性)	効果に影響がある 証拠なし
B.1.351 南アフリカで最初に検出 された変異株	N501Y E484K	5割程度高い 可能性	入院時死亡リスク が高い可能性	効果を弱める 可能性
P.1 日本でブラジルからの渡 航者に最初に検出された 変異株	N501Y E484K	1.4-2.2倍高い 可能性	重篤度に影響がある証 拠なし	効果を弱める可能性 従来株感染者の再感染 事例の報告あり
P.3 フィリピンで最初に検出 された変異株	N501Y E484K	高い可能性	重篤度に影響がある証 拠なし	効果を弱める可能性
B.1.617 インドで最初に検出され た変異株	L452R (E484Q)	高い可能性	重篤度に影響 がある証拠なし	ワクチンと抗体医薬の 効果を弱める可能性

※感染性・重篤度は、国立感染症研究所等による日本国内症例の疫学的分析結果に基づくもの。ただし、重篤度について、本結果のみから変異株の重症度について結論づけることは困難。

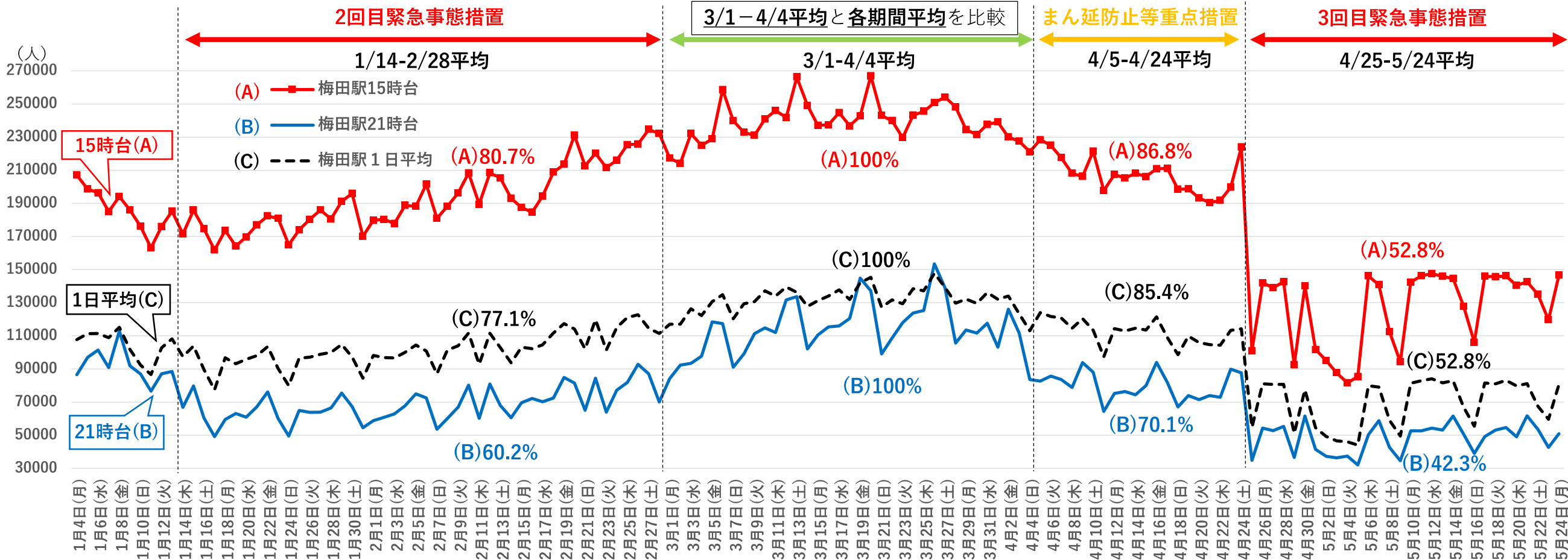
(出典)感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される 新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の新規変異株について (第8報) 4/17 (国立感染症研究所)
(参考)変異株の括弧内の系統名は、新型コロナウイルスに関して用いられている分類方法であるPangolinによる分子系統 IDによる分類系統名。

新型コロナウイルスの注目すべき変異株（VOI）

	主な 変異	概要
R.1 E484Kがある変異株	E484K	<ul style="list-style-type: none">• 国内で海外から移入したとみられるが起源不明• 感染性に影響を与える可能性がある変異は認められない• 現在日本で使用されているワクチンの効果を完全に無効化するものとは考えにくい• 引き続き、ゲノムサーベイランスを通じて実態を把握
B.1.427/B.1.429 米国で最初に検出された 変異株	L452R	<ul style="list-style-type: none">• 2割程度の感染性の増加と治療薬（抗体医薬）の効果への影響が示唆されている• 引き続き、ゲノムサーベイランスを通じて実態を把握

【時間帯別】滞在人口の推移（梅田駅15時台・21時台）

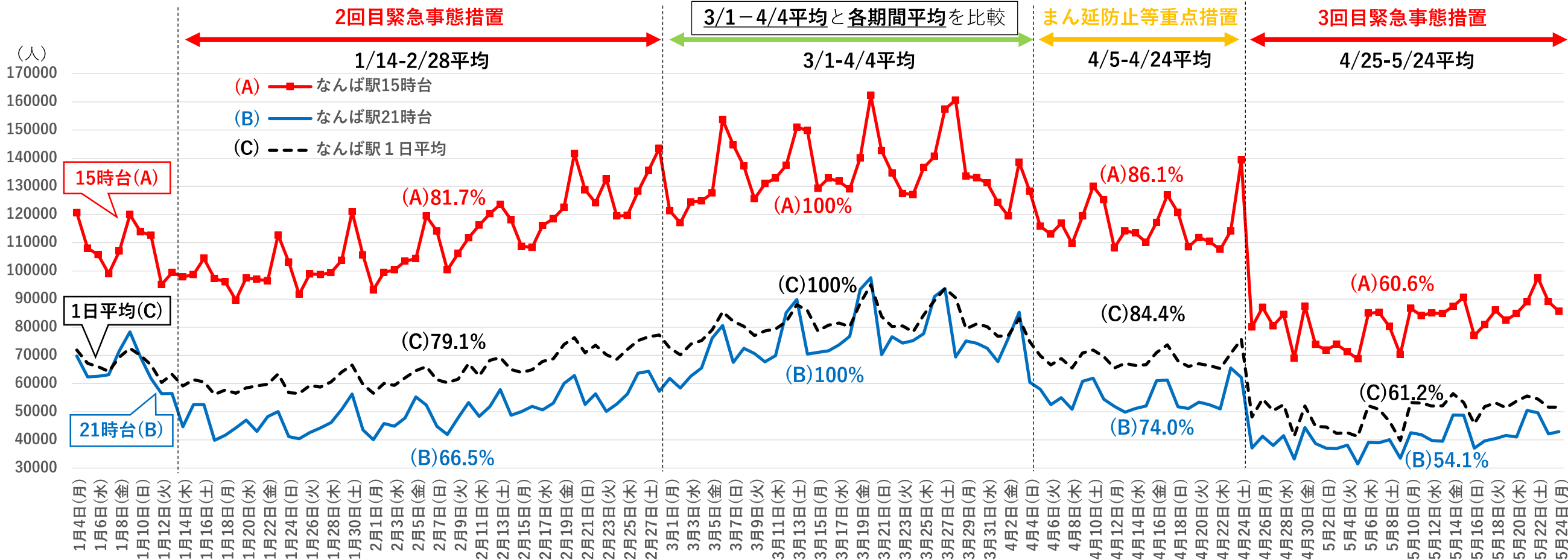
資料1-6



時間帯／比較期間	3/1-4/4平均との比較				
	1回目緊急事態措置 (4/7-5/21平均)	2回目緊急事態措置 (1/14-2/28平均)	3/1-4/4平均	まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)	3回目緊急事態措置 (4/25-5/24平均)
15時台	26.0%	80.7%	100%	86.8%	52.8%
21時台	21.2%	60.2%	100%	70.1%	42.3%
1日平均	27.6%	77.1%	100%	85.4%	52.8%

※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント
(例)エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人、
30分滞在していた場合は0.5人として計算
【出典：株式会社Agoop】

【時間帯別】滞在人口の推移（なんば駅15時台・21時台）



時間帯／比較期間	3/1-4/4平均との比較				
	1回目緊急事態措置 (4/7-5/21平均)	2回目緊急事態措置 (1/14-2/28平均)	3/1-4/4平均	まん延防止等重点措置 (4/5-4/24平均)	3回目緊急事態措置 (4/25-5/24平均)
15時台	33.4%	81.7%	100%	86.1%	60.6%
21時台	30.3%	66.5%	100%	74.0%	54.1%
1日平均	35.2%	79.1%	100%	84.4%	61.2%

※駅中心半径500mエリアの各時間ごと滞在人口をカウント
 (例)エリアに1人の人が、1時間滞在していた場合は1人、
 30分滞在していた場合は0.5人として計算
 【出典：株式会社Agoop】

営業時間短縮要請の実効性確保に向けた取組み

緊急事態措置期間

(4月25日～5月31日) ※5月24日時点

大阪府内の飲食店約10万店舗を外観等
(20時～21時30分)で確認

①
○まん延防止等重点措置
期間中(4/5～24)の
協力要請の文書通知を
行った店舗
109店舗(大阪市内)

○4/25以降、外観等によ
り現地確認を行った結果、
営業中と思われる店舗
174店舗(大阪市外)

②
未協力確認
済店舗
(架電による
確認)

③
未協力店舗への
実地調査
(府による指導
・助言)

④
協力要請の
文書通知
108店舗

⑤
個別店舗へ
の要請
(事前通知)
46店舗

実地調査

⑥
個別店舗
への要請
(通知)
41店舗

法45条第3項に基づく命令の手続き

⑦
営業時間
短縮命令
(事前通知)
17店舗

実地調査

⑧
弁明の機
会の付与
(2W)
17店舗
※うち1店舗は要
請に応じる旨回答

⑨
営業時間
短縮命令
(通知)

⑩
店舗への現地
確認(命令違
反の確認)

⑪
地方裁判
所へ通知
(過料)

法45条第2項に基づく要請の手続き

【現在の感染状況等】

- ◆ 緊急事態措置の開始（4月25日）以降、府民に対する不要不急の外出自粛要請や、飲食店や大規模商業施設等に対する休業要請など、厳しい措置を実施しており、5月に入ってから、新規報告数も減少傾向。
- ◆ しかし、重症病床及び軽症中等症病床含む病床占有率はいずれもステージⅣの目安を大きく超える厳しい状況であり、今後も、医療提供体制のひっ迫は継続する見込み。
- ◆ 重症病床占有率が十分に低下していない中で、緊急事態宣言を解除すれば、再び感染者の増加を招き、重症病床のひっ迫を加速させることから、緊急事態宣言の延長は必要。

指標（抜粋）		ステージⅣ 目安	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	ステージⅣ 目安の状況
医療提供 体制等の負荷	確保病床の占有率	50%以上	72.6%	71.0%	69.4%	67.3%	68.2%	●
	入院率	25%以下	14.1%	14.2%	14.6%	15.2%	16.4%	●
	重症病床の占有率	50%以上	63.6%	60.9%	59.8%	58.9%	56.3%	●
	人口10万人あたり療養者数	30人以上	156.21	151.12	144.09	133.77	125.72	●
感染の状況	陽性率 1週間平均	10%以上	3.9%	4.0%	3.7%	3.4%	3.2%	○
	週・人口10万人あたり新規報告数	25人以上	43.66	41.84	37.54	33.61	31.73	●
	感染経路不明割合 1週間平均	50%以上	55.1%	56.0%	54.7%	55.0%	56.1%	●

（現在、5月31日までとなっている）緊急事態措置を実施すべき期間の延長を国に要請する

【参考】緊急事態宣言解除の考え方（5/21 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針より抜粋）

国内での感染及び医療提供体制・公衆衛生体制のひっ迫の状況（特に、緊急事態措置区域が、分科会提言におけるステージⅢ相当の対策が必要な地域になっているか等）を踏まえて、政府対策本部長が基本的対処方針分科会の意見を十分踏まえた上で、変異株が拡大する中で、より慎重に総合的に判断する。なお、緊急事態宣言の解除後の対策の緩和については段階的に行い、必要な対策はステージⅡ相当以下に下がるまで続ける。

専門家のご意見（専門家会議・朝野座長）

データの解釈については、大阪府の見解とおおむね同じである。そこで、それ以外の気づきと意見を述べる。

○ 感染状況

- ・ 資料 1-1 の 7 ページにあるように、人口 10 万人あたりの 1 週間の新規陽性者数は、未だステージ 4 ながら、全国で 9 番目（5 月 24 日現在）まで改善してきている。
- ・ 資料 1-1 の 15 ページから 17 ページにかけてのデータから、第 4 波では大阪市内が大阪市内外よりも人口 10 万人あたりの 1 週間の新規感染者が約 2 倍弱多く、年齢層別には 20 代と 30 代の市内外の感染者数の違いが、この原因になっていると考えられる。したがって、第 4 波では大阪市内の 20 代、30 代の若い世代の感染者が流行の中心になっている。
- ・ また、資料 1-1 の 34 ページから、会食と共に職場における人との接触が感染契機となっており、職場での感染対策の重要性が示されている。
- ・ このまま減少が続けば、今月末には新規検査陽性者数は 200 人/日に近づき、ステージ III も視野に入る。

○ 医療提供体制

- ・ 入院病床も、医療機関の努力で積み増しができ、重症患者を当初の確保病床より 200 床以上増床して診療できたことは、協力していただいた軽症・中等症病院を含めた医療機関に尊敬と感謝の念しかない。医療現場の実感としては困難を乗り越えた驚異的な危機対応を行っている。
- ・ 重症病床については後に述べるが、一般診療も含めて未だひっ迫状態が続いている。
- ・ 自宅療養者が多いことは、施設として用意したホテルの利用率と合わせ、患者搬送やロジの強化および人員の増員が今後の課題として残っている。
- ・ さまざまな事情はあると思うが、検査陽性者が増えた段階では疫学調査よりもまず療養場所の確保と搬送を優先すべきと考える。

○ まん延防止等重点措置、第 3 回目の緊急事態宣言の効果

- ・ 資料 1-1 の 18 ページ、大阪府の推定感染日別の感染者数の推移から、まん延防止等重点措置を開始した 4 月 5 日から、感染者数の増加が抑制され、緊急事態宣言の出た 4 月 25 日から減少に転じている。このことから、まん延防止等重点措置は感染者の増加の抑制に、緊急事態宣言は減少に寄与した可能性が考えられる。
- ・ これらの感染者の減少は、資料 1-1 の 12 ページの人流とも相関する。
- ・ まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の要請時期について、府がまん延防止等重点措置を国に要請することを検討していた 3 月 28 日には人口 10 万人あたり 1 週間の新規陽性患者数は 20.4 であり、ステージ III 相当であった。実際に対策本部会議で要請を決定した 3 月 31

日において、28.6であり、ステージIV相当となっていた。重点措置が実施された4月5日には43.8と上昇し、緊急事態宣言を要請した4月20日には88.5まで上昇していた。

- ・ 要請の判断から実施までのタイムラグの存在、その間の感染者の増加スピードなどを考慮して、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置の要請のタイミングは今後の課題である。
- ・ 少なくとも、他の都道府県の状況と合わせ、大阪府のような都市部においては、感染者増加のフェーズにおける地域限定のまん延防止等重点措置の効果は弱いと考えられる。
- ・ これまで感染者の減少に有効であった飲食店の時短だけでは不十分で、大規模施設やイベントの制限で減少に転じたことは感染力を強めた変異株の影響の可能性がある。

○ 医療提供体制の状況を踏まえた緊急事態宣言の継続の可否

- ・ 資料1-4の2ページにあるように「次の感染拡大に至る前に、医療提供体制への負荷を十分に減らしておくことが必要」であることに賛同する。
- ・ 重症患者用の病床数が5月24日現在348床確保されているが、この病床数は通常診療を犠牲にしながらの病床確保数である。
- ・ 大阪府で救急や手術、院内重症患者の集中治療を十全に行いながら、コロナ診療も並行して行うための病床数は確保病床224床前後と考えられるため、未だ病床のひっ迫は通常診療に大きな影響を及ぼしている。
- ・ 緊急事態宣言の段階的な解除の議論のスタートは、すべての新規重症患者が重症専用病床に入院し、かつ通常医療も可能な重症病床224床になったときであると考えられる。(解除の目安ではなく、対策の緩和の議論開始の目安)

○ 緊急事態宣言解除に向けた今後の考え方

- ・ 緊急事態宣言を延長する場合、その期間にやるべきこととして、感染者増加の予兆の探知や先制攻撃的な流行抑止の対策の準備と考える。
- ・ リバウンドを抑制する感染者数の基準はなく、いつでもリバウンドしうると考えられる。したがって、レベルIIであっても前回同様リバウンドが起これば、第5波は避けられない。
- ・ そこで、重要なことは、リバウンドの予兆の早期の探知と対策である。これについては、大阪府の見張り番指標等を活かして、アラートがなったときに“空振り”でもよいから対策を執ることが必要と考える。
- ・ また、今回の第4波は、第1波と極めてよく似た流行の波形をとっている。これまでの経験から、人の集まる時期に流行の引き金がかかることがほぼ確実であるため、次の波は6月末から8月にかけてやってくる。これに対しては、これまでのように感染者数が増加してから対策を行うのではなく、先制攻撃的に対策を立てて臨むべきである。
- ・ 早期の流行の波の予兆の探知と、波の襲来を予想しての先制攻撃的な対策を合わせて検討していただきたい。
- ・ 加えて、ワクチンの迅速な接種とインド株を含めた変異株のスクリーニング体制の強化が必要である。